永久保存
　祕書錄
　例規錄
　庶務錄甲編
　事業錄甲編
　會計錄甲編
二十年保存
　庶務錄乙編
　事業錄乙編
　會計錄乙編
五年保存
　庶務錄丙編
　事業錄丙編
　會計錄丙編

第五條　公文書類ノ保存期限ノ區別及編纂簿册ニ編綴スヘキ公文書類ノ種別ハ別表ニ依ル但シ同類ニ屬スル多數ノ文書アルトキハ地方部局長ハ適宜之カ細類ヲ設ケ尙地方部局ニ在リテハ本廳及各支部局毎ニ類別編收スルコトヲ得

第六條　編纂簿册ハ適宜ノ厚サトシ册首ニ件名目錄ヲ添付スヘシ

第七條　公文書類ニ附屬スル圖表其ノ他ノ書類ニシテ本書類ニ合綴シ難キモノニ在リテハ之ヲ別册トナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本書類ノ件名目錄ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八條　土地物件ノ貸借其ノ他重要ナル契約書類及後日返還スヘキ證書類ハ公文書類中ニ編綴セス別ニ之ヲ保管スヘシ但シ後日返還スヘキ證書類ニ在リテハ其ノ寫書ヲ公文ニ添付スヘシ

第九條　保存期限ハ一件書類ノ首端及編纂簿册ノ表紙ニ之ヲ記載スヘシ

第十條　地方支部局ニ於テ前年中完結シタル公文書類ノ編纂ヲ了リタルトキハ四月三十日限リ其ノ編纂簿册名及各簿册ニ編綴シタル件數ヲ地方部局長ニ申報スヘシ

地方部局長ハ前項ノ報告ニ基キ五月三十一日限リ地方部局及各支部局毎ニ類別シタル編纂簿册名及各簿册ニ編綴シタル件數ヲ長官ニ申報スヘシ（本項ニ依ル報告ハ昭和六年5監第七九九ノ五號監理課長依命通牒ニ依リ同年ヨリ廢止）

第十一條　保存期限ヲ經過シタル公文書類ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ書類ノ編纂年度及編纂簿册名ヲ具シ長官ニ上申スヘシ

第十二條　廢棄シタル公文書類ト雖其ノ件名目錄ハ永久之ヲ保存スヘシ

第十三條　本規程ニ關スル細則ハ各地方部局長之ヲ定ムヘシ

附　則

公文書類ニ關聯スル帳簿及圖表類ノ保存期限ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外各其ノ關聯スル所ノ書類ニ從フ（別表）

保存期限	簿册名	類	摘	要
永久				
	祕書錄			

進退及身分		
	復命書	以上各類ニ屬セサル事ノ機密ニ屬スルモノ
	雜件	
例規錄		
	官規	
	事業	
	會計	
庶務錄甲編		
	統計	統計其ノ他直接事業ニ關セサル調査ニ關スルモノ
	雜件	管轄區域ノ廢置變更、官職用印章、一時手當金ノ給與、公文書類ノ廢棄及引繼、補助賜金其ノ他庶務ニ屬スル事ノ重要ナルモノ又ハ他日記錄ノ資トナルヘキモノ
事業錄甲編		
	事業設計	施業案及重要ナル諸事業設計ニ關スルモノ
	事業豫定	各年度諸事業豫定ニ關スルモノ
	事業報告	處分及實行報告等ニ關スルモノ
	踏査及測量	
	土地拂下	土地整理ニ關スルモノ
	地籍異動	土地ノ買上編入及除却、保安林ノ編入解除其ノ他土地臺帳ノ異動ニ關スルモノ
	建物異動	建物ノ購入及賣却其ノ他建物臺帳ノ異動ニ關スルモノ
	土地委託	
	年期貸地處分	部分林ヲ含ム
	年期產物處分	
	試驗及調查	直接事業ニ關スル試驗及調查ニ關スルモノ
	訴訟及請願	
	雜件	以上各類ニ屬セサル事ノ重要ナルモノ
會計錄甲編		
	豫算及決算	豫算書及決算書
二十年		
庶務錄乙編		
	職務	業務ノ監督及會議、事務ノ開始及引繼ニ關スルモノ
	給與	死傷罹災救助例ニ依ル諸手當其ノ他ノ給與ニ關スルモノ
	文書	圖書ノ編纂、翻譯、出版等ニ關スルモノ

	雜　件	廳舍ノ移轉及引繼其ノ他甲編及丙編ニ屬セサルモノ	
事業錄乙編			
	造林事業		
	伐木事業	伐木、造材及運材事業ニ關スルモノ	
	製品事業		
	貯材事業		
	營農事業	農產物處分ヲ含ム	
	水產事業	水產物處分ヲ含ム	
	土木事業	土木及營繕事業ニ關スルモノ	
	木竹處分	一時ノ拂下ニ係ル木竹及造材處分ニ關スルモノ	
	雜種物處分	一時ノ拂下ニ係ル雜種物處分ニ關スルモノ	
	製品處分		
	貯材處分		
	一時貸地處分		
	被害及警察		
會計錄乙編	雜　件	物件ノ貸借、產物ノ收得及寄捐其ノ他甲編及丙編ニ屬セサルモノ	

	收入及支出	收支及報告傳票等ヲ含ム	
	契約及物件	請負賣買其ノ他ノ契約竝主管物品ノ購入、修理、保管及處分ニ關スルモノ	
	審査及勘査		
五年	雜　件	廳舍及官舍ノ貸借其ノ他甲編及丙編ニ屬セサルモノ	
庶務錄丙編			
	職　務	職務ニ關スル願届及報告ニ關スルモノ	
事業錄丙編	雜　件	林務講習、廳舍官舍ノ設備及取締、文書處理ノ濟否調査、物件ノ受授及配付、文書ノ訂正、進達ノ督促其ノ他庶務ニ屬スル事ノ輕易ナルモノ	
	雜　件	鳥獸驅除及輕易ノ照復等ニ關スルモノ	
會計錄丙編			
	豫算及決算	豫算書及決算書以外ノ豫算及決算ニ關スルモノ	
	契約及物件	廳用ニ屬スル物品ノ購入、修理及保管、處分、車馬及廳用人夫ノ雇入等ニ關スルモノ	
	雜　件	會計ニ屬スル事ノ輕易ナルモノ	

○官廳出版物出版條例ニ據リ取扱ノ件

明治二十五年三月廿二日第七三六ノ二號主事ヨリ各廳所長ヘ通知

官廳出版物ノ義ニ付内務大臣ヨリ官内大臣ヘ別紙ノ通通牒有之候ニ付爲御心得此段及御通知候也

（別紙）明治二十五年三月十七日祕甲第一八號

官廳出版物ノ中令達告示ヲ爲スモノヲ除クノ外自今總テ出版條例第四條ニ據ルコトニ取扱候條此段及通牒候也

但其製本中ニ印刷出版ノ年月日出版ノ日付ハ當省ヘ製本送付ノ日印刷ノ日付ハ同日若クハ其ノ以前ノ日官廳名印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ仍ホ書肆ニ付シテ發行セシメタルトキハ該書肆ヲ發行者トシテ其氏名住所ヲモ記載可有之候也

追テ本文ノ趣各所轄官衙ヘ御通達相成度此段申添候也

●監理課長代決ノ件

昭和五年三月二十九日監第三五四號長官ヘ伺定、同日同號監理課長ヨリ本局各課長ヘ通知

長官ノ決判ヲ受クヘキ公文書類ニシテ長官不在ノ場合ハ緊急ヲ要スルモノ或ハ重要ナラサルモノニ限リ監理課長ヲ以テ代決シ進行セシメ後閲スルコトニ定メラル

○宮内省省報發刊ノ件

明治四十三年九月二日文第一一二號文書課長ヨリ長官ヘ照會

今般本課ニ於テ宮内省省報ヲ發刊シ別紙説明書ノ如キ欄ヲ設ケ毎月一回配付ノ筈ニ有之九月分ヲ第一號トシテ十月上旬發行ノ見込ニ候間自今御主管ノ事務ニシテ該省報ニ掲載スルヲ便宜ト認メラル、事項有之候ハハ其都度本課ヘ御報告相成候樣致度

（別紙）

省報各欄ノ説明

○達ノ欄

皇室令、告示、省令ノ外官報ニ掲載セサル達ハ省中一般ニ達スルモノト或ル部局ニ限リ達スルモノトノ別ナク其全部ヲ掲載スルヲ例トス

但シ場合ニヨリ大臣官房各課長ノ見込ヲ以テ掲載セサルモノアルヘシ

○訓令ノ欄

達ニ同シク其全部ヲ掲載スルモノトス

但シ場合ニヨリ大臣官房各課長ノ見込ヲ以テ掲載セサルモノアルヘシ

○伺、指令ノ欄

省中一般ニ知ラシメ置キ然ルヘキモノアリタルトキ掲載スルモノトス

○敍任及辭令ノ欄

宮内高等官敍任辭令ハ官報ニ掲載セルモノト雖モ重テ此ノ省報ニ掲載ス

判任官以下雇等外ノ敍任及辭令ヲ掲載ス

○彙報ノ欄

彙報ノ欄ハ之ヲ祭典、褒賞、戒飭、恩賜、褫生、雜事ノ六項ニ分チ官報ニ掲載セサルモノニシテ省中ニ知ラシメ置ク必要ナルモノアリタルトキ此ノ省報ニ掲載スルモノトス

但シ官報ニ掲載セシ事項ト雖モ更ニ此ノ省報ニ掲載スルヲ便宜トスルモノハ重テ掲載スルコトアルヘシ

雜事ノ項ニハ省中官吏ノ心得置キ然ルヘキモノ（例令ハ各部局長官（御賜額「陸省」、湯ノ類、幕巻」）ト認メタル諸般ノ事項ヲ掲載スルモノトス

皇族方ノ御動作ハ官報ニ掲載セルモノト雖モ重テ本項ニ掲載スルモノトス

○各國帝室ニ關スル記事

各國帝王ノ御動作及各國帝室ト其臣民トノ間ニ於ケル關係ノ重要ナルモノアルトキハ抄譯シテ此ノ省報ニ掲載スルモノトス

（備考）同年九月八日第五二〇七／二號ヲ以テ庶務課ヨリ本文寫及原稿廻付方ヲ各課ヘ通牒同月十四日第五二〇七ノ三號ヲ以テ主事ヨリ同樣地方部局ヘ通牒

●支局及同出張所印章ノ件

大正十年十月二十九日第三六六五號長官事務取扱達

（改正）大正十四年監第七八九號

支局及同出張所ニ於テ使用スヘキ印章別紙雛形ノ通定ム

但官印ニ異動ヲ生シタル節ハ其ノ都度報告スヘシ

（別紙）

支局印	帝室林野局何支局印	支局長職印	支局ノ出張所印
壹寸	帝室林野局何支局印	七分	帝室林野局何支局長印
六分	帝室林野局何支局出張所長印	八分	帝室林野局何支局出張所印

支局ノ出張所長職印　支局ノ課印

六分	帝室林野局何支局何出張所長印
八分	帝室林野局何支局監理課印

會計事務ニ使用スル官印（第十二類會計一通規參照）

●御料地踏査員官印使用ノ件

明治四十一年三月四日第一一七二號主事ヨリ各支廳ヘ通知

御料地境界踏査員主任ノ業務ニ關スル公書簿ニハ相當ノ官印（方曲尺六分官氏名彫刻）ヲ使用候樣致度

追テ御料地境界標識改鑄ニ關スル公書簿ニモ官印ヲ用ヰル事ト御承知相成度

（備考）本局境界測量員ニシテ踏査員ト共ニ御料地境界簿ヘ署名調印ヲ爲ス場合ニモ官印使用ノ事ニ伺定

二　統　計

●統計材料様式

大正七年六月廿八日第一八五〇號長官達

（改正）大正十年監第四六七〇號

帝室林野局統計材料別冊樣式ニ據リ調製シ翌年五月末日迄ニ差出スヘシ

從前ノ統計材料樣式ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス（別冊略ス）

統計材料樣式目次

一、木竹處分高
二、造材處分高
三、雜種物處分高
四、貸地處分高
五、製品處分高
六、水産物處分高
七、農産物處分高並營農事業
八、殖林事業
九、苗圃事業
十、造材運材事業
十一、製品事業
十二、産物貯藏事業
十三、水産事業
十四、營繕事業
十五、御料地被害
十六、人夫使役人員並賃金

●農林省統計表掲載資料報告ニ關スル件（要旨）

昭和二年三月十六日監第二六八ノ二號次長ヨリ各支局長林業試驗場長ヘ通牒

標題ノ件ニ關シテハ曩ニ大正十一年七月三十一日附第四二九二ノ三號通牒ノ樣式ニ據リ調査報告相成居リ候處今般右樣式改正ノ趣ヲ以テ別紙寫ノ通農林大臣官房統計課長ヨリ依頼越候ニ付テハ該樣式ニ據リ取調ノ上所定ノ期日マテニ送付越相成度

（別紙）

統計第七一號

昭和二年三月九日

農林大臣官房統計課長

帝室林野局長官殿

御料林野統計報告ニ關シ依頼ノ件

農林省統計表掲載資料トシテ御料林野ニ就キ毎年御調査相煩居候處大正十四年十月二十八日農林省令第二十五號ヲ以テ農林省統計報告規則改正ノ結果大正十五年昭和元年中ノ事實ヨリ別紙樣式ニ依リ御調査ノ上御送付相煩度此段及御依頼候也

追而大正十三年十月二十日統計第一〇四〇號通牒ニ依ル御料林伐採面積及開墾面積ニ關スル件中伐採面積ハ御料林伐採表ニ加ヘ林野開墾面積ハ廢止セラレ大正十五年度分ヨリ調査ヲ要セサルモノニ付御了知相成度

尙當課ニ於テ處理上ノ都合モ有之候條本調査ハ毎年九月末日頃迄ニ貴局ニ於テ御取纏ノ上御送付相煩度申添候

以上

（様式）第一　御料林野面積　昭和何年末現在

	立木地 針葉樹林	立木地 闊葉樹林	立木地 針闊混淆樹林	立木地 竹林	立木地 計	無立木地	合計
何縣	段	段	段	段	段	段	段
〃							
〃							
合計							

（注意）
一、本表ハ昭和二年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後三年毎ニ之ヲ調査スルコト
二、林野面積ハ帳簿面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス現在樹林狀態ヲ爲セル箇所ハ之ヲ立木地トシ然ラサル箇所ハ之ヲ無立木地トシ各其ノ實際面積ヲ調査スルコト

第二　造林用苗木　昭和何年末現在

	苗圃面積	苗木數 スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	サハラ	ヒバ	クス	カシ	ケヤキ	クリ	クヌギ	其ノ他	計
何支局	坪	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
〃														
〃														
〃														
合計														

（注意）
一、苗圃面積ハ小苗山行等凡テ苗木栽培面積（畦畔ヲ含ム）ヲ調査スルコト
二、苗木ハ次年ニ於テ山地移植ニ適スルモノ（山行）ノミヲ調査スルコト

第三　御料林野人工造林　昭和何年

種別		何道府縣 新植 面積	新植 數量
針葉樹	スギ	段	本
針葉樹	ヒノキ		
針葉樹	マツ		
針葉樹	カラマツ		
針葉樹	サハラ		
針葉樹	ヒバ		
針葉樹	其ノ他		
針葉樹	計		
闊葉樹	クス		
闊葉樹	カシ		
闊葉樹	ケヤキ		
闊葉樹	クリ		
闊葉樹	クヌギ		
闊葉樹	其ノ他		
闊葉樹	計		
合計			
竹	マダケ		
竹	ハチク		
竹	モウソウ		
竹	其ノ他		
竹	計		

（注意）
一、播種シタルモノハ數量ヲ別記シ升ヲ以テ之ヲ表示スルコト但シ面積ハ植付ノモノニ之ヲ合算スルコト
二、混淆植栽ノモノハ各樹種ニ區別シ相當欄ニ之ヲ記載スルコト

第四　御料林野補植　昭和何年

所管	補植本數
何支局	本
〃	本
〃	本
〃	本
合計	本

（注意）

一、本表ニハ人工造林ノ補植タルト天然造林ノ補植タルトヲ問ハス凡テ計上スルコト

第五　御料林野天然造林

昭和何年

道府縣			何縣	何縣	何縣	何縣	何縣	合計
針葉樹林	伐採跡地	段						
	無立木地	段						
	計	段						
濶葉樹林	伐採跡地	段						
	無立木地	段						
	計	段						
針濶混淆樹林	伐採跡地	段						
	無立木地	段						
	計	段						
計	伐採跡地	段						
	無立木地	段						
	計	段						

（注意）

一、本表ハ下種又ハ萠芽ニ依リ成林ノ見込確實ナル個所ヲ當該年ニ於テ調査スルコト

一旦報告シタル面積中見込ヲ誤リ成林セサルモノアルコトヲ發見セルトキハ其ノ誤謬ニ係ル面積及報告年次ヲ備考欄ニ記載スルコト

二、伐採跡地ノ天然造林トハ當該年伐採セシ個所中天然造林ニ附シ將來成林ノ見込確實ナル個所ヲ謂ヒ無立木地ノ天然造林トハ右以外ノ地ニ於テ防火線設置撓キ起シ其ノ他ニヨリ成林ノ見込確實トナリタル個所ヲ謂フ

二、補播ハ補植ニ準シ其ノ數量ヲ別記シ升ヲ以テ之ヲ表示スルコト

第六　御料林伐採　昭和何年

道府縣	種別	伐採面積 段	何用材 針葉樹林	濶葉樹林	針濶混淆樹林	計	薪炭材	竹材
何								

合計		數量	價格	圓
用針葉樹	スギ	石		
	ヒノキ			
	マツ			
	カラマツ			
	サハラ			
	ヒバ			
	ミヤマシラベ、トウヒ			
	ヒメコマツ、ゴヨウマツ、チョウセンマツ			
	ツガ、トガサハラ			
	エゾマツ、トドマツ			
	ビヤクシン、アララギ			
	其ノ他			
	計			
濶葉樹	クス			
	カシ			

材			
樹葉	ケヤキ		
	ツゲ		
	シホチ、ハリギリ、ヤチダモ		
	カヘデ、トチ		
	クルミ		
	カツラ		
	ホウノキ		
	サクラ、ミネバリ、ミヅメ、シラカバ		
	クリ		
	ナラ		
	カシハ		
	アベマキ、クヌギ		
	ブナ		
	ドロ、ヤマナラシ、イヌエノキ		
	キリ		
	其ノ他		
	計		

縣							
合計							
薪炭材	棚	圓					
竹材	マダケ	束					
	ハチク						
	モウソウ						
	其ノ他						
	計						

（注意）

一、點狀擇伐（拔伐）ノ面積ハ調査ヲ要セス但シ竹林ニ付テハ點狀擇伐セルモノト雖伐竹ノ占領面積ヲ計上スルコト

二、伐採面積中用材薪炭材ノ兩者ヲ包含スルトキハ各其ノ割合ニ依リ雙方ニ區分計上スルコト

三、薪炭以外ノ用途ニ充ツル木材ハ總テ用材ノ欄ニ之ヲ記載スルコト

四、用材トシテ伐採シタルモノノ枝條根株ニシテ薪炭用ニ供スルモノハ其ノ數量及價額ノミ薪炭材ノ欄ニ之ヲ記載スルコト

五、桐ニ付テハ林地以外ノモノヲモ調査スルコト但シ伐採ノ面積ハ調査ヲ要セス

六、數量ハ伐倒シタル儘ノ材積ヲ記載シ價額ハ山元相場（立木賣渡價額）ニ依ルコト

七、一石トハ尺角長サ十尺ニ相當スルモノ卽チ實積十立方尺ヲ謂ヒ一棚トハ長サ二尺ノモノヲ高サ五尺幅十尺ニ積立テタルモノ卽チ層積百立方尺ヲ謂フ（此ノ棚ノ層積ニハ間隙アルヲ以テ其ノ實積ハ三割ヲ減スルモノト看做シ一棚ハ用材ノ七石ニ相當スルモノトス）

第七　御料林野放牧

昭和何年九月末日現在

	面積	放牧頭數		
		牛	馬	其ノ他
何縣 立木地	段			
何縣 無立木地				
何縣 計				
何縣 立木地				
何縣 無立木地				
何縣 計				
合計 立木地				
合計 無立木地				
合計 計				

（注意）

一、本表ハ昭和二年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後三年毎ニ之ヲ調査スルコト

二、本表ハ牧場ノ目的ヲ有スルト否トニ拘ラス野飼スル爲ニ放牧セル場所ニ付テ調査スルコト

三、帳簿面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス現在樹林狀態ヲ爲セル個所ハ之ヲ立木地トシ然ラサル個所ハ之ヲ無立木地トシ各其ノ實際面積ヲ調査スルコト

四、路傍、畦畔、堤塘等牧野狀態ヲ爲ササル面積ハ之ヲ除クコト

五、立木地、無立木地ノ雙方ニ放牧シタル場合ニ在リテハ其ノ主ナル一方ニ記載スルコト

第八　御料林野被害

昭和何年

	被害面積	被害價額
何	段	圓
立木地 火災 失火		
立木地 火災 放火		
立木地 火災 其ノ他		
立木地 火災 計		
立木地 風害		
立木地 病蟲害		
立木地 水害		
立木地 雪害		
立木地 其ノ他		

縣								
合計	計							
無立木地	火災	失火						
		放火						
		其ノ他						
		計						
	水害							
	其ノ他							
	計							

（注意）

一、被害面積一町歩以上ノモノノミヲ調査スルコト但シ輕微ナル被害ハ調査ヲ要セス

二、被害面積欄ニハ災害ヲ被リタル木草ノ占領面積及地盤ノ被害面積ヲ記載シ兩者重複スル部分アラバ其ノ重複ニ係ル部分ノ面積ヲ控除スルコト

三、竹林ノ被害ハ立木地ノ欄ニ之ヲ合算スルコト

四、被害價額ハ災害ヲ受ケタル當時ノ現況ニ依リ被害前ノ價額ヨリ被害後ニ殘存スル價額ヲ控除シタルモノヲ記載スルコト但シ利用價カ費用價ニ滿タサル造林ニ付テハ費用價ヲ記載スルコト

立木地ノ被害價額ニハ立木地以外ノ地被物ノ被害價額ハ之ヲ算

入セサルコト
又地盤ノ損害ハ復舊工事ヲ必要トスルモノニ限リ被害當時ノ現狀ニ復舊スルニ要スヘキ費用ヲ見積リ合算スルコト

●御料林伐採面積取調方ノ件

（要旨）

大正七年六月四日第一四八三ノ二號主事ヨリ各支局長ヘ通牒

御料林伐採面積取調方ニ關シ農商務省山林局長ヨリ照會ニ付別記樣式ニ據リ毎年當該年度分ヲ翌年六月末日迄ニ取調越相成度

御料林伐採面積表　何年分

作業別	喬林					矮林					中林					雜合計				
府縣別	皆伐					擇伐														
	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反	町	反
總計																				

備考
一、主伐ノモノ全部ヲ計上スルモノトス
二、本樣式ニ依リ掲載シ難キモノハ適宜記入シ其旨附記スルコト

●家畜調査ニ關スル件（要旨）

昭和四年二月九日15監第九二七ノ二號次長ヨリ札幌支局長ヘ通牒

農林省統計資料ニ關シ別紙寫ノ通大臣官房文書課長ヨリ依頼申越居候條每年當該年度分ヲ翌年二月末日迄ニ御送付相成度

（別紙）

大正十五年九月二十日官發第五二三號大臣官房文書課長ヨリ長官ヘ依頼

農林省統計資料トシテ當省所管ニ係ル家畜ニ關シ每年御調査相煩居候處大正十五年中ノ事實ヨリ別紙變更ノ樣式ニ依リ御通報相煩度

第一　牛

年末現在					年内移動								
頭數計	生産			斃死									
	滿二年以上	滿一年以上滿二年未滿	滿一年未滿	滿二年以上		滿一年以上滿二年未滿		滿一年未滿		計			
	頭數	價額	一頭當價格	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額

大正　年

牝	頭	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
牡															
計															
備考															

（注意）
一、乳牛ヲモ調査ノコト
二、年内ニ産シ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ之ヲ記載ノコト
三、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載ノコト
但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入セサルコト

第二　馬

年末現在										年内移動									
	生産									斃死									
	明四歳以上		明三歳		明二歳		當歳		計	明四歳以上		明三歳		明二歳		當歳		計	
	和種																		
	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	
	雜種																		
	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭

大正　年

	洋種			計			備考
	牝	牡	計	牝	牡	計	

（注意）

一、和種トハ內地產ニシテ洋種ノ血液ヲ混セサルモノヲ謂フ但シ朝鮮及支那在來種等和種以外ノ東洋產ハ和種ノ中ニ之ヲ算入シ其旨備考欄ニ記載ノコト

二、雜種トハ和種ト洋種トノ血液相混シタルモノヲ謂フ

三、洋種トハ外國種ノ總稱ニシテ外國種間ノ雜種ヲモ含ム

四、年內ニ產シ且死亡シタルモノハ生產ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ之ヲ記載ノコト

五、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載ノコト但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入セサルコト

第三　豚

大正　年

	年末現在					年內移動			
	滿十箇月以上	滿十箇月未滿			頭數計	生產	斃死		
		頭數	價額	一頭當價格			滿十箇月以上	滿十箇月未滿	計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、年內ニ產シ且死亡シタルモノハ生產ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ之ヲ記載ノコト

二、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載ノコト但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入セサルコト

第四　緬羊

大正　年

	年末現在					年內移動			
	滿一年以上	滿一年未滿			頭數計	生產	斃死		
		頭數	價額	一頭當價格			滿一年以上	滿一年未滿	計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、年內ニ產シ且死亡シタルモノハ生產ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ之ヲ記載ノコト

二、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載ノコト但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入セサルコト

第五　山羊　　　　　　大正　　年

	年末現在 滿一年以上	年末現在 滿一年未滿 頭數	年末現在 滿一年未滿 價額	年末現在 一頭當價格	年末現在 頭數計	年內移動 生産	年內移動 斃死 滿一年以上	年內移動 斃死 滿一年未滿	年內移動 斃死 計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、年內ニ産シ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ之ヲ記載ノコト

二、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載ノコト但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入セサルコト

●府縣統計資料ニ關スル件

大正十四年九月二十六日監第一〇四六ノ二號局ヨリ御料地所在各道府縣ヘ通知

（要旨）

從來貴管内御料地ニ對スル統計資料ニ關シテハ當局ニ於テ調査ノ上回答致來リ候處事務ノ關係上地方部局ヲシテ直接調査回答セシムルヲ简捷ト認メ候ニ付爾今右ニ關シテハ當局地方部局ヘ直接御照會相成候樣致度

第六類　儀禮、服制

第六類　儀禮、服制

○新年、紀元節、天長節及明治節ニ賀表又ハ言上書奉呈ノ件

昭和二年十二月二十日
宮内省告示第三十一號

（改正）　昭和三年宮内省告示第三十號

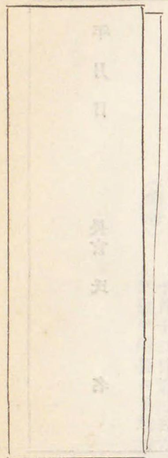
新年ニ拜賀又ハ參賀スヘキ者及紀元節天長節又ハ明治節ニ參賀スヘキ者地方ニ在ルトキハ賀表ヲ奉呈スヘシ新年ニ青山東御所ニ參賀スヘキ者地方ニ在ルトキ亦同シ

判任官及判任待遇者ニ付テハ各廳ノ長官ニ於テ其參賀ヲ受ケ言上書ヲ調製シテ之ヲ宮中ニ奉呈スヘシ

賀表及言上書ハ左ノ樣式ニ依リ宮中ニ奉呈スル賀表及言上書ハ式部職ニ、青山東御所ニ奉呈スル賀表ハ皇太后宮職ニ宛テ之ヲ送付スヘシ

樣式

賀表　連名ヲ以テスルモ妨ナシ



横二ツ折

折目

謹ミテ
新年ヲ賀シ奉ル
（紀元節）
（天長節）
（明治節）

年　月　日　官位勳功爵　氏　名

折目

言上書

新年
（紀元節）
（天長節）
（明治節）
ニ付判任官判任待遇者一同ノ
參賀相受此段言上候也

年月日	長官氏名

料紙ハ大廣奉書紙トス但シ美濃紙ヲ代用スルモ妨ナシ

○新年宴會等ニ付下賜ノ酒饌料ニ關スル件

大正二年十二月二十七日訓令第五十一號

第一條　新年宴會紀元節天長節竝皇后陛下御誕辰ニ付キ下賜ノ酒饌料ハ新年宴會紀元節天長節祝日及皇后陛下御誕辰ノ各前日ニ於テ賜與スヘシ

前項ノ酒饌料ハ賜與ノ日ニ於テ新年宴會紀元節又ハ天長節ニ付キ賜フモノニ在リテハ通常會計經常部歲出豫算中宮殿費ノ款爨宴費ノ項賜饌費ノ目ヨリ皇后陛下御誕辰ニ付キ賜フモノニ在リテハ通常會計經常部歲出豫算中宮廷費ノ款御費ノ項御宴費ノ目ヨリ之ヲ支出スヘシ

第二條　地方ニ在勤スル者ニ賜フヘキ酒饌料ニ付テハ距離ノ遠近ヲ參酌シテ特ニ左ノ期間內ニ之ヲ支出スヘシ

一　新年宴會ニ付キ下賜ノ酒饌料ハ前年十二月二十日ヨリ一月四日マテ但シ豫算決定前ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　紀元節ニ付キ下賜ノ酒饌料ハ二月一日ヨリ二月十日マテ

三　天長節ニ付キ下賜ノ酒饌料ハ十月二十日ヨリ十月三十日マテ

第三條　前二條ニ定メタル賜與又ハ支出ノ期日ニシテ休日ニ相當スルトキハ各其ノ前日トス

○新年紀元節天長節宴會ニ當リ酒饌又ハ代料下賜ノ件

大正十三年十月十四日式部職ヨリ通知ニ付
同十月二十一日監第八八九ノ二號ヲ以テ次長ヨリ各支局長及林業試驗場長ヘ通知

新年紀元節天長節宴會ニ當リ在京宮內高等官一等以下勅任待遇以上ニシテ宴會ニ召サレサル一班及地方在勤公務旅行中ノ宮內勅任官同待遇奏任官同待遇ヘ下賜相成候酒饌料ハ自今總テ賜ハラス候但在京宮內高等官一等以下勅任待遇以上ニシテ宴會ニ召サレサル一班（他廳ヨリ兼任兼務ノ向共ヘ）ヘハ宮內奏任官同待遇同樣本省ニ於テ酒饌下賜相成候尙地方（京都ヲ除ク）在勤及公務旅行中（供奉員ヲ除ク）ノ宮內勅任官同待遇奏任官同待遇ヘハ代料下賜相成候

追テ人名ハ從前ノ通差出有之度候尤モ地方在勤者ニ對スル人名ハ直接大膳寮ヘ送付可有之候

○廢官免官者ニ酒饌料下賜ノ件

明治二十九年十月九日第三五六〇號大臣ヘ伺定

廢官免官ノ者命ヲ承ケ事務引繼殘務取調等ノ爲メ公務ニ從事候場合ニ於テ

天長節其他酒饌料下賜ノ節ハ左ノ區別ニ依リ賜與相成可然哉

一　華族及從六位勳六等以上ノ者

右奏任ノ分

一　正七位勳七等以下ノ有位帶勳者

右判任ノ分

一　無位無勳ノ者

右等外傭ノ分

（備考）

十月十三日第三五六〇ノ二號ヲ以テ局長ヨリ地方部局ヘ達

○新年、紀元節、天長節並皇后陛下御誕辰日ニ酒肴料ヲ下賜セラル、、判任官以下ノ範圍並取扱振ノ件

大正六年六月二十七日第一六八八ノ二號主事ヨリ支局長事務所長ヘ通牒

新年紀元節天長節宴會ノ節酒肴料下賜可相成宮內判任官以下ノ範圍並取扱振決定ノ旨別紙ノ通式部職ヨリ通牒有之候

（別紙）

新年紀元節天長節宴會並皇后陛下御誕辰ノ節酒肴料下賜可相成宮內判任官以下ノ範圍並取扱振ノ儀今般左記ノ通決定相成候條此段及通牒候也

大正六年六月二十二日　式部職

省中各部局御中

第一　範圍

一、宮內判任官同待遇以上他廳ヨリ兼任兼務ノ向共雇員傭人

第二　取扱振

一、前項範圍內忌引中ノ者ヲ除ク

但シ皇后陛下御誕辰ノ節ニハ休職者ヲモ除ク

○明治節宴會ノ節酒饌又ハ代料及酒肴料下賜ノ件

昭和三年九月十七日式部職通牒

曩ニ明治節制定相成候ニ付同宴會ノ節左記ノ者ヘ新年紀元節天長節宴會竝ニ皇后陛下御誕辰ノ節ト同樣酒饌又ハ代料及酒肴料下賜相成候

追テ其ノ人名ハ十月十日迄ニ差出有之度候

記

一　在京宮内高等官一等以下勅任待遇以上ニシテ宴會ニ召サレサル向竝ニ宮内奏任官同待遇ニハ酒饌又ハ代料

一　宮内判任官以下及當省部内ノ囑託定傭夫其ノ他無待遇ノ常勤者ニハ酒肴料

●酒肴料ニ關スル受領者人名書及通知日限ノ件

大正三年一月十二日2第五八九一ノ二號主事ヨリ支廳、出張所ヘ通知

新年宴會紀元節天長節（東京支廳及豐竝皇后陛下御誕辰）ニ付下賜可相成酒肴料ノ義ハ自今別紙雛形ノ各受領者人名書ニ右總代者ノ官氏名書相添ヘ左記ノ日限迄ニ宮内省大膳寮（直接御通知相成度追テ人名異動ノ節モ同樣ノ義ニ有之（東京支廳及豐住且爲替振出張所以外ヘ替拂又ハ送金拂ノ區別ヲ仕譯書ニ記載相成度候）（東京支廳ヘ　豐住陛下御誕辰ノ節ハ在京員ニ限リ式部職ヘ御通知相成度候）（出張所ヘ且皇后陛下御誕辰ノ節ハ式部職ヘ御通知相成度候）

記

一　新年宴會　　前年十二月十七日迄

一　紀元節　　一月二十八日迄

一　天長節　　十月十五日迄

○無待遇ノ常勤者ヘ酒肴料下賜ノ件

大正十三年六月二十六日監第二九四ノ二號次長ヨリ各支局長、林業試驗場長ヘ通牒

新年紀元節天長節宴會等ノ節囑託員等無待遇ノ常勤者ニ對シ自今酒肴料下賜可相成旨別紙ノ通式部職ヨリ通牒有之候ニ付其資格ニ付テハ支局（場）長ニ於テ可然銓衡相成度

（別紙）　大正十三年六月二十四日式部職通牒

新年紀元節天長節宴會竝皇后陛下御誕辰ノ節當省部内（侍從武官府ニ含ム）ノ囑託、定傭夫其他無待遇ノ常勤者（雇用期間中或時期ニ發テノミ實務ニ從事スル者ハ除ク）ヘ自今酒肴料下賜相成候

追テ資格別下賜額ハ左記ノ通リトシ其資格ニ付テハ各部局長官ニ於テ銓衡相成度但シ勅任又ハ奏任ニ相當スヘキ者ニ對シテハ式部長官ニ合議ノ上宮内大臣ニ經伺有之度尚忌引中ノ者ニ對シテハ賜ハラス且又皇后陛下御誕辰ノ節東京在勤高等官扱公務旅行ノ場合及地方在勤ノ高等官扱以下ヘハ賜ハラス候

記

勅任扱　金參圓
奏任扱　金貳圓
判任扱　金壹圓五拾錢
雇員扱　金壹圓
傭人扱　金七拾五錢

申立書式及期日等ハ從前ノ例ニ有之候

○宮内職員制服著用ノ場合ニ於ケル敬禮規程

明治四十四年十二月二十五日訓令第二十二號

（改正）　大正四年訓令第三十三號、七年同第五號、同第二十號、十年同第七號、昭和二年同第二號、三年同第十四號

第一條　宮内職員ニシテ宮内官制服令、大正十三年宮内省令第九號及判任待遇宮内職員制服規程竝經伺ニ依ル制服著用ノ場合ニ於ケル敬禮ハ祭服著用ノ場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　天皇陛下皇后陛下及皇太后陛下ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

第三條　室内ニ於ケル最敬禮ハ正面シテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ禮ノ兩側ニ垂下シ兩肢ニ接著セシメ正面ニ注目シテ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ徐ロニ舊ニ復スヘシ帽アルトキハ右手ヲ以テ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右肢ニ對セシメ舟形帽ナルトキハ左手ヲ垂直ニシ其ノ指ヲ以テ之ヲ抱ヘ頂ヲ上ニシ側章ヲ外ニシ反對側ヲ左肢ニ對セシムヘシ帶劍スルトキハ宮内高等官供奉服皇宮警察官制服及樂服ノ場合ニ限リ劍ノ柄ヲ後ニシ左手ヲ以テ兩鐶ノ間ヲ握ルヘシ但シ短劍ノ場合ハ左手ヲ垂下シテ左肢ニ接著セシムヘシ

第四條　室内ニ於ケル敬禮ハ姿勢ヲ整ヘ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾クヘシ

第五條　室外ニ於ケル最敬禮ハ直立シテ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シテ左肢ニ接著セシメ右手ヲ擧ケ其ノ指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右側舟形帽ナルトキハ舟形ノ中央ヨリ稍前方ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ頭ヲ向ケテ注目スヘシ

帶劍スルトキハ劍ノ柄ヲ後ニシ左手ヲ以テ鐶部ヲ握ルヘシ但シ宮内官大禮服及小禮服著用ノ場合竝短劍佩用ノ場合ニ於テハ左手ヲ垂下シテ左肢ニ接著セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ乘馬ノトキハ左手ヲ以テ手綱及鞭ヲ執ルヘシ

第六條　室外ニ於ケル敬禮ハ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ擧ケ其ノ指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右側ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目スヘシ但シ乘馬ノトキハ左手ヲ以テ手綱及鞭ヲ執ルヘシ

第七條　行幸行啓ニ供奉シ又ハ皇族ニ隨從スル場合ニ在リテハ其ノ間

他ノ者ニ對シテ敬禮ヲ爲シ又ハ敬禮ニ應スルコトナシ王公族ニ隨從スル場合亦同シ

第八條　宮內技手宮內技手補及雇員叙手ノ職務ニ從事スル間ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ左手ヲ以テ手綱ヲ執リ右手ヲ以テ鞭ヲ立テ兩眼ノ位置ニ捧ケ受禮者ニ注目スヘシ

宮內技手宮內技手補自動車運轉ノ職務ニ從事スル間ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ左手ヲ以テ把手ヲ執リ右手ヲ擧ケ其ノ指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ敬禮ヲ行ハサルコトヲ得

第九條　宮內技手宮內技手補及雇員叙手又ハ自動車運轉ノ職務ニ從事スル場合竝內舍人舍人殿部及內匠寮仕人軍從ノ職務ニ從事スル場合ニ於テ車中ニ乘者アルトキハ其ノ間他ノ者ニ對シテ敬禮ヲ行フコトナシ

第十條　樂服ヲ著用スル者樂事ニ從事スル間ハ敬禮ヲ行フコトナシ

第十一條　皇宮警察官職務執行中止ムコトヲ得サル事由アルトキハ敬禮ヲ行ハサルコトヲ得

第十二條　皇宮警察官隊伍ヲ爲シテ整列スルトキハ指揮官ニ於テ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ爲シ受禮者ニ注目セシムヘシ其ノ行進スル場合ニ在リテハ指揮官ニ於テ「頭右」又ハ「頭左」ノ號令ヲ爲シ頭首ヲ受禮者ニ向ハシムヘシ但シ指揮官ハ第五條又ハ第六條ノ敬禮ヲ行フコトヲ要ス

第十三條　雇員ニシテ第五條及第六條ノ敬禮ヲ行ハシムヘキ必要アルモノニ付テハ主管部局長官宮內大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ敬禮ニ關スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

○宮內官制服令（抄）

明治四十四年五月二十六日皇室令第四號

（改正）大正二年皇室令第六號、三年同第十四號、四年同第七號、同第十號、六年同第十八號、八年同第三號、同年第十號、十年同第十一號、十三年同第七號、十四年同第十一號、昭和二年同第二號、同年第十三號、三年同第二號、五年同第三號

第一條　宮內官ノ制服ハ他ノ皇室令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　宮內官大禮服ハ左ノ制式ニ依ル

（制式略）

第三條　宮內官小禮服ハ左ノ制式ニ依ル

（制式略）

第四條　宮內官供奉服ハ左ノ制式ニ依ル

（制式略）

第五條　（削除）

第六條　宮內官大禮服宮內官小禮服及宮內官供奉服ヲ著用スヘキ場合ハ宮內大臣之ヲ定ム

第七條　式部職掌典部職員祭事ニ從事スル場合ニ於テハ祭服ヲ著用スヘシ

祭服ハ左ノ制式ニ依ル

（制式略）

第八條　式部職樂部職員樂事ニ從事スル場合ニ於テハ樂服ヲ著用スヘシ

樂服ハ神樂及雅樂ニ從事スル場合ヲ除クノ外左ノ制式ニ依ル

（制式略）

第九條　主膳監主膳皇宮警察官內舍人舍人獵場監守長陵墓監陵墓守長主馬寮勤務宮內技手及帝室林野局出張所職員職務ヲ行フ場合ニ於テハ職服ヲ著用スヘシ

職服ハ左ノ制式ニ依ル

（主膳監主膳皇宮警察官內舍人舍人獵場監守長陵墓監陵墓守長主馬寮勤務宮內技手職服制式略）

帝室林野局出張所職員職服制式

		判任官	
		所長	所長以外ノ者
高等官	地質	深黑紺羅紗	
上衣	製式	長「ジャケツト」形堅襟前面ニ鈕釦五箇ヲ附ス圖ノ如シ	同
	袖章	袖口ヨリ三寸ヲ距リタル上部ニ幅六分ノ黑毛繻線一條及幅二分ノ黑毛繻線一條ヲ繞ラス圖ノ如シ	同上但シ幅二分ノ黑毛繻線ハ一條トス
	領章	前面ノ兩端ニ徑三分ノ金色五七桐章各一箇ヲ附ス圖ノ如シ	同上但シ桐章ハ五三桐章トス
	肩章	地ハ深黑紺羅紗トシ長サ四寸幅一寸七分兩緣及上端緣ニ幅一分ノ金線二條ヲ附シ其ノ中間ニ幅三分ノ金線二條ヲ縱ニ附シ徑四分ノ銀色五七桐章二箇ヲ附シ金色小釦一箇ヲ以テ肩ニ附ス圖ノ如シ	同上但シ幅三分ノ金線ハ一條トシ桐章ハ五三桐章トス
袴		地質深黑紺羅紗	同
帽		地質ハ深黑紺羅紗トシ黑革ノ眼庇ヲ附シ五七桐章ヲ附シタル金色小釦ヲ以テ黑塗薄革頭紐ヲ懸ク鉢卷ニ幅五分五厘ノ黑毛繻線二條ヲ繞ラシ前章ハ徑一寸三分ノ五七桐章ヲ金繡シ夏ハ略帽ヲ以テ帽ニ代フルコトヲ得略帽ハ「ヘルメット」形淡鼠色トス圖ノ如シ	同上但シ桐章ハ五三桐章トシ黑毛繻線ハ一條トス
		同上但シ黑毛繻線ヲ繞ラサス	同上

劍	全長一尺三寸柄ハ白鮫トシ長サ三寸金線ヲ螺纏スル鞘ハ黒革巻トシ柄ノ金具ハ金地石目五七桐章及唐草模様ヲ彫刻シ鞘ノ金具ハ金地石目及桐唐草模様ヲ彫刻ス環及錏ハ金地トス劍帶ハ表黒革裏朋黄革トシ金具ハ金色トシ五七桐章ヲ附ス圖ノ如シ	同上但シ桐章ハ五三桐章トシ彫刻ハ柄ニ止メ總テ石目及唐草模様ヲ附セス	同
外套	地質ハ深黒紺羅紗トシ折襟袖二重前面左右ニ釦釦各六箇ヲ附ス後面裾ヲ割キ腰部ノ帶緒ニ釦釦七箇ヲ附ス雨雪ノトキハ帽覆ヲ著ク圖ノ如シ	同	同
長「マント」	地質ハ深黒紺羅紗トシ折襟袴ノ前面兩端ニ徑三分ノ五七桐章各一箇ヲ金繍ス雨雪ノトキハ帽覆ヲ著ク圖ノ如シ	同上但シ桐章ハ五三桐章トス	同
釦	金色圓形五七桐章ヲ附ス徑ハ七分トス	同上但シ桐章ハ五三桐章トス	同
靴	黒革短靴	同	同

備考

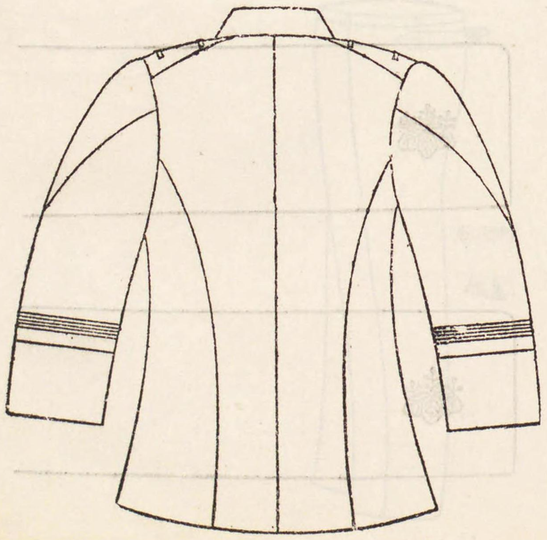
一　肩章ハ本制服ヲ通常服ニ代用スル場合ニ限リ之ヲ附ス

二　勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ帝室林野局長官ハ宮内大臣ノ認可ヲ經テ袴及靴ニ付別ニ制式ヲ定ムルコトヲ得

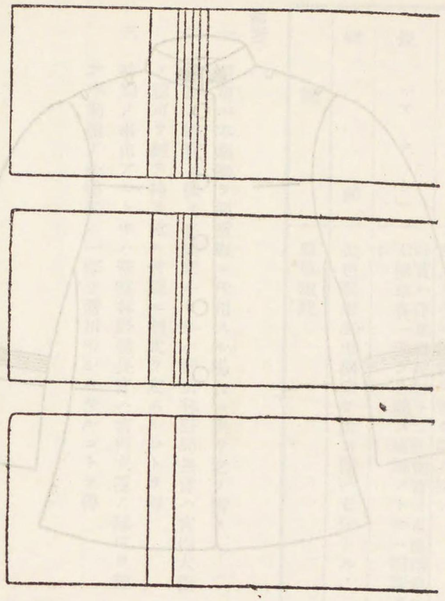
三　特別ノ事由アルトキハ帝室林野局長官ハ宮内大臣ノ認可ヲ經テ本制服ノ全部又ハ一部ヲ著用セシメサルコトヲ得

上衣　前面

上衣　後面



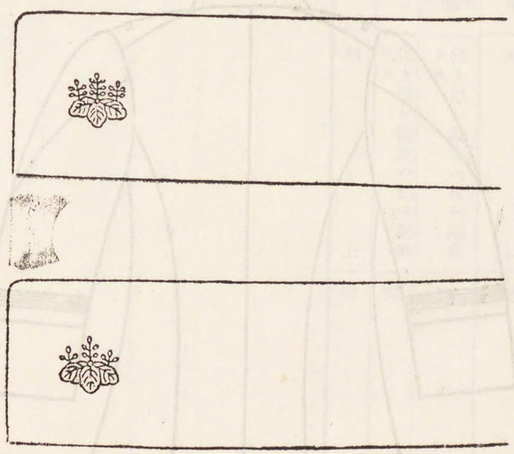
高等官袖章



判任官所長袖章

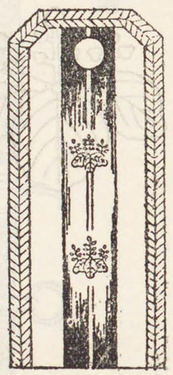
判任官所長以外ノ者袖章

高等官領章

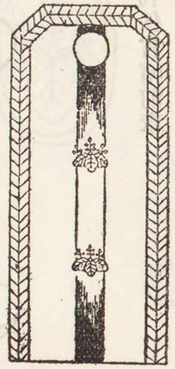


判任官領章

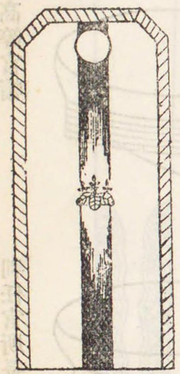
高等官肩章



判任官所長肩章

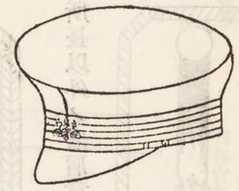


判任官所長以外ノ者肩章

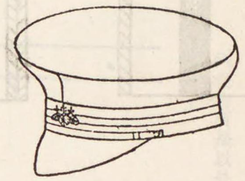


袴

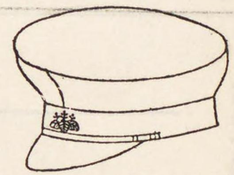
高等官帽



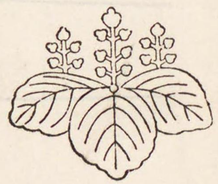
判任官所長帽



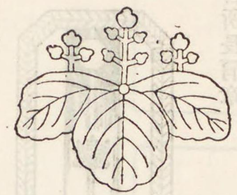
判任官所長以外ノ者帽



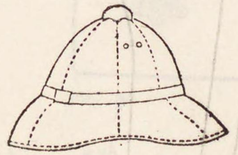
高等官帽前章



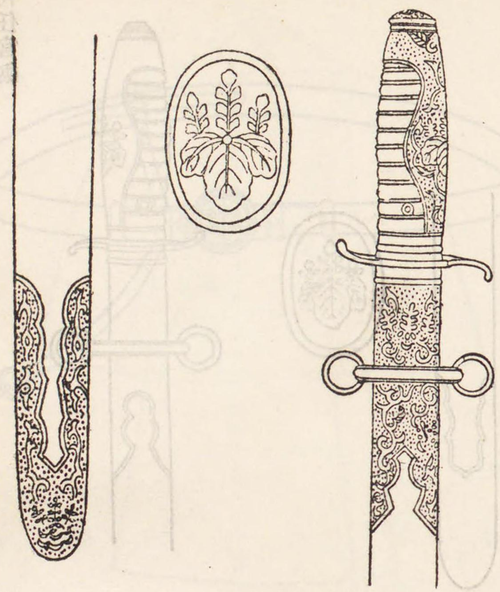
帽日覆

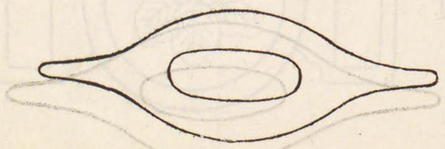


略帽

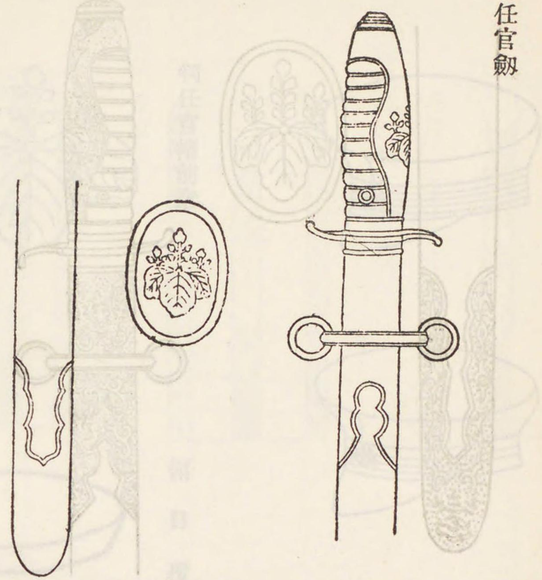


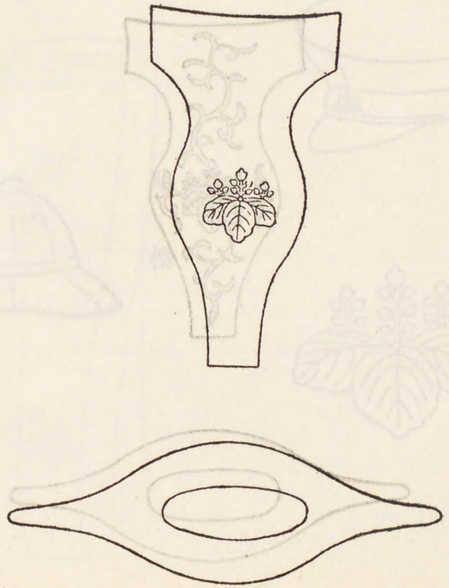
高等官劒



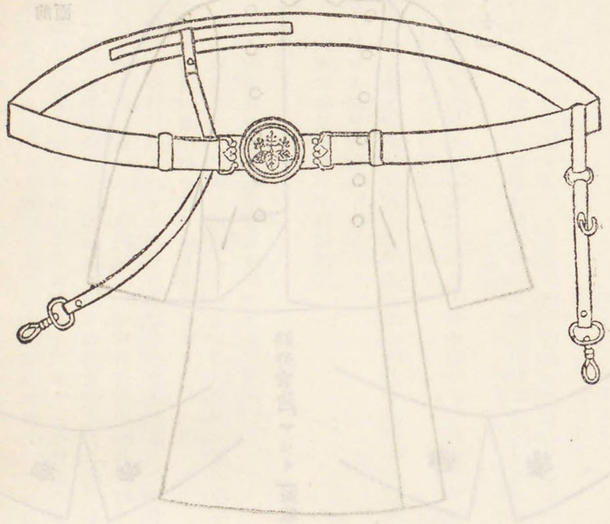


判任官劍

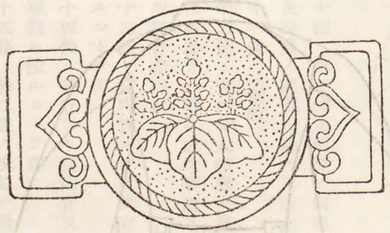




劍帶

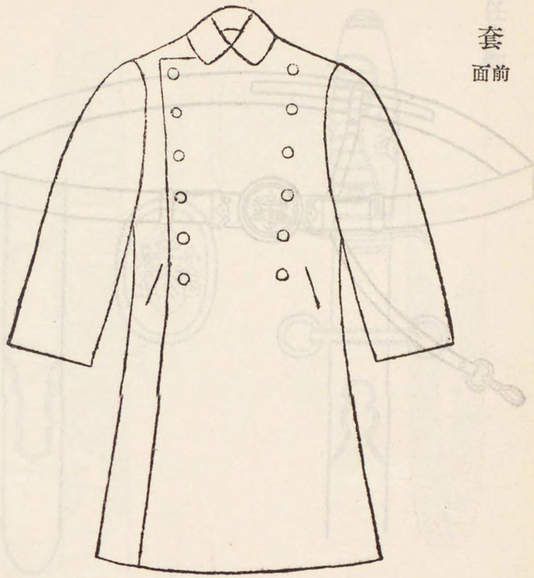


高等官劍帶金具



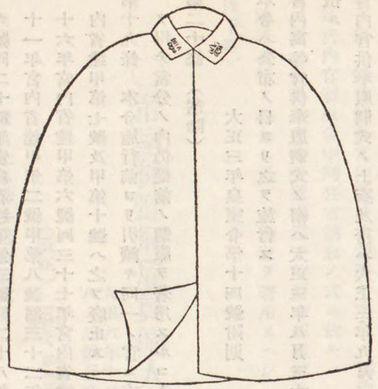
判任官劍帶金具

外套
前面

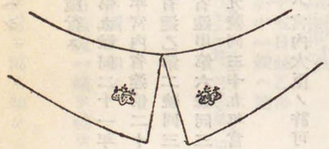


外套
後面

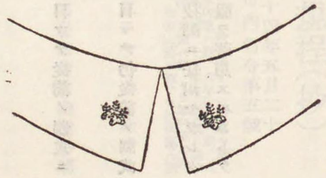
長「マント」



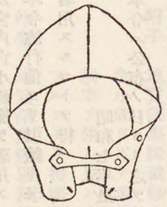
判任官長「マント」領章



高等官長「マント」領章



帽覆



高等官鈕釦

判任官鈕釦

第十條　第七條及前條ノ制服中數種アルモノニ付テハ著用スヘキ場合及職員ノ區別ハ宮内大臣之ヲ定ム

第十一條　（削除）

第十二條　宮内官大禮服ハ自己ノ婚禮又ハ父母祖父母ノ葬儀ヲ行フ場合ニ於テハ特ニ之ヲ著用スルコトヲ得皇宮警察官上官ノ葬儀ニ列スル場合亦同シ

第十三條　宮内官ニシテ武官タル者及爵ヲ有スル者ハ各其ノ服制ニ依ルコトヲ得

第十四條　兼官アル宮内官及他ノ官廳ヨリ兼任ノ宮内官ハ各其ノ官ノ服制ニ依ルコトヲ得

第十五條　前二條ノ規定ハ職務ニ依リ制服ノ著用ヲ必要トスル場合ニ之ヲ適用セス

第十六條　親任待遇及勅任待遇ノ宮内職員麝香間祗候及錦鶏間祗候ハ制服ノ關係ニ付テハ之ヲ勅任官ト看做ス但シ前官ヲ經タル者ハ大禮服ニ限リ宮内大臣ノ許可ヲ得テ其ノ前官ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

第十七條　宮内大臣ハ奏任待遇及判任待遇宮内職員ノ服制ヲ定ムルコ

トヲ得但シ奏任待遇ニ係ルモノニ付テハ勅裁ヲ經ヘシ

附　則

第十八條　本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十七年太政官達第九十一號同十九年宮内省達第九號同二十一年宮内省達第十九號第二十二號第二十四號同二十二年宮内省達第二十六號同二十四年宮内省達甲第三號同二十八年宮内省達乙第二號同三十一年宮内省達甲第二號甲第八號同三十二年宮内省達甲第六號同三十六年宮内省達甲第六號同三十七年宮内省達甲第九號同三十九年宮内省達甲第七號及甲第十號ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行前ヨリ引續キ同一ノ官ニ在ル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ當分ノ内仍從前ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

第二十條　（削除）

大正三年皇室令第十四號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮内高等官供奉服制式ノ帽ハ大正三年八月三十一日マテ從前ノ制式ニ依ル

宮内官供奉服制式ノ上衣及袴ハ大正三年九月三十日マテ仍從前ノ制式ニ依ルコトヲ得

御料牧場官制施行ノ際元主馬寮技師ヨリ御料牧場技師ニ任用セラレタル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ當分ノ内仍從前ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

大正六年皇室令第十一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

主膳職服ハ當分ノ内仍從前ノ制式ニ依ルコトヲ得

大正十四年皇室令第七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ宮内高等官タル者ハ當分ノ内仍從前ノ供奉服ヲ著用スルコトヲ得

大正十五年皇室令第二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ獵場監守長タル者ハ當分ノ内仍從前ノ職服ヲ著用スルコトヲ得

昭和二年皇室令第十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ同一ノ官ニ在ル者ハ昭和二年十二月三十一日迄仍從前ノ職服ヲ著用スルコトヲ得

昭和三年皇室令第二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ宮内官タル者ハ當分ノ内仍從前ノ宮内官大禮服及宮内官小禮服ヲ著用スルコトヲ得

本令施行前ヨリ引續キ李王職職員タル者ハ當分ノ内仍從前ノ大禮服ヲ著用スルコトヲ得

昭和七年皇室令第三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年皇室令第二號附則第二項ノ規定ハ本令施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

○判任待遇宮内職員制服規程（抄）

明治四十四年五月二十七日宮内省令第五號

（改正）明治四十四年宮内省令第八號、大正二年同第四號、三年同第十九號、五年同第六號、六年同第八號、八年同第六號、九年同第九號、十三年皇室令第八號、十四年宮内省令第一號、同第六號、十五年同第二號、昭和二年同第十二號、三年同第三號、五年同第八號、七年同第四號

第一條　判任待遇宮内職員ノ制服ハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外宮内官制服令中判任官制服ノ式ニ依ル

第二條　膳手皇宮警手獵場監守陵墓守部殿部及主馬寮勤務宮内技手補職務ヲ行フ場合ニ於テハ職服ヲ著用スヘシ

（以下略）

○帝室林野局雇員傭人被服制式

大正六年十二月二十五日祕乙第八ノ三號長官ヨリ局中一般ヘ達

（改正）大正十一年祕第一〇〇ノ三號、十二年第二一四七ノ二號甲、昭和二年監第六〇七ノ三號、五年監第一二一號

雇員及事業手職服制式

上衣　地質深黑紺羅紗トス

制式　長「ジャケット」形竪襟前面ニ鈕釦五箇ヲ附ス圖ノ如シ

袖章　袖口ヨリ三寸ヲ距リタル上部ニ幅二分ノ黑毛織線一條ヲ繞ラス圖ノ如シ

領章　前面ノ兩端ニ徑三分ノ銀色五三桐章各一箇ヲ附ス圖ノ如シ

袴　地質ハ深黑紺羅紗トス但シ外業ノトキハ短袴ト爲スコトヲ得圖ノ如シ

帽子　地質深黑紺羅紗トシ黑革ノ眼庇ヲ附シ五三桐章ヲ附シタル金色小釦ヲ以テ黑塗革頤紐ヲ懸ケ前章ハ徑一寸三分ノ金色五三桐章ヲ附シ夏ハ白布ノ日覆ヲ著ク但シ夏ハ略帽ヲ以テ帽ニ代フルコトヲ得略帽ハ「ヘルメット」形淡鼠色トス圖ノ如シ

外套　地質深黑紺羅紗折襟胸二重前面左右ニ鈕釦各六箇ヲ附ス後面裾ヲ割キ腰部ノ帶緒ニ鈕釦七箇ヲ附ス雨雪ノトキハ帽覆ヲ著クルコトヲ得圖ノ如シ

長マント　地質深黑紺羅紗折襟襟ノ前面兩端ニ徑三分ノ銀色五三桐章各一箇ヲ附ス雨雪ノトキハ帽覆ヲ著クルコトヲ得圖ノ如シ

鈕釦　金色圓形五三桐章ヲ附ス徑ハ七分トス

靴　黑革短靴

備考

一、特別ノ事由アリト認ムルトキハ本職服ノ全部又ハ一部ヲ著用セシメサルコトアルヘシ

守衛職服制式

上衣　地質ハ深黑紺羅紗トス

制式ハ長「ジャケット」形竪襟前面ニ二號鈕釦五箇ヲ附ス

袴　地質ハ深黑紺羅紗トス

帽子　地質ハ深黑紺羅紗トシ黑革ノ眼庇ヲ附シ金色小釦ヲ以テ黑塗薄革頤紐ヲ懸ク前章ハ徑一寸ノ金色櫻花ノ中ニ「林」字ヲ附ス但シ夏ハ白布ノ日覆ヲ著ク圖ノ如シ

長マント　地質ハ深黒紺羅紗「マント」形折襟トシ雨雪ノトキハ帽覆ヲ著ク

鈕釦　金色櫻花ノ中ニ「林」字ヲ附ス一號鈕釦ハ徑八分二號鈕釦ハ徑七分トス

給仕職服制式

上衣　地質ハ深黒紺羅紗トス

制式ハ脊廣形竪襟前面ニ一號鈕釦五箇袖ニ二號鈕釦各二箇ヲ附ス圖ノ如シ

袴　地質ハ深黒紺羅紗トス

帽子　地質ハ深黒紺羅紗トシ黒革ノ眼庇ヲ附シ金色小釦ヲ以テ黒塗革頤紐ヲ懸ケ前章ハ眞鍮製トシテ徑一寸櫻花ノ中ニ「林」字ヲ附ス但シ夏ハ白布又ハ茶褐布ノ日覆ヲ著ク圖ノ如シ

外套　地質ハ深黒紺羅紗(但シ褐色防水小倉織ト爲スヲ妨ケス)折襟胸一重鈕釦六箇ヲ附シ後面裾ヲ割リ雨雪ノトキハ帽覆ヲ著ク圖ノ如シ

長マント　地質ハ褐色防水小倉織「マント」形折襟トシ雨雪ノトキハ帽覆ヲ著ク圖ノ如シ

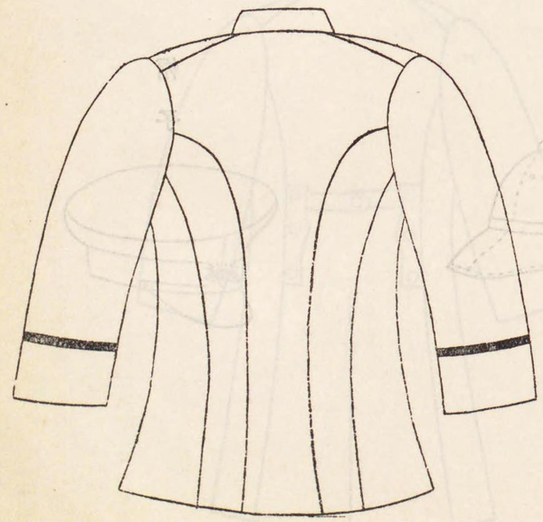
鈕釦　黒色無地トス但シ上衣褐色ナルトキハ褐色トス

帝室林野局雇員傭人被服制式圖(一部略ス)

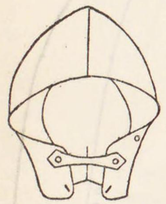
雇員、事業手職服

上衣　前面

上衣　後面

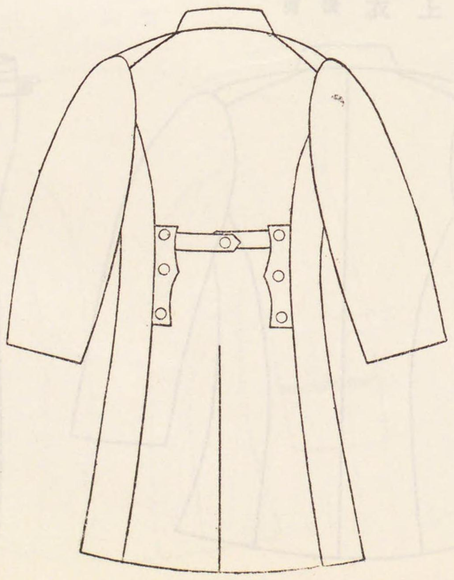


帽覆

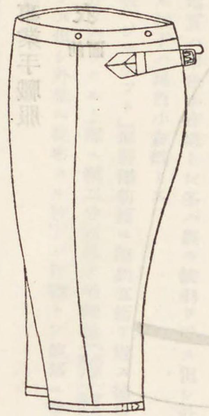


外套　前面

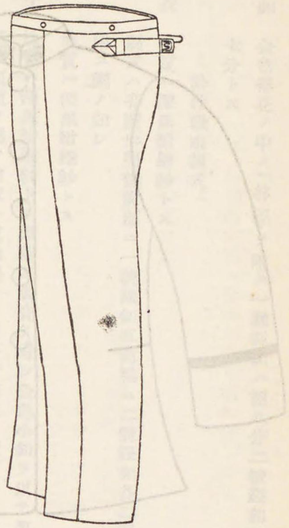
外套　後面



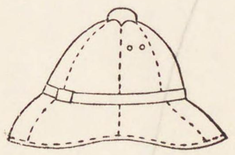
短袴



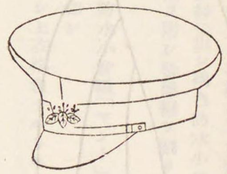
袴



略帽

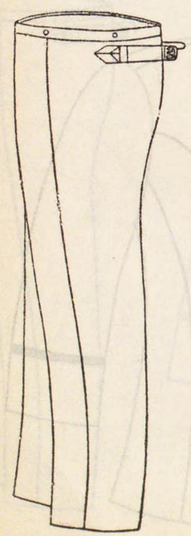


帽子



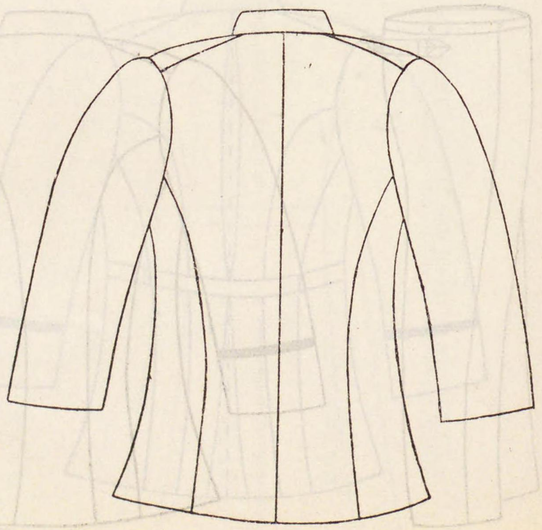
給仕職服

上衣　前面

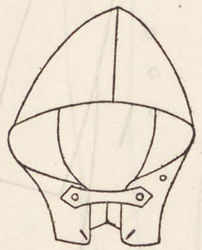


袴

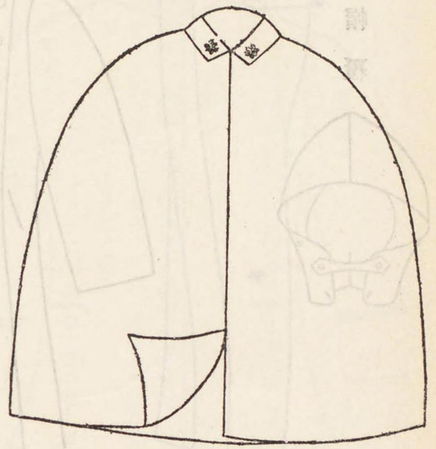
上衣　後面



帽覆



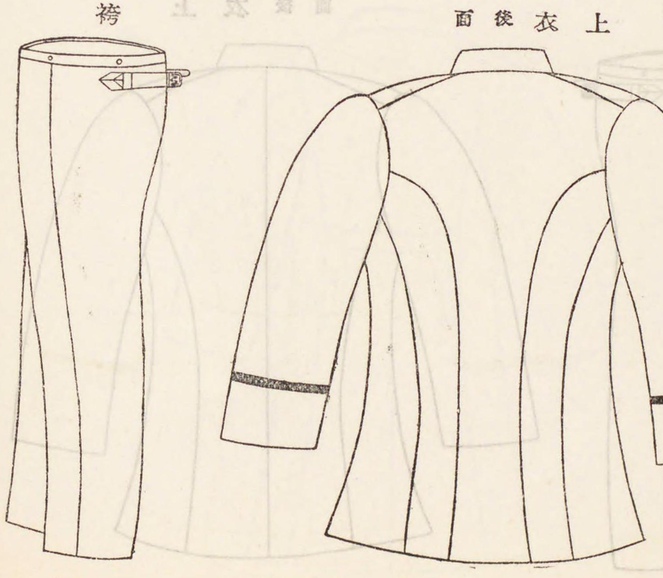
「トンマ」長



小使、技丁（外業ニ從事スル技丁ヲ除ク）職服

上衣　前面

上衣　後面

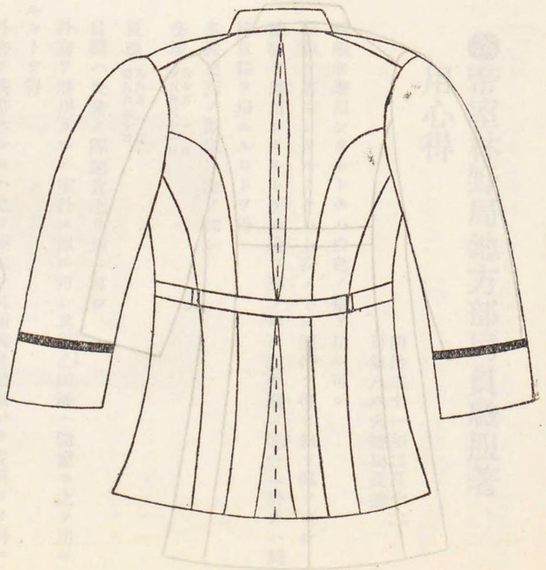


袴

外業技丁職服

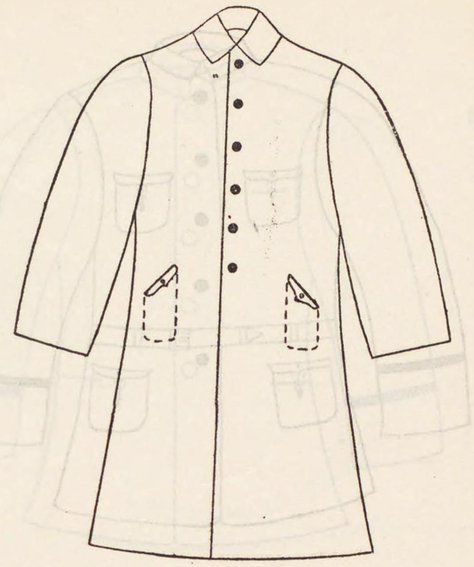
上衣　前面

上衣　後面



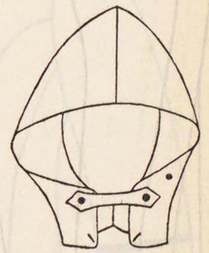
袴

技丁外套 前面



外套 後面

帽 冠



○宮內官大禮服宮內官小禮服宮內官供奉服著用規程（抄）

明治四十四年五月三十日訓令第十四號

（改正）大正三年訓令第九十三號、四年同第十一號、六年同第十四號、十一年同第八號、昭和三年同第十七號

第一條　宮內官大禮服ハ皇室令ニ規定アルトキ及左ノ場合ニ之ヲ著用スヘシ

一　新年參賀ノ爲青山東御所ニ參入スルトキ

二　新年晴御膳ノ式ニ關與スルトキ

三　陸軍始觀兵式天長節觀兵式及靖國神社臨時大祭ニ行幸啓アル場合之ニ供奉スルトキ

四　外國ノ皇族又ハ特派使節ノ參內謁見等ノ儀式ニ關與スルトキ

五　各國大使公使ノ勳章捧呈ノ儀式ニ關與スルトキ

六　各國大使信任狀捧呈ノ後初メテ皇后陛下其ノ他皇族ニ謁見スル場合之ニ關與スルトキ

七　勳章爵記位記ノ奉授式ニ關與スルトキ

八　前各號ノ外臨時指ホシタルトキ

（第二條以下略）

●帝室林野局地方部局員職服著用心得

明治三十一年二月十二日第八八九號局長達

第一　職服ヲ著用シタルトキハ白色ノ襟ヲ用ユ可シ

第二　職服ヲ著用シタルトキハ上衣ノ下ニ劔帶ヲ帶ヒ劔ヲ佩ク可シ

第三　職服ヲ著用シタルトキハ靴ヲ穿ツ可シ但外勤ノ場合ニ於テハ脚絆草鞋ヲ用ユルコトヲ得

第四　冬夏更衣ノ期限ハ左ノ如シ

一　冬服　自十月一日至五月三十一日

二　夏服　自六月一日至九月三十日

第五　日覆ハ炎暑ノ際適宜之ヲ用ユ可シ

第六　外套ヲ著用スルハ室外ニ限ル可シ其甲乙兩種ハ隨意ニ之ヲ用ユルコトヲ得

第七　外套ヲ携帶スルニハ之ヲ捲收シ其兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ斜ニ右腋ノ下ニ掛ク可シ但濕潤シタルトキハ適宜携帶スルコトヲ得

第八　劔ハ職務執行ノ場合ニ於ケル正當防衛ノ爲ノ外之ヲ拔クコトヲ得ス

第九　拔劔シタルトキハ兇行者ヲ傷ケタルト否トニ拘ハラス其狀況ヲ具シテ所屬上官ニ屆出ツ可シ

●地方部局員職服私費調製ノ件

明治三十二年四月二十七日名第一九六四號名古屋支廳照會

地方部局員森林ヲ跋渉スルニ當リ著用スル職服ハ常ニ汚染若クハ破綻シ易ク時々洗濯又ハ修理ヲ施スノ要アリ然ルニ代用スヘキ餘服ナキトキハ直チニ執務上差支ヲ生セシムルト雖モ之カ給與方ニ付テハ御規程ノ趣モ有之候ニ付豫備トシテ給與品ト同質ナルモノヲ撰ミ私費ヲ以テ調製致度旨申出候者有之候右ハ別段差支無之哉地方部局員職服著用心得第三項但書ニヨリ脚袢草鞋ヲ用ユル場合ニ於テ給與品ト同質ナルモノヲ撰ミ私費ヲ以テ半袴調製致度旨申出候者有之候是亦別段差支無之哉

（回答三十二年五月四日第二五七九ノ二號）右ハ御意見ノ通別ニ差支無之義ト存候命ニ依リ此段及御通牒候也

追而御伺出ニ對シテハ別ニ御指令不相成候

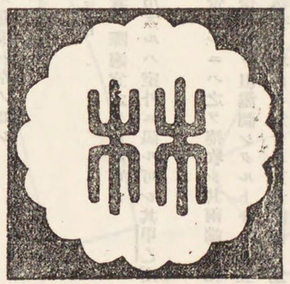
●傭人及傭人夫被服標章ノ件

明治四十一年三月三十一日第一七五八號主事通牒

傭人及傭人夫ニ給與スヘキ被服（法衣桐油）標章ハ別紙雛形ニ改正襟ハ左ニ帝室林野管理局右ニ何支廳何ト記入致ス可キ旨被定候條此段及御通牒候也

（備考　傭人被服ノ中法衣及桐油竝傭人夫被服ノ中桐油ハ廢止セラル）

（別紙雛形）



○宮內職員勳章記章褒章佩用規程

明治四十四年十一月一日訓令第十九號

（改正）大正五年訓令第十一號、六年同第三號、七年同第十七號、十三年同第八號、昭和二年同第十五號

第一條　宮內職員ニシテ宮內官制服令、大正十三年宮內省令第九號及判任待遇宮內職員制服規程ニ依リ制服著用ノ場合ニ於ケル勳章記章褒章及略綬ノ佩用ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大禮服、小禮服、供奉服、樂服及職服ヲ著用シタルトキハ勳章記章褒章ヲ佩用スヘシ

第三條　宮內高等官大禮服及主馬寮高等官大禮服ヲ著用シタル場合ニ在リテハ大綬ハ上衣ノ上ニ佩フヘシ

第四條　宮內高等官小禮服ヲ著用シタル場合ニ在リテハ大綬ハ上衣ノ下ニ佩フヘシ但シ行幸啓ニ供奉スル場合及特ニ指定シタル諷見ノ儀式ニ參與スル場合ニ在リテハ大綬ハ之ヲ佩ヒス

第五條　宮內高等官供奉服ヲ著用シタル場合ニ在リテハ大綬ハ之ヲ佩ヒス

第六條　供奉服ヲ著用シタル場合ニ在リテハ勳等ヲ表スル最上級ノ勳章及金鵄勳章又ハ其ノ一種ノミヲ佩用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ記章褒章ハ之ヲ佩ヒス

前項ノ規定ハ別ニ指示スル場合ニハ之ヲ適用セス

第七條　供奉服ヲ著用シタル場合ニ於テ特ニ指示スルトキハ略綬ヲ佩用スルコトヲ得

第八條　皇宮警察官職服、獵場監守長職服、陵墓監陵墓守長職服、主馬寮勤務宮內技手職服第二號乙種、同第三號乙種、帝室林野局出張所職員職服、皇宮警手職服乙種、獵場監守職服、陵墓守部職服、殿部職服第二號丙種、同第三號甲種、同號乙種及主馬寮勤務宮內技手補職服第三號乙種ヲ著用シタルトキハ場合ニ依リ勳等ヲ表スル最上級ノ勳章及金鵄勳章若ハ其ノ一種ノミヲ佩用シ又ハ略綬ヲ佩用シ若ハ勳章記章褒章及略綬ヲ佩用セサルコトヲ得但シ其ノ場合ハ所管ノ部局長官之ヲ定ムヘシ

第九條　外國勳章記章褒章及略綬ノ佩用ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

○宮內職員勳章記章褒章ヲ佩用セサルコトヲ得ル場合ノ件

明治四十四年十一月十一日第六七七號長官ヨリ支廳、京都出張所へ達

（改正）大正五年第一七〇九ノ二號乙、六年第一七八ノ二號乙、七年第三一二六ノ二號

職服ヲ著用スヘキ職員ニシテ宮內職員勳章記章褒章佩用規程第八條ニ依リ勳章記章褒章及略綬ヲ佩用セサルコトヲ得ル場合左ノ通定ム

一　在勤廳、分擔區員駐在所、又ハ事業所ニ於テ職務ニ從事スルトキ

二　外業ニ從事スルトキ

三　短袴ヲ穿チタルトキ

四　急遽ノ場合ニ於テ佩用スル違ナキトキ

第七類　管理

第七類　管理

一　事業通規

○御料地保管規程

大正十三年四月
九日訓令第九號

第一條　御料地ハ帝室林野局長官之ヲ管理ス

各部局所管ノ事務上必要ナル地域ハ其ノ用途ニ從ヒ當該部局長官ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第二條　各部局長官御料地ヲ保管セムトスルトキハ帝室林野局長官ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ヒタルトキハ帝室林野局長官ハ之ヲ宮内大臣ニ經伺スヘシ

第三條　各部局長官ハ其ノ保管ニ係ル御料地ノ用途止ミタルトキハ其ノ地域ヲ帝室林野局長官ニ返還スヘシ

第四條　各部局長官其ノ保管ニ係ル御料地ヲ他ニ貸付シ又ハ保管セシムルノ必要生シタルトキハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外其ノ地域ヲ帝室林野局長官ニ返還スヘシ

一　電柱敷、道路敷及水道敷等ノ爲貸付スルモノニシテ取扱上當該部局ノ保管ニ存セシムルヲ便宜トスルトキ

二　一時貸付ヲ爲ストキ

三　所管事務ニ關聯シテ貸付シ又ハ保管セシムルヲ必要トスルトキ

前項第一號及第三號ノ場合ニ於テハ豫メ帝室林野局長官ニ合議スヘシ

第五條　帝室林野局長官前二條ノ規定ニ依リ御料地ノ返還ヲ受ケタルトキハ其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

附　則

第六條　本令ハ大正十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第七條　本令施行ノ際現ニ各部局ニ於テ保管スル御料地ハ之ヲ本令ニ依リ保管スルモノト看做ス

第八條　御料地主管區別ハ之ヲ廢止ス

○皇族賜邸ニ關スル件

大正二年八月十五日第三八六一號長官ヨリ大臣へ伺定

客月三十一日公布セラレタル皇室令第八號ノ規定ニ依レハ皇族賜邸ハ皇族ノ御所有ナリトノ意義ニ可有之ト被存候果シテ然ラハ該土地ハ當局ノ主管外ト心得可然哉豫算編成上ノ都合モ有之候條至急何分ノ義御指示相仰度

（指令＝大正二年八月二十二日第一六一號）右伺ノ通

○皇室財産令

明治四十三年十二月二十三日皇室令第三十三號

（改正）　大正十三年皇室令第八號

第一章　御料

第一節　總則

第一條　御料ハ世傳御料及普通御料トス

第二條　御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付テハ宮内大臣ヲ以テ其ノ當事者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條　民法第一編乃至第三編商法及附屬法令ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ御料ニ關シ之ヲ準用ス

第二節　世傳御料

第四條　皇室典範第四十六條ノ規定ニ依リ世傳御料ニ編入シタル財産ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一　土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積

二　建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪

三　其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類及箇數

第五條　世傳御料ニ屬スル財産ニ付テハ其ノ種類ニ從ヒ各臺帳ヲ設ケ前條ニ掲ケタル事項ノ外土地ニ付テハ由緒建物ニ付テハ建造者年代及由緒其ノ他ノ物件ニ付テハ製作者筆者年代及由緒ヲ登錄スヘシ前項ニ掲ケタル事項ノ外宮内大臣ニ於テ必要ト認メタルモノハ勅裁ヲ經テ之ヲ臺帳ニ登錄スルコトヲ得

第六條　世傳御料ニ屬スル土地ノ臺帳ニハ圖面及疆界簿ヲ添附シ建物ノ臺帳ニハ圖面ヲ添附スヘシ

第七條　世傳御料ニ屬スル財産ノ臺帳ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス

第八條　世傳御料ニ屬スル財産ハ重大ナル事由ヲ生シタル場合ニ限リ其ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九條　世傳御料ニ屬スル財産ハ必要アルトキハ勅裁ヲ經テ之ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ修補改築スルコトヲ得

第十條　前二條ノ場合ニ於テハ臺帳ニ事由ヲ附記シ且異動ノ登錄ヲ爲スヘシ登錄又ハ附記ノ事項ニ異動ヲ生シタル場合亦同シ

前二條ノ場合ヲ除クノ外世傳御料ニ屬スル財産ニ異動ヲ生シタルトキハ勅裁ヲ經テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ臺帳ノ登錄又ハ附記ヲ訂正スヘシ

一　登錄又ハ附記ノ事項若ハ文字ニ錯誤アリタルトキ

二　土地ノ登錄面積實測面積ト異ナルトキ

第十二條　第五條及前二條ノ規定ニ依リ登錄附記又ハ訂正ヲ爲シタルトキハ臺帳ニ其ノ年月日ヲ記入シ宮内大臣主管部局ノ長官及圖書頭之ニ捺印スヘシ

第十三條　世傳御料ニ關シ公告ヲ經タル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス

第十四條　世傳御料ノ果實ハ普通御料ニ屬ス變更修補又ハ改築ニ因リ

テ生シタル材料亦同シ

第十五條　世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ新ニ物權ヲ設定スルハ公用又ハ公益事業ノ爲ニ必要ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依リテ物權ヲ設定スルニハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十六條　世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ物權ヲ設定シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス其ノ公告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ公告ハ登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第十七條　前條ニ規定シタルモノヲ除クノ外世傳御料ニ編入シタル不動產ニ關スル權利ハ登記ヲ爲サスシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得

登記シタル不動產ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ遲滯ナク其ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第三節　普通御料

第十八條　普通御料ニ屬スル財産ニ付テハ其ノ種類ニ從ヒ必要ナル帳簿又ハ目錄ヲ設ケ之ニ其ノ現況價格及異動ヲ登錄シ土地ニ付テハ圖面及疆界簿ヲ添附スヘシ但シ公用又ハ公益事業ニ供スル物件ニ付テハ其ノ現況及價格ヲ登錄スルコトヲ要セス

第十九條　普通御料ニ屬スル財産ノ帳簿又ハ目錄ハ主管部局ニ於テ保管ス

第二十條　內廷ニ屬スル財産ノ管理ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　皇族財産

第一節　總則

第二十一條　第二條第三條及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ノ財產ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條　民法第一編乃至第三編商法及附屬法令竝公益ノ爲ニスル財產ノ收用徵發又ハ制限ニ關スル法令ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ皇族ニ之ヲ適用ス但シ前條ニ掲ケタル皇族ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　皇族臣籍ニ在ル者ノ遺贈ニ因リテ受遺者タルトキハ民法第五編第六章及第七章ノ規定ニ依ル

太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ハ遺贈ヲ受ケルコトナシ

第二節　治產能力

第二十四條　未タ婚嫁セサル未成年ノ皇族財產ニ關スル法律上ノ行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　前條ノ規定ハ法定代理人ニ於テ處分ヲ認諾セル財產ニ關スル行爲及單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ニ之ヲ適用セス

第二十六條　前二條ノ規定ハ皇室典範第五十三條ニ依ル禁治產者ニ之ヲ準用ス

第二十七條　皇族精神ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ禁治產ヲ宣告スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ禁治產ヲ宣告セラレタル者ハ之ヲ後見ニ付ス

第二十八條　前條ノ禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十九條　皇族精神ノ耗弱ナルトキ又ハ身體ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ準禁治產ヲ宣告スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ準禁治產ヲ宣告セラレタル者ハ之ニ保佐人ヲ附ス」

民法第十二條第一項及第三項ノ規定ハ準禁治產者ニ之ヲ準用ス

第三十條　禁治產又ハ準禁治產ノ原因止ミタルトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ解除ス

第三十一條　禁治產又ハ準禁治產ノ宣告及解除ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第三十二條　禁治產又ハ準禁治產ノ宣告及解除ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第三十三條　保佐人ハ勅選ニ由ル

第三十四條　未成年者及女子ハ保佐人タルコトヲ得ス

第三十五條　保佐人ハ正當ノ事由アルトキハ勅許ヲ經テ辭任ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　保佐人ノ解任ハ勅旨ニ由ル

第三十七條　民法第十九條及第二十條ノ規定ハ未タ婚嫁セサル未成年者禁治產者及準禁治產者ノ行爲ニ之ヲ準用ス

第三十八條　本節ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ニ之ヲ適用セス

第三節　遺留財產

第三十九條　皇族男子ハ遺留財產ヲ設定シ又ハ之ヲ增加スルコトヲ得

第四十條　遺留財產ハ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第四十一條　未タ婚嫁セサル未成年者禁治產者及準禁治產者ハ遺留財產ヲ設定シ又ハ增加スルコトヲ得ス

第四十二條　遺留財產ヲ設定又ハ增加セムト欲スル者ハ其ノ財產ノ目錄ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申述スヘシ

第四十條ノ場合ニ於テハ遺言ノ效力ヲ生シタル後相續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十三條　前條ノ申述アリタルトキハ宮內大臣ハ財產ノ目錄ヲ審査シ支障ナシト認メタルトキハ其ノ財產ニ付キ之ヲ遺留財產ト爲サムトスル申述アリタル旨ヲ勅裁ヲ經テ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及地番建物ニ付テハ其ノ所在及種類其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ揭クヘシ

第四十四條　前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ主張セムト欲スル者ハ前條第一項ノ公告期間滿了ノ後三十日內ニ故障ヲ宮內大臣ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ期間內ニ故障ノ申出ナキトキハ登記ナキ權利ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス登錄國債ニ付キ登錄ナキ權利亦同シ

第四十五條　宮內大臣ハ故障ノ申出ナキ財產ニ限リ之ヲ遺留財產ト爲スコトニ付キ勅許ヲ受クヘシ

第四十六條　遺留財產ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨及第四十三條第二項ニ揭ケタル事項ヲ公告スヘシ

意思ヲ表示スルコトヲ得

第四十一條　未タ婚嫁セサル未成年者禁治產者及準禁治產者ハ遺留財產ヲ設定シ又ハ增加スルコトヲ得ス

第四十二條　遺留財產ヲ設定又ハ增加セムト欲スル者ハ其ノ財產ノ目錄ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申述スヘシ

第四十條ノ場合ニ於テハ遺言ノ效力ヲ生シタル後相續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十三條　前條ノ申述アリタルトキハ宮內大臣ハ財產ノ目錄ヲ審査シ支障ナシト認メタルトキハ其ノ財產ニ付キ之ヲ遺留財產ト爲サムトスル申述アリタル旨ヲ勅裁ヲ經テ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及地番建物ニ付テハ其ノ所在及種類其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ揭クヘシ

第四十四條　前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ主張セムト欲スル者ハ前條第一項ノ公告期間滿了ノ後三十日內ニ故障ヲ宮內大臣ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ期間內ニ故障ノ申出ナキトキハ登記ナキ權利ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス登錄國債ニ付キ登錄ナキ權利亦同シ

第四十五條　宮內大臣ハ故障ノ申出ナキ財產ニ限リ之ヲ遺留財產ト爲スコトニ付キ勅許ヲ受クヘシ

第四十六條　遺留財產ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨及第四十三條第二項ニ揭ケタル事項ヲ公告スヘシ

第四十七條　遺留財產ニ付テハ奏幀ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　遺留財產設定增加ノ申述者又ハ遺言者

二　勅許ノ年月日

三　土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項

第四十八條　遺留財產中有價證券アルトキハ之ニ遺留財產タル旨ヲ記入シ登錄國債アルトキハ國債登錄簿ニ遺留財產タル旨ノ登錄ヲ經ヘシ

第四十九條　遺留財產ノ相續ハ其ノ所有者タル皇族ノ薨去ニ因リテ開始ス

第五十條　遺留財產ハ設定者ヨリ出テタル男系ノ皇族男子皇位繼承ノ順序ニ依リ之ヲ相續ス

第五十一條　遺留財產ノ相續ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第五十二條　遺留財產ノ相續アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ臺帳ニ附記スヘシ

第五十三條　遺留財產ハ勅許ヲ經テ其ノ管理ヲ宮內大臣ニ委託スルコトヲ得

第五十四條　相續開始前ノ申述ニ係ル遺留財產ノ設定又ハ增加ニ付キ相續開始ノ後勅許アリタルトキハ其ノ設定又ハ增加ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス遺言ニ基ツク遺留財產ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキ亦同シ

第五十五條　遺留財產ノ果實ハ遺留財產ニ屬セス變更修補又ハ改築ニ因リテ生シタル材料亦同シ

第五十六條　遺留財產ニ付キ地上權永小作權又ハ地役權ヲ設定セムトスルトキハ勅許ヲ受クヘシ

第五十七條　遺留財產ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五十八條　遺留財產所有者ハ勅許ヲ經テ遺留財產ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第五十九條　第四十條乃至第四十二條及第五十四條ノ規定ハ遺留財產ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第六十條　遺留財產ノ相續人ナキトキハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第六十一條　遺留財產ノ廢止其ノ他ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且臺帳ニ事由ヲ附記シテ異動ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ第四十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十二條　本節ノ規定ハ皇太子皇太孫ニ之ヲ適用セス

第四節　遺產相續

第六十三條　遺產相續ハ皇族ノ薨去ニ因リテ開始ス

第六十四條　遺產相續ハ左ノ順位ニ依ル

第一　直系卑屬

第二　配偶者

第三　直系尊屬

第四　兄弟姉妹

前項ノ規定ニ依リ直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テ遺產相續ヲ爲ス

ハ親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其ノ近キ者ヲ先ニシ親等ノ同キ者ハ同順位ニ於テス

第六十五條　前條ノ規定ニ依リ遺産相續ヲ爲スヘキ直系卑屬相續開始前ニ薨去又ハ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ニ直系卑屬アルトキハ其ノ直系卑屬ハ其ノ者ノ順位ニ於テ遺産相續ヲ爲ス

第六十六條　遺産相續人相續ノ拋棄ヲ爲サムト欲スルトキハ自己ノ爲ニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月內ニ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申述スヘシ

遺産相續人前項ノ期間內ニ拋棄ノ申述ヲ爲ササリシトキハ相續ノ承認ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十七條　遺産相續人ハ相續ノ承認前ニ於テ相續財產ヲ處分スルコトヲ得ス共同相續人ノ承認又ハ拋棄前亦同シ

第六十八條　相續財產ハ相續ノ承認アルマテ宮內大臣之ヲ管理ス共同相續人ノ承認又ハ拋棄前亦同シ

前項ノ規定ハ遺言執行者アル場合ニ之ヲ適用セス

第六十九條　同順位ノ遺産相續人數人アルトキハ其ノ各自ノ相續分ハ相均キモノトス但シ直系卑屬數人アルトキハ庶子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第七十條　第六十五條ノ規定ニ依リテ遺産相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其ノ直系尊屬ノ受クヘカリシモノニ同シ但シ直系卑屬數人アルトキハ其ノ各自ノ直系尊屬ノ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其ノ相續分ヲ定ム

第七十一條　被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ラス遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定ムルコトヲ得

第七十二條　被相續人ハ遺言ヲ以テ相續財產分割ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第七十三條　相續財產ノ分割ニ付キ協議調ハサルトキハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ爲ス

第七十四條　民法第九百六十八條第千一條乃至第千三條第千九條第千十一條乃至第千十六條第千十八條第千十九條第千二十二條及第千三十九條ノ規定ハ皇族ノ遺産相續ニ之ヲ準用ス

第七十五條　遺産相續人ナキトキハ宮內大臣遺産ノ淸算ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ宮內大臣ヲ以テ遺産ニ關スル法律上ノ行爲ノ當事者ト看做ス但シ宮內大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

宮內大臣ハ遲滯ナク一切ノ相續債權者及受遺者ニ對シ二箇月內ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スヘシ

第七十六條　前條第二項ノ期間滿了ノ後宮內大臣ハ相續債權者及受遺者ニ辨濟ヲ爲シ仍殘餘財產アルトキハ其ノ財產ハ普通御料ニ歸屬ス」民法第千三十一條乃至第千三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ宮內大臣ノ命シタル評價人ヲシテ之ヲ評價セシム

第七十七條　前條第一項ノ規定ニ依リ殘餘財產普通御料ニ歸屬シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ權利ヲ失フ

第七十八條　皇族臣籍ニ在ル者ノ遺産相續人タルトキハ民法第五編第二章乃至第四章及第七章ノ規定ニ依ル

第七十九條　本節ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ニ之ヲ適用セス但シ其ノ遺産ハ普通御料ニ歸屬ス

第三章　帝室經濟會議

第八十條　帝室ノ經濟ニ關スル事項ヲ諮詢スル爲帝室經濟會議ヲ置ク

第八十一條　帝室經濟會議ニ諮詢スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一　皇室經費ノ豫算ニ關スル事項

二　第二豫備金ノ支出其ノ他豫算外ノ支出ニ關スル事項

三　世傳御料ノ編入及解除ニ關スル事項

四　世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ設定スル物權ニ關スル事項

五　重要ナル財產權ノ得喪ニ關スル事項

第八十二條　帝室經濟會議ハ內大臣宮內大臣及勅命セラレタル帝室經濟顧問七人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十三條　宮內次官內藏頭帝室林野局長官及帝室會計審査局長官ハ帝室經濟會議ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八十四條　帝室經濟會議ニ關シ必要ナル規程ハ其ノ會議ニ於テ之ヲ議定シ勅裁ヲ受クヘシ

第八十五條　帝室經濟會議ニ關スル庶務ハ宮內高等官ヲシテ之ヲ管掌セシム

附　則

第八十六條　本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七條　國有林野法第四條乃至第六條ノ規定ハ御料ニ屬スル林野ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル疆界査定ニ不服アル隣接地所有者疆界査定ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ三箇月內ニ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起セサルトキハ其ノ疆界査定ハ確定シタルモノト看做ス

○皇室財產令施行規則

明治四十四年三月二十九日宮內省達第一號

第一章　御料

第一條　世傳御料ニ屬スル財產ノ臺帳ハ左ノ三種トス

一　土地臺帳

二　建物臺帳

三　動產臺帳

第二條　臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ宮內大臣枚數及調製ノ年月日ヲ記入シ圖書頭ト倶ニ之ニ署名スヘシ

臺帳ニハ宮內大臣及圖書頭其ノ綴目ニ捺印スヘシ

第三條　世傳御料ニ關スル勅書竝臺帳ノ登錄附記及訂正ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第四條　世傳御料ニ關スル勅書竝臺帳及前條ノ記錄ハ勅旨ニ由ル場合又ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除クノ外尙藏ノ部局外ニ持出スコトヲ得ス

第五條　臺帳記載ノ樣式ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第六條　臺帳ニ記載シタル世傳御料地ノ表示ニハ右側ニ片假名ヲ以テ

其ノ讀方ヲ示スヘシ

第七條　臺帳ニ登錄ヲ爲シタルトキハ圖書頭ハ遲滯ナク其ノ謄本ヲ主管部局長官ニ送付スヘシ

第八條　世傳御料ニ屬スル財産ニ付テハ主管部局長官ニ於テ其ノ種類ニ依リ帳簿ヲ設ケ之ニ圖書頭ヨリ送付ヲ受ケタル謄本ニ基ツキ其ノ主管ニ係ル財産ニ關スル事項ヲ登錄シ且署名スヘシ

前項ノ帳簿ニハ表紙ノ裏面ニ主管部局長官枚數及調製ノ年月日ヲ記入シ之ニ署名スヘシ

第九條　臺帳ニ記載スル文字ハ字畫ヲ明瞭ニシ數字ニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ウヘシ

第十條　臺帳ニ登錄又ハ附記ヲ爲ス際誤テ相違ノ事項ヲ記載シタルトキ冗字若ハ誤字ヲ書シタルトキ又ハ記載スヘキ事項若ハ文字ヲ脫落シタルトキハ直ニ抹消又ハ變更ノ登錄ヲ爲シ且其ノ旨ヲ附記スヘシ

前項ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日ヲ記入シ圖書頭之ニ捺印スヘシ

第十一條　抹消ニ係ル文字ハ之ニ朱線ヲ施シ尙明ニ讀ミ得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第十二條　普通御料ニ屬スル財産ノ帳簿又ハ目錄ノ種類及記載ノ樣式ハ宮內大臣之ヲ定ム

第十三條　帳簿ニハ表紙ノ裏面ニ枚數及調製ノ年月日、目錄ニハ欄外ニ調製ノ年月日ヲ記入シ主管部局長官之ニ署名スヘシ

第十四條　帳簿又ハ目錄ニ登錄スヘキ財産ノ現況ニハ取得ノ原因及年月日ノ外土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積、建物ニ付テハ

所在種類構造及建坪、其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類及箇數其ノ他主管部局長官ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ示スヘシ

第十五條　帳簿又ハ目錄ニ登錄スヘキ財産ノ價格ニハ購入代價又ハ見積價格ヲ示スヘシ

第十六條　土地ノ疆界線ニハ界標圍障又ハ溝渠ヲ設クヘシ

第十七條　前五條ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ノ財産ニ關シ之ヲ準用ス

第二章　遺留財産

第十八條　皇室財産令第四十二條第一項ノ規定ニ依リ遺留財産ノ設定又ハ增加ノ申述ニ添フヘキ財産ノ目錄ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪、其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他審査ノ參考トナルヘキ事項ヲ具シ且土地建物ニ付テハ圖面ヲ添フヘシ

第十九條　皇室財産令第四十二條第二項ノ規定ニ依リ相續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遺留財産ノ設定又ハ增加ヲ申述スルトキハ遺言書ノ謄本ヲ添フヘシ

第二十條　遺留財産ノ臺帳ハ數簿册ニ渉ルトキハ簿册每ニ番號ヲ附スヘシ

第二十一條　遺留財産ノ登錄ハ勅許ノ順序ニ依ル

遺留財産中有價證券アルトキハ其ノ番號ノ登錄ヲ爲シ土地建物アルトキハ其ノ圖面ヲ臺帳ニ添附スヘシ

第二十二條　遺留財産ニ關スル異動ノ登錄ハ既登錄ノ事項ニ繼續シテ

之ヲ爲スヘシ

第二十三條　附記ハ登錄事項ニ次テ之ヲ爲スヘシ但シ登錄事項ニ次テ附記ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ登錄事項ノ存スル用紙ノ欄外ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　第九條第十條第一項及第十一條ノ規定ハ遺留財産ノ臺帳ニ之ヲ準用ス

第二十五條　遺留財産中ノ土地ノ地目又ハ建物ノ種類若ハ構造ヲ變更セムトスルトキハ其ノ所有者ハ書面ニ事由ヲ具シ宮內大臣ヲ經テ勅許ヲ受クヘシ皇室財産令第五十六條第二項ノ規定ニ依リ勅許ヲ請フ場合亦同シ

第二十六條　遺留財産ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ其ノ所有者ニ於テ書面ニ事實ノ生シタル年月日及其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク宮內大臣ニ差出スヘシ

一　地目又ハ地番ニ變更ヲ生シタルトキ

二　建物ノ種類又ハ構造ニ變更ヲ生シタルトキ

三　實測ニ依リ土地ノ面積ニ差異ヲ生シタルトキ

四　公用ニ依リ土地ヲ收用セラレタルトキ

五　券面ノ金額ノ償還ヲ受ケタルトキ

六　物件ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ

第二十七條　皇室財産令第五十八條ノ規定ニ依リ勅許ヲ請フニハ書面ニ事由ヲ具シ之ヲ宮內大臣ニ差出スヘシ

第二十八條　遺留財産ニ關スル宮內大臣ノ公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲ス新聞紙ハ遺留財産ノ設定若ハ增加ノ申述者又ハ其ノ所有者ノ住所地及其ノ財産所在地ニ於テ發行スルモノニ限ル

第二十九條　遺留財産ニ關スル公告ノ費用ハ宮內省ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第三章　遺産相續

第三十條　相續拋棄ノ申述アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ拋棄ニ因リテ遺産相續人トナリタル者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三十一條　宮內大臣ニ於テ遺産ノ分割ヲ爲ストキハ宮內高等官中ヨリ三人以上ノ委員ヲ命シテ査定セシメタル後勅裁ヲ請フヘシ

第三十二條　宮內大臣ニ於テ相續財産ヲ管理スルトキハ其ノ財産ノ目錄ヲ調製スヘシ

第三十三條　遺産ノ清算ニ關スル宮內大臣ノ公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲ス新聞紙ハ遺産ノ前所有者ノ住所地及其ノ遺産所在地ニ於テ發行スルモノニ限ル

第三十四條　前二條ノ規定ニ依ル管理及公告ノ費用ハ宮內省ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

○御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付宮内大臣ノ代理者ヲ定ムル件

昭和三年十一月二日宮内省令第七號

御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外官制ニ定メタル所掌事務ノ區別ニ從ヒ皇室財産令第二條但書ノ規定ニ依リ部局長官及大臣官房ノ課長ヲ以テ宮内大臣ノ代理者トス

部局長官及大臣官房ノ課長宮内大臣ノ認可ヲ經テ特定ノ事項ニ付所部ノ官吏ヲ指定シタルトキハ其ノ官吏ヲ以テ宮内大臣ノ代理者トス

附　則

本令ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年宮内省令第十八號ハ之ヲ廢止ス

○皇室財産令其他ノ法規中解釋ニ關スル件

明治四十四年十月二十五日第六四六六號長官伺出同年十一月四日宮内大臣指令第三二七號

皇室財産令其他ノ法規ニ關スル疑義ハ左ノ通心得ヘシ

皇室典範增補第七條及第八條ハ固トヨリ皇族ニ關スル規定ニシテ御料ニ適用セラルヘキモノニ非スト雖同條立法ノ精神ハ皇族ニ關スル事項ヲラ典範ニ定メタルモノノ外ハ別ニ之ヲ定ムトシ又法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ典範及典範ニ基ツキ發スル皇室令ニ於テ別段ノ定メナキトキニ限リ之ヲ適用スト定メタルニ考ヘ御料ニ付テモ猶且之ノ趣旨ニ依ルノ意義ナリト認ムルヲ適當トス如斯御料ニ關シテハ猶皇族ト同シク增補ノ趣旨ニ從フモノナリト解シ乃チ財産令ニ於テ御料ニ關シテ準用スル法規ヲ民法第一編乃至第三編、商法及附屬法令ト限定セラルルニ至レリ從ツテ其ノ以外ノ法規ハ公益ノ爲ニスル財産ノ收用徵發又ハ制限ニ關スルモノト雖其法規中ニ於テ御料ニ適用スヘキモノトシタル明文アルニ非サレハ之ヲ御料ニ準用スヘキ限ニ非ルヤ明ナリ故ニ民事訴訟法ノ如キ砂防法砂鑛法鑛業法狩獵法ノ如キハ固トヨリ御料ニ準用スヘキモノニアラスト雖公益上必要アルモノ又ハ御料ニ適用スルコトヲ要スルモノニ付テハ各其法規中ニ御料ニ適用スヘキ旨ノ明文ヲ加フルカ然ラサレハ皇室令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルノ必要アリ

前項ノ如ク其法規ニ適用ノ明文ヲ設ケ又ハ皇室令ヲ以テ別段ノ定メヲ設ケラルルニ至ルマテノ間ハ法規ノ適用ニ基クニ非スシテ任意ノ處置ニ依ルコトヲ原則トシ乃チ其取扱方ニ付テハ

民事訴訟ノ如キハ從來ノ慣行ニ從ヒ機宜ノ處置ヲ執ルヘク

砂防法ニ付テハ政府ニ於テ御料地ヲ砂防指定地ト指定スルコト能ハスト雖宮内省ニ在リテハ公益上必要ナリト認ムル措置ハ法規ノ適用ヲ俟タスシテ之ヲ施スノ方針ヲ執ルヘク

鑛業法及砂鑛法ノ規定ニ依リ試掘採掘又ハ採取ヲ許可シタル處分又ハ此許可ニ基キ人民ニ於テ試掘採掘又ハ採取ヲ爲シツツアル行爲ニ對シテハ猶從來ノ慣例ニ從ヒ機宜ノ處分ヲ爲スヘク

河川法ニ依リ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ付テハ法規ノ拘束ハ之ヲ受クルコトナシト雖公益上ノ必要ニ考ヘ其ノ法規ノ意義ニ則リ地方行政廳ニ協議ヲ經テ許可ヲ受ケタルト同一ノ結果ニ至ラシムヘク

御料地ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除ニ付テハ狩獵法ニ依ルノ必要ナシト雖公益上必要ナル事項ハ法ノ適用ヲ俟タスシテ猶之ヲ遵守セシムルコトヲ要ス

○皇室財産令中被準用法ノ廢止、削除又ハ失效アリタル場合ノ解釋ニ關スル件（要旨）

大正十一年二月十七日第一〇三九號長官事務取扱上申同年二月二十三日參甲第一四七號宮内省參事官ヨリ左ノ通伺定ノ旨依命通牒

皇室財産令第八十七條第一項ハ「國有林野法第四條乃至第六條ノ規定ハ御料ニ屬スル林野ニ之ヲ準用ス」ト規定シ而シテ前揭國有林野法ノ法條ハ昨大正十年法律第四十三號ヲ以テ公布セラレタル國有財産法第三十一條ニ依リ同法ノ施行ト同時ニ其ノ效力ヲ失フヘキ儀ナレ共既ニ一度皇室財産令ノ内容トシテ準用セラレタル以上ハ假令被準用法條ノ廢止、削除又ハ失效アリトスルモ皇室財産令ノ内容トシテハ依然效力ヲ保有シ從前ト何等變更ナキモノト解釋ス

（參照）

國有財産法中抄

第十條　國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條　境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條　隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條　國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入リ、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ增減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○御料地ニ對スル土地收用法適用ノ件

昭和二年九月二十日參議第一〇二
號宮內省參事官ヨリ長官へ通牒

標記ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答有之候條御了知相成度

（別紙甲號）昭和二年八月十一日發議第九九號宮內省參事官ヨリ內務省土木局長へ照會

土地收用法施行令改正勅令案第三條第二項ニ於テハ起業地ニ編入スルニ付キ土地管理者ノ意見ヲ記載スル旨ノ規定有之候處當省ニ於テハ御料地竝皇室財產令第二十一條ニ揭クル皇族ノ御所有地ニ關シテハ皇室典範增補第七條、第八條竝皇室財產令第三條、第二十一條、第二十二條ノ規定ニ依リ土地收用法ノ適用ナキコト明瞭ナルモノト解釋ヲ以居且ツ施行令第三條第二項ノ規定ヲ新ニ加フルモ右解釋ハ何等變改ノ必要無之モノト思料候得共貴省ニ於ケル御意見爲念承知致度

（別紙乙號）昭和二年九月十三日內務省內土第一號內務省土木局長回答

八月十一日參議第九九號照會標記ノ件右ハ御意見ノ通ト存候

○世傳御料ニ屬スル財產ノ臺帳記載樣式

明治四十四年十二月二十九日
宮內省達第三號

皇室財產令第五條ノ規定ニ依ル世傳御料ニ屬スル財產ノ臺帳記載ノ樣式左ノ通定ム

第一　臺帳記載ノ樣式ハ別紙雛形ノ通

第二　土地臺帳ニ添附スル圖面ノ縮尺ハ左ノ如シ

一　宮殿又ハ正倉院寶庫ノ存在スル土地ニ付テハ六百分ノ一

二　市街ニ在ル土地ニ付テハ二千分ノ一

三　其ノ他ノ土地ニ付テハ二萬分ノ一但シ面積ノ小ナルモノニ付テハ特ニ其ノ圖面ノ一隅ニ輪廓ヲ施シ其ノ內ニ適宜ノ縮尺ヲ以テ擴大シタル圖ヲ揭クヘシ

第三　建物臺帳ニ添附スル圖面ノ縮尺ハ左ノ如シ

一　建物ノ全部ヲ示ス圖ニ付テハ六百分ノ一

二　部分毎ニ示ス圖ニ付テハ二百分ノ一

第四　動產臺帳ニ付テハ種類ニ依リテ簿冊ヲ區分スヘシ

第五　土地臺帳中名稱及所在ニハ右側ニ片假名ヲ附シテ其ノ讀方ヲ示スヘシ

（世傳御料土地臺帳雛形）

名稱	所在	地番	地目	面積	緒

（明治）年月日登錄　宮內大臣印　主管部局長官印　圖書頭印

附記　登錄附記又ハ訂正ノ年月日

世傳御料土地臺帳　宮內省

由

（世傳御料建物臺帳、世傳御料動產臺帳雛形略ス）

○普通御料ニ屬スル財產ノ帳簿又ハ目錄ニ關スル件

明治四十四年十二月二十一日訓令第二十一號

皇室財產令ノ規定ニ依ル普通御料ニ屬スル財產ノ帳簿又ハ目錄ハ當分ノ內其ノ現況價格及異動ノ判明スヘキ現在ノ帳簿目錄又ハ記錄ヲ以テ之ニ充ツヘシ

○世傳御料

明治二十三年十一月二十八日宮內省告示第二十七號

左ノ通世傳御料ニ編入セラレタリ依テ公告ス

勅書

朕皇室典範ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經左記ノ土地物件ヲ世傳御料ト定ム

御名御璽

明治二十三年十一月二十七日

名稱	府縣名	國名	市郡名
宮城	東京府	武藏國	東京市
赤阪離宮 青山御所	同	同	同
濱離宮	同	同	同
芝離宮	同	同	同
京都皇宮	京都府	山城國	京都市
二條離宮	同	同	同
桂離宮	同	葛野郡	
修學院離宮	同	愛宕郡	
函根離宮	神奈川縣	相模國	足柄下郡
正倉院寶庫	奈良縣	大和國	添上郡
三年町御料地	東京府	武藏國	東京市
高輪御料地	同	同	同
上野御料地	同	同	同
南豐島御料地	同	同	南豐島郡
函根御料地	神奈川縣	相模國	足柄下郡
畝傍山御料地	奈良縣	大和國	高市郡
度會御料地	三重縣	伊勢國	多氣 會郡
富士御料地	靜岡縣	駿河國	富士 東郡
	山梨縣	甲斐國	西八 南都 留代 郡
天城御料地	靜岡縣	伊豆國	那賀 加茂 田方 郡郡
千頭御料地	靜岡縣	遠江國	榛原 周智 郡郡
	長野縣	信濃國	上伊那郡 下伊那郡
萩原御料地	山梨縣	甲斐國	東山梨郡 西山梨郡
	靜岡縣	駿河國	駿東郡
丹澤御料地	神奈川縣	相模國	愛甲郡 足柄上郡
	山梨縣	甲斐國	南都留郡
三方御料地	靜岡縣	遠江國	敷知郡 長上郡 引佐郡 濱名 豐田 郡郡
相川御料地	山梨縣	甲斐國	東山梨郡 西山梨郡
	長野縣	信濃國	西筑摩郡 上伊那郡 下伊那郡
木曾御料地	岐阜縣	美濃國	惠那郡
		飛驒國	益田郡
七宗御料地	岐阜縣	美濃國	武儀郡
段戸御料地	愛知縣	三河國	北設樂郡

右御料地ノ面積段別及境界ハ御料局ニ保存スル所ノ圖面ヲ以テ標準トス

右宮城皇宮御所離宮竝寶庫ハ其土地建造物ヲ包含シ其動產ノ世傳御料ニ編入スヘキモノハ別ニ之ヲ定ム

錦織御料地	岐阜縣	美濃國	可兒郡
上川御料地	北海道廳	石狩國	上川郡

○富士御料地其ノ他ノ御料地中世傳御料解除ノ件

明治四十四年三月七日
宮內省告示第四號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ左記ノ世傳御料ハ之ヲ解除セラル

一　富士御料地中山梨縣甲斐國西八代郡所在全部六百八十八町四段二畝十三步及同縣同國南都留郡所在ノ內一萬三千二十町三段八畝一步

一　蒲原御料地中山梨縣甲斐國東山梨郡所在ノ內六萬二千三百九十六町一段六畝二十步

一　丹澤御料地中山梨縣甲斐國南都留郡所在全部千二百四十七町七段十步

一　相川御料地中山梨縣甲斐國東山梨郡所在ノ內千九百六十二町步

○宮城其ノ他ノ御料地ニ關スル世傳御料ノ解除編入及名稱變更ノ件

大正十年八月一日宮內省告示第二十二號

世傳御料ノ解除編入及名稱變更ノ件樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ左ノ通定メラル

解除

一　宮城ノ內
東京府武藏國東京市麴町區貳番宮殿地四萬貳千四百貳拾六坪

一　芝離宮

一　三年町御料地

一　南豐島御料地ノ內
東京府武藏國豐多摩郡代々幡町大字代々木字外輪千七百貳拾八番ノ壹宅地貳拾萬六千參百貳拾參坪

同府同國同郡同町同大字同字千七百貳拾八番ノ貳宅地參千百四拾九坪

同府同國同郡澁谷町大字下澁谷字常盤松參百貳拾壹番宅地參萬五百拾參坪

同府同國同郡同町大字青山南町七丁目貳拾七番宅地六千四百參拾五坪

一　函根御料地

一　度會御料地
一　富士御料地
一　天城御料地
一　千頭御料地ノ內
靜岡縣遠江國榛原郡五和村大字高熊千百六拾番林地貳百拾町九段八畝貳拾九歩
同縣同國同郡同村同大字字松下貳百七拾四番林地壹町六段五畝拾壹歩
同縣同國同郡同村同大字字社宮子六百六番林地參町貳段拾歩
同縣同國同郡同村大字大代貳千四百七拾七番ノ壹林地六百七拾五町四段參歩
同縣同國同郡同村同大字貳千四百七拾七番ノ貳農地貳百貳町八段八畝歩
同縣同國同郡同村同大字貳千六百六拾貳番農地百參拾八町貳段四畝拾七歩
同縣同國同郡同村同大字字樫塚貳千八百參拾九番農地八畝四歩
同縣同國同郡同村同大字貳千八百四拾番農地四拾八町五段五歩
長野縣信濃國下伊那郡八重河內村字梶谷千九百拾九番林地四百八拾八町四段四畝八歩
同縣同國同郡和田村字池口貳千五百五拾九番林地四百四拾七町八段貳畝貳拾六歩
同縣同國同郡木澤村字風向本谷山五百九拾參番林地五千參百七拾五町壹段參畝貳拾壹歩
同縣同國同郡上村字本谷山千參百貳拾壹番林地參千七百四拾壹町

壹段四畝九歩
同縣同國同郡大鹿村大字大河原字地獄谷中山日向五千拾貳番ノ參林地八百七拾八町四段四畝九歩
同縣同國同郡同村同大字字シナハキキタル五千拾貳番ノ壹林地參千七百四町八段五畝參歩
同縣同國同郡同村大字鹿鹽四千參百四拾六番林地千參百八拾參町六段四畝貳拾六歩
同縣同國上伊那郡伊那里村大字浦千九百四拾番林地壹萬千五百四拾五町貳段貳畝貳拾四歩
同縣同國同郡同村大字杉島字鹽澤貳千四百七拾九番林地百拾五町壹段九畝拾歩
同縣同國同郡美和村大字黑河內參千貳百拾壹番林地七千七百拾七町五段八畝拾六歩
同縣同國同郡同村大字非持字細ナキ參千八百貳拾七番林地參拾參町貳段九畝貳拾貳歩

一　萩原御料地
丹澤御料地ノ內
靜岡縣駿河國駿東郡小山町大字柳島六百七拾七番林地六百八町九段貳拾九歩
同縣同國同郡同町大字湯船千貳百七拾七番林地四百六拾參町九段拾參歩
同縣同國同郡同町同大字字ネリ坂貳百七拾八番林地四段六歩
同縣同國同郡同町同大字同字貳百九拾八番林地五段九畝貳拾六歩
同縣同國同郡北鄉村大字上野千五百五番林地參百四拾七町九段貳畝貳拾壹歩
同縣同國同郡同村大字中日向字北山七百參拾壹番林地貳百六拾五町參段六畝拾四歩
同縣同國同郡同村大字大御神字大洞山九百四拾番林地四百八町九段九畝九歩

一　三方御料地
但シ靜岡縣遠江國磐田郡龍山村大字瀨尻四百參拾貳番林地七百四拾八町五歩、同縣同國同郡同村大字大嶺千百貳拾七番ノ壹林地七拾參町八段八畝貳拾貳歩及同縣同國同郡浦川村大字浦川千六百拾七番ノ壹林地六拾貳町參段七畝壹歩ヲ除ク

一　相川御料地
一　段戶御料地ノ內
愛知縣三河國北設樂郡段嶺村大字豐邦字段戶山壹番ノ壹農地參百參拾七町四段貳畝貳拾參歩
同縣同國同郡同村同大字同字壹番ノ貳農地貳町六畝拾八歩
同縣同國同郡同村同大字田峰字段戶壹番ノ六農地六町壹畝貳拾四歩

一　錦織御料地
一　上川御料地

編入

一　千頭御料地
靜岡縣遠江國榛原郡上川根村大字千頭壹番ノ參林地八千八百六拾九町四段壹畝拾八歩
同縣同國同郡同村同大字同字壹番ノ貳農地貳町六畝拾八歩
同縣同國同郡同村同大字瀨尻八百七拾番林地四百六拾壹町貳段四畝貳拾貳歩

名稱變更
一　三方御料地ハ之ヲ瀨尻御料地ト改稱ス

○南豐島御料地其ノ他ノ御料地ニ關スル世傳御料ノ解除及編入ノ件

昭和六年十一月九日宮內省告示第二十九號

世傳御料ノ解除及編入ノ件稟密顧問ノ諮詢ヲ經テ左ノ通定メラル

解除

一　南豐島御料地ノ内
東京府武藏國東京市四谷區内藤町拾壹番ノ壹雜地拾壹萬八千七百六拾六坪四合八勺ノ内百六拾參坪七合六勺
同府同國豐多摩郡澁谷町羽澤壹番宅地五百八拾八坪五合四勺
同府同國同郡同町同百參番宅地四千參百參拾五坪七合六勺
同府同國同郡同町同百參番ノ貳宅地四拾坪
同府同國同郡同町同百四番宅地千九百四拾六坪貳合四勺

一　靜岡縣遠江國榛原郡上川根村大字奥泉字高橋山百參拾番林地拾九町參段六畝貳拾四歩
同縣同國同郡中川根村大字藤川九百七拾六番ノ壹林地五拾八町七段拾九歩

一　丹澤御料地ノ内
神奈川縣相模國愛甲郡宮ケ瀨村
煤ケ谷村字丹澤山壹番林地千八百四拾六町參段參畝貳拾五歩
同縣同國足柄上郡三保村大字玄倉五百九拾七番林地參千參百七町八畝貳拾四歩
同縣同國同郡同村大字中川九百貳拾七番林地四千四百四拾參町壹段四畝壹歩ノ内貳千四百壹町五段貳拾六歩

一　木曾御料地ノ内
長野縣信濃國上伊那郡赤穗村大字赤穗壹番林地貳千五百八拾四町八段六畝貳歩ノ内五百貳拾參町壹段六畝貳歩

同縣同國同郡飯島村大字飯島參千九百拾九番林地千五百參拾六町八段四畝五歩
同縣同國同郡七久保村字烏帽子ケ岳裏山參千拾五番林地四百參拾八町九段九畝參歩
同縣同國下伊那郡大島村大字大島字大島山貳千七百四拾九番林地參百九拾貳町四段九畝拾七歩
同縣同國同郡上飯田町八千百七拾八番林地參百七拾四町九段四畝壹歩
同縣同國同郡同町八千百七拾九番林地八拾四町壹段四畝拾七歩
同縣同國同郡同町八千百拾六番林地百參拾九町六段九畝八歩
同縣同國西筑摩郡楢川村大字奈良井字本澤九拾九番林地拾六町九段參畝四歩
同縣同國同郡同村大字贄川貳百四拾四番ノ壹林地百七拾九町六段貳畝七歩ノ内拾九町五段五畝八歩
同縣同國同郡同村　大字同字大岨貳百四拾四番ノ貳林地壹畝貳拾歩
同縣同國同郡同村大字同字巢山澤貳千七百七番ノ壹林地八拾壹町六段六畝壹歩
同縣同國同郡木祖村大字藪原參百四拾貳番林地九拾七町九段拾七歩
同縣同國同郡同村大字菅千九百五拾壹番林地百九町五段九畝拾五歩
同縣同國同郡同村大字同字奥峰ノ下平貳千九百七拾壹番林地四拾

貳町七段參畝九歩
同縣同國同郡同村大字同字木山澤水澤千七百參拾六番林地拾貳町五段六畝拾五歩
同縣同國同郡同村大字同字佛澤貳百七拾五番林地拾町七段拾參歩
同縣同國同郡同村大字同字樽ケ澤參百貳拾九番林地六段九畝拾貳歩
同縣同國同郡同村大字同字松原五百貳拾五番林地四段參畝四歩
同縣同國同郡同村大字同字吉田トヤ澤參百參拾壹番林地貳畝貳拾七歩
同縣同國同郡奈川村壹番林地參千五百貳拾參町五段八畝五歩ノ内貳拾貳町七段拾參歩
同縣同國同郡同村字入山向四千四百四拾貳番林地參拾七町壹段七畝拾九歩
同縣同國同郡開田村大字西野五千參百四拾六番林地千七百七拾町四段七畝拾參歩ノ内百拾參町八段七畝六歩
同縣同國同郡三岳村貳千百七拾九番林地六拾町九段七畝貳歩
同縣同國同郡同村八千貳百貳拾四番林地五町貳段拾貳歩
同縣同國同郡同村字鹿ノ瀨四番林地八町壹段六畝貳拾壹歩
同縣同國同郡同村字サル橋六百五拾番林地四町四段八畝參歩
同縣同國同郡同村字障子澤ヨリ樋ノ澤迄四百七拾四番林地百拾九町九段九畝貳拾六歩
同縣同國同郡同村字穴澤ヨリ白川水上迄貳千五百壹番林地五町參段八畝貳拾七歩
同縣同國同郡同村字岩井ノ澤岩ヌ貳千八百四拾參番林地壹町貳段參畝拾壹歩
同縣同國同郡同村字目塚淵貳千八百四拾番林地七町壹畝參歩
同縣同國同郡同村　字太田六百六拾四番林地拾町七段七畝貳拾八歩
同縣同國同郡同村字赤澤八百九拾六番林地拾參町貳畝壹歩
同縣同國同郡同村字小奥澤八百九拾貳番林地五町貳畝拾壹歩
同縣同國同郡同村字家ノ奥九百六拾四番林地參町壹段九畝貳拾八歩
同縣同國同郡同村字万七平九百五拾九番林地壹町壹段壹畝貳拾貳歩
同縣同國同郡同村字上ミダレ參千九百參拾七番林地拾五町五段壹畝拾參歩
同縣同國同郡同村字蛇尾四千七拾九番林地貳拾貳町參段七畝貳拾貳歩
同縣同國同郡同村字一合澤參千八百貳拾番林地貳町八段貳畝拾八歩
同縣同國　同郡同村字野口六千貳拾七番林地貳町壹段四畝貳拾貳歩
同縣同國同郡同村字本社上參千貳百八拾七番林地拾九町四段拾八歩
同縣同國同郡同村字根土參千貳百八拾四番林地拾貳町六段九畝拾

八步
同縣同國同郡同村字樽澤七千七拾四番林地拾町七段壹畝貳拾九步
同縣同國同郡同村字三郎澤八千貳百貳拾七番林地五町貳段四畝拾九步
同縣同國同郡同村字三郎澤カカミ平八千貳百貳拾六番林地貳町八段六畝壹步
同縣同國同郡同村字ヱ久保壹萬九百九拾六番林地拾六町四段六畝貳拾六步
同縣同國同郡同村字小澤壹萬九百九拾七番林地拾壹町五段四畝五步
同縣同國同郡同村字大日向左平壹萬九百九拾八番林地拾九町貳段五畝貳步
同縣同國同郡新開村字此ツクリ八千參百四拾番ロ號林地參拾五町九段參畝拾步
同縣同國同郡同村字ミツクリ八千參百參拾九番ロ號林地拾四町八段貳畝貳拾步
同縣同國同郡同村字暗リ澤參千九百貳拾九番林地六町四段九畝貳步
同縣同國同郡同村字大澤樽上六千貳百七拾壹番林地四拾六町七段五畝拾六步
同縣同國同郡同村字赤尾六千貳百七拾四番林地貳拾九町五段九畝貳拾七步

同縣同國同郡同村字岩伏六千貳百六拾壹番林地五拾參町四段貳畝拾七步
同縣同國同郡日義村字越尾拾四番林地五町五段六畝六步
同縣同國同郡同村字山吹拾五番イ號林地四町九段九畝九步
同縣同國同郡同村字南宮森千四百九拾壹番林地參町壹段四畝貳拾壹步
同縣同國同郡同村字神谷八百八拾八番林地參拾貳町貳段七畝拾六步
同縣同國同郡上松町大字小川字大平四千貳百參拾番ロ號林地四町九畝拾參步
同縣同國同郡同町大字同字小路方五千八百四拾參番林地四町六段壹畝參步
同縣同國同郡同町大字同字床澤日影五千八百九拾參番林地壹町五段四畝貳拾步
同縣同國同郡同町大字上松字棧上千貳百九拾貳番林地貳町貳拾四步
同縣同國同郡同町大字同字長坂下貳千參拾九番林地七段四畝貳拾七步
同縣同國同郡同町大字同字大ハゲ千九百七拾四番林地貳段九畝貳拾步
同縣同國同郡同町大字荻原字岡本參千參百參拾壹番林地壹町七段拾七步
同縣同國同郡同村字赤尾六千貳百七拾四番林地貳拾九町五段九畝貳拾七步

貳拾貳步
同縣同國同郡王瀧村九百貳拾貳番ノ壹林地貳萬六千貳百九拾六町參段六步ノ內貳町九畝拾參步
同縣同國同郡同村字蛇尾參千百五拾壹番林地拾壹町貳段七畝貳拾壹步
同縣同國同郡同村字卷ケ坂千六百七拾壹番林地壹町壹段參畝拾七步
同縣同國同郡同村字アンバ川北千六百參拾貳番林地五町四畝拾五步
同縣同國同郡同村字池澤九百拾六番外地七町壹段　九畝貳拾步
同縣同國同郡同村字木賊平八百貳拾貳番林地壹町七段七畝貳拾八步
同縣同國同郡大桑村大字殿字八ケ澤參拾參番林地貳町參畝貳拾七步
同縣同國同郡同村大字同字中西參百拾六番林地五段九畝拾參步
同縣同國同郡同村大字野尻字ニガ溝百五拾四番林地六町四段七畝五步
同縣同國同郡同村大字須原四百八拾七番林地六拾七町七段參畝貳拾步
同縣同國同郡同村字赤ナギ貳千七百六番林地壹町七段五畝七步
同縣同國同郡吾妻村字井戶入千四百參拾八番林地貳拾參町六段五畝八步
同縣同國同郡同村大字長野字ニガミゾ參千百貳拾番林地七段壹畝貳拾七步

同縣同國同郡讀書村字大原四千七百八拾八番ロ號林地六町七段貳拾五步
同縣同國同郡同村字高曾根四百六拾八番イ號林地八段參畝拾七步
同縣同國同郡同村字瀨羽石貳千六百四拾八番ロ號林地壹町參段六畝參步
同縣同國同郡同村字釜ノ上四千九百八拾壹番林地貳町四段五畝五步
同縣同國同郡同村字松山貳千九百參拾七番ロ號林地貳町貳段貳拾四步
同縣同國同郡同村字羅天四千九百八拾六番林地七町參段九畝貳拾九步
同縣同國同郡同村字片ランカン四千九百參番イ號林地壹段五步
同縣同國同郡山口村字井戶九拾六番林地四町八段九畝拾參步
同縣同國同郡同村字大又九百六拾五番林地參町五段八畝貳拾九步
同縣同國同郡同村字水口千八百貳拾貳番林地參町六段八畝拾四步
同縣同國同郡同村字シンナシ貳千五百五拾五番林地貳町五段六畝步
同縣同國同郡同村字赤ナギ貳千七百六番林地壹町七段五畝七步
同縣同國同郡吾妻村字井戶入千四百參拾八番林地貳拾參町六段五畝八步
同縣同國同郡神坂村字草木井戶入千四百六拾壹番林地壹町九段壹畝拾七步

同縣同國同郡同村字寄澤井戸入　八百參拾七番林地拾貳町五段五歩
同縣同國同郡同村字　兼好屋敷　奥井戸入　八百七番林地　六段六畝七歩
岐阜縣飛驒國益田郡高根村大字阿多野鄉壹番林地四拾貳町八段八畝壹歩
同縣同國同郡同村大字同拾四番林地參百七拾五町八段七畝貳拾七歩ノ内五拾七町五畝參歩
同縣同國同郡小坂町大字湯屋字鹽谷九百五拾九番林地貳拾貳町貳段四畝壹歩
同縣同國同郡同町大字大洞字岩コヶ貳千五百九拾四番林地拾八町貳段四畝拾歩
同縣美濃國惠那郡加子母村字福崎參千八百八拾五番林地參拾壹町貳段四畝五歩
同縣同國同郡同村字杉ヶ平參拾六番林地貳拾七町壹段六畝歩
同縣同國同郡同村字尾山五千九百七拾八番林地參拾壹町貳段四畝五歩
同縣同國同郡付知町字小屋ヶ尾壹萬千八百四拾八番林地五拾町八段參畝九歩
同縣同國同郡同町字馬小屋七千貳百九拾四番林地參拾壹町貳段參畝貳拾九歩
段戸御料地ノ内

一

愛知縣三河國北設樂郡段嶺村大字田峰字段戸壹番ノ壹林地四千五百六拾四町八段七畝拾八歩ノ内參町七段四畝拾八歩
同縣同國同郡同村大字同字同壹番ノ貳農地千參百參拾八町四段八畝歩ノ内四百七拾八町壹段四畝貳拾壹歩
同縣同國同郡同村大字同字同壹番ノ四農地百拾參町壹段七畝歩ノ内參拾貳町八段九畝五歩
同縣同國同郡同村大字同字同壹番ノ五農地貳百參拾參町四段五畝六歩ノ内拾六町參段六畝拾貳歩

編入

一

南豐島御料地
東京府武藏國東京市四谷區内藤町拾壹番ノ參雜地四百六拾九坪六合貳勺

一

木曾御料地
長野縣信濃國上伊那郡川島村大字横川壹番林地參千六百參拾壹町七段八畝拾參歩
同縣同國西筑摩郡楢川村大字贄川字贄川澤千貳百七拾八番林地四畝參歩
同縣同國同郡同村大字同字同千貳百七拾九番林地四畝拾七歩
同縣同國同郡同村大字同字同千貳百八拾八番林地五拾町八段參畝九歩
同縣同國同郡同村大字同字二ノ澤五百參拾五番林地六畝拾壹歩
同縣同國同郡同村大字同字同五百參拾六番林地六段九畝貳拾貳歩
同縣同國同郡同村大字同字同五百四拾番林地四段七畝九歩
同縣同國同郡同村大字同字林五百參拾九番ノ貳林地四拾壹町壹段五畝貳歩
同縣同國同郡奈川村字黒川奥貳千九百五拾五番林地壹町四段六歩
同縣同國同郡同村字黒川内貳千九百五拾六番林地參段八畝貳拾歩
同縣同國同郡上松町大字小川字カヤノ參千四百貳拾五番ノ貳林地八町壹段八畝壹歩
同縣同國同郡同町大字同字小川入ウルイ澤四千貳百八拾八番ノ貳林地五段參畝貳拾七歩
同縣同國同郡王瀧村字橡澤千六百六拾參番ノ貳林地貳町七段七畝拾歩
同縣同國同郡吾妻村字長者畑四千六百四拾五番林地拾壹町八段七畝貳拾貳歩
岐阜縣飛驒國益田郡朝日村大字寺附百貳拾七番林地百四拾貳町六段五畝九歩
同縣同國同郡小坂町大字小坂貳千拾九番林地百拾八町參段貳拾壹歩
同縣同國同郡同町大字落合字小黒川山貳千參百七拾六番ノ四林地參百九町七段壹畝貳拾九歩
同縣同國同郡同町大字同字センズイ貳千參百七拾七番林地七拾七町九段九畝拾壹歩
同縣同國同郡同町大字同字ユノウ貳千參百八拾四番林地七町九段貳畝貳拾九歩
同縣同國同郡同町大字門坂九百五番ノ貳林地七拾四町七段壹畝拾四歩
同縣同國同郡同村大字大洞貳千五百番林地七百六拾町壹畝貳拾貳歩
同縣同國同郡同町大字同貳千五百七番林地貳百八拾八町七段貳畝四歩
同縣同國同郡竹原村大字乘政字ゴウロ栃貳千六百貳拾五番ノ貳林地貳畝歩
同縣美濃國惠那郡川上村字奥屋千五拾壹番ノ貳林地六拾壹町七段貳畝貳拾八歩

一

愛知縣三河國東加茂郡賀茂村大字御内藏連字金澤山壹番林地貳百九拾五町五段壹畝貳拾貳歩

○世傳御料ニ屬スル土地ノ所在地番地目及面積

大正十年八月一日宮内省告示第二十三號

（改正）昭和六年宮内省告示第八號

名稱	所在					地番	地目	面積
	府縣	國	郡市區町村	大字字等				
赤坂離宮	東京府	武藏國	東京市	麹町區		一ノ一	宮殿地	六二九、〇三七 坪四五
青山御所	同					一ノ二	同	五、五五五 四三
宮城	同					一ノ三	同	五一九四五
	同					一ノ四	同	四〇三 八一
	同					一ノ五	同	六五六
	同					一ノ六	同	一、一六九 四四
	同					一ノ七	同	八九五
	同					一ノ八	同	一一八六
	同					一ノ九	同	四九五六
	同					一ノ一	宮殿地	一八五、五七一、二七
	同					一ノ二	雜地	二〇三、七三
濱離宮	東京府	武藏國	東京市	京橋區	築地四丁目	一ノ三	宮殿地	七五、四八九、〇〇
京都皇宮	京都府	山城國	京都市	上京區		四三八ノ一	宮殿地	二七〇、六九三、〇〇
二條離宮	京都府	山城國	京都市	中京區		五四一	宮殿地	八三、〇五一、〇〇
桂離宮	京都府	山城國	葛野郡	桂村	下桂御園	一ノ一	宮殿地	一三、一六七、〇〇
修學院離宮	京都府	山城國	愛宕郡	修學院村	下修學院	一ノ一	宮殿地	八四、二四五、〇〇

名稱	所在					地番	地目	面積
	府縣	國	郡市區町村	大字字等				
函根離宮	神奈川縣	相模國	足柄下郡	元箱根村		塔ヶ島	宮殿地	四〇、九九九、〇〇
正倉院寶庫	奈良縣	大和國	奈良市			一七一	宮殿地	四〇、九九九、〇〇
御料地	東京府	武藏國	東京市	芝區	高輪西臺町	一	宮殿地	三三、七三二、〇〇
上野御料地	東京府	武藏國	東京市	下谷區	新谷町	二	同	一〇、七九九、〇〇
	東京府	武藏國	東京市	四谷區	雜司町	一五一ノ一	宅地	五、一六一、〇〇
	同					一ノ二	宅地	三三、〇一二、〇〇
	同				內藤町	一一ノ一	雜地	一一八、七六六、四八
	同					一一ノ四	同	四一、一二、〇〇
	同					一一ノ五	同	二九四、五二
	同					一、〇二ノ一	同	一四六、〇〇
	同				千駄ヶ谷町	一、〇二ノ二	同	六四、七八八、〇〇
	同					一、〇二ノ三	同	一、二七九、〇〇
	同					一、〇二ノ四	同	九三、〇〇
	同				千駄ヶ谷	大谷戶	一宅地	七二、九七九、四六
	同				渋谷町	羽澤	一同	五八八、五四
	同					一〇三	同	四、三三五、七六
	同					一〇三ノ二	同	四〇〇
	同					一〇四	同	一、九四六、二四
南豐島御料地								

御料地頭								
同	同	同	静岡縣	遠江國				
同	同	同		周智郡	榛原郡			
同	同	同	水窪町	上川根村	熊切村			
同	同	同	奥領家	千頭	千頭	川上	小俣京丸	
同	同	同	白倉山	千頭山	奥山	奥山	奥山	
同	同	同	五、六二七	一ノ一	二、四五二、三八	四八四	二〇五	
同	同	同	林地	同	同	同	同	
同	同	同	二、九四六	地頭方	山住	豐岡	灰繩山	
同	同	同	地頭方		カリワラ山	灰繩山	六〇	
同	同	同	山住		四〇	同	同	
同	同	同	豐岡	灰繩山	六〇	同	同	
同	同	同	氣多村	小俣京丸	奥山	二〇五	同	
同	同	同	熊切村	川上	奥山	四八四	同	
同	同	同	眞菅村	慈明寺	大谷峰山	二四八ノ一	同	
同	同	同	慈明寺	三九一ノ一	同	同	同	
同	同	同	大谷峰山	二四八ノ一	同	同	同	
同	同	同	酒屋垣內	二六三	同	同	同	
同	同	同	二六四	同	同	同	同	
同	同	同	吉田新林	二七一ノ一	同	同	同	
同	同	同	山本	四二四ノ一	同	同	同	
同	同	同	洞峰山	二〇六ノ一	同	同	同	
同	同	同	欽傍町	四〇一ノ一	林地			
同	同	同	高市郡	欽傍町	眞菅村	慈明寺	大谷峰山	二四八ノ一
同	同	同	大和國	高市郡	欽傍町	眞菅村	慈明寺	大谷峰山
同	同	同	奈良縣	欽傍	欽傍	欽傍	欽傍	欽傍
同	同	同	地山	町歩	九二九一五			

御料地尻								
同	同	同	静岡縣	遠江國				
同	同	同		磐田郡	足柄上郡			
同	同	同	龍山村	三保村	玄倉	奥泉	高橋山	犬間
同	同	同	瀨尻	世附	中川	七	一三〇	一ノ一
同	同	同	林地	九三〇	九二七	同	同	同
同	同	同	四三二	五九七	同	同	同	同
同	同	同	林地	五九七	同	同	同	同
同	同	同	大嶺	同	同	同	同	同
同	同	同	八七〇	同	同	同	同	同
同	同	同	一、一二五	同	同	同	同	同
同	同	同	一、一二七ノ一	同	同	同	同	同

御料地澤								
同	同	同	神奈川縣	相模國				
同	同	同		愛甲郡				
同	同	同	宮ケ瀨村	煤ケ谷村				
同	同	同	中川根村	藤川				
同	同	同	藤川	丹澤山	一林地			
同	同	同	丹澤山	一林地	四三二	林地		
同	同	同	井戸澤山	一ノ四	同	同	同	同
同	同	同	セキノ澤	一ノ五	同	同	同	同
同	同	同	奥泉	七	同	同	同	同
同	同	同	高橋山	一三〇	同	同	同	同
同	同	同	犬間	一ノ一	同	同	同	同
同	同	同	一ノ二	同	同	同	同	同
同	同	同	一ノ三	同	同	同	同	同
同	同	同	九七六ノ一	同	同	同	同	同
同	同	同	井戸澤山	一ノ二	同	同	同	同
同	同	同	澤口山	一ノ二	同	同	同	同

同			浦川村	浦川		一、六二七ノ一	同	六二三 七〇一
同						一、六二七ノ二	同	一四三 三九〇〇
長野縣	信濃國	上伊那郡	宮田村			四、七四九	林地	二、六五五 三二〇六
同			赤穗村	赤穗		一	同	二、五八四 八六〇三
同			飯島村	飯島		三、九一九	同	一、五三六 八四〇五
同			七久保村		烏帽子ケ岳裏山	三、〇一五	同	四三八 九九〇三
同		下伊那郡	大島村	大島	大島山	二、七四九	同	三九二 四九一七
同			上飯田町			八、一七八	同	三七四 九四〇一
同						八、一七九	同	八四 一四一七
同						八、一一六	同	一三九 六九〇八
同		西筑摩郡	楢川村	奈良井		一、三三〇	同	一、一七三 二九二七
同						二、九三一	同	二、五七三 二七一九
同					橋戸	一、〇五六	同	六八〇 二八〇六
同					福澤	二、五一二	同	一三四 〇二〇九
同					本澤	九九	同	一六九 三〇四
同				贄川		五三九ノ一	同	七四五 六一二〇
同						二四四ノ一	同	一七九 六二〇七

同						二、二八五	同	四一六 七二〇八
同					境澤	二〇	同	五二 一四三六
同					大岨	二四四ノ二	同	〇 〇二二〇
同					巣山澤	二、七〇七ノ一	同	八二 六六〇一
同					桃岡澤	二、一五六	同	五九 五四二二
同			木祖村	小木曾		一、一六三	同	七、三三八 一七〇九
同				藪原		三四二	同	九七 九〇一七
同					鹽澤	一、三七二	同	六〇二 三五二三
同				菅		一、九五一	同	一〇九 五九一五
同					奥峰ノド平	二、九七一	同	四三 七三〇九
同					木山澤 水澤	一、七三六	同	一三 五六一五
同					佛澤	二七五	同	一〇 七〇一三
同					榑ケ澤	三二九	同	〇 六九一三
同					松原	五二五	同	〇 四三〇四
同					吉田トヤ澤	三三一	同	〇 〇二三七
同			奈川村			一	同	三、五二三 五八〇五
同						一、一七六	同	一 三六七 七〇二四

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
入山向	開田村　西野					末川		三岳村										
四、四四二	同	三七、一七九																
一、二四八	同	七七八、一八〇九																
五、三三九	同	七三三五、六																
五、三四六	同	一、七七〇、四七一三																
一、二四五	同	三五、四八一四																
一	同	二、八四九、一八三																
一	同	二、三五三、一四〇五																
二、一七九	同	六〇、九七〇三																
四	同	五、一〇一三																
六五〇	同	八、一六二																
四七四	同	四四八〇三																
四七四	同	一二、九九、一六六																
二、五〇一	同	五三八、七																
二、八四三	同	二、三三一																
二、八四〇	同	七〇、一〇三																
六六四	同	一〇、七二八																
八九六	同	一三、〇一〇一																

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
小奥澤	家ノ奥	万七平	上ミダレ	蛇尾	一合澤	野口	浦澤ヨリ川戸澤迄	本社上	根土	樽澤	三郎澤	三郎澤カカミ平	澤渡	″久保	小澤	大日向左平		
八九二	九六四	九五九	三、九三七	四、〇七九	三、八二〇	六、〇二七	三、〇二七	三、二八七	三、二八四	七、〇七四	八、二二七	八、二二六	一〇、七六四	一〇、九九六	一〇、九九七	一〇、九九八		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
五〇三一	三一九二八	二一三三	一五五一三	三三七三三	二八三一八	二一四三	二三八五一〇	一九四〇一八	二三六九一八	一〇七一二九	五二四一九	二八六〇一	五一八六二五	一六四六二六	一二五四〇五	一九二五〇三		

同						大ケ峰	二、一八八	同	一〇八二五〇五
同						藤掛	二、八九七	同	三九三三〇五
同				新開村			一〇、二五三	同	一九〇〇二六
同							三、三三〇	同	三八三〇一〇三
同							一三三	同	一、〇三八六八三
同						此ツクリ	八、三四〇ロ號	同	三五九三一〇
同						ミツクリ	八、三三九ロ號	同	一四八二三〇
同						暗リ澤	三、九二九	同	六四九〇三
同						大澤檸上	六、二七一	同	四六七五一六
同						赤尾	六、二七四	同	二九五九二七
同						岩伏	六、二六一	同	五三四二一七
同						穴ケ澤	四、七四六	同	三八五四〇三
同						カヨガ澤	四、五三〇	同	四四〇一〇
同				日義村			一、二二九	同	二、〇〇一九九〇六
同						越尾	一四	同	五五六〇六
同						山吹	一五イ號	同	四九九〇九
同						南宮森	一、四九一	同	三一四二

木曾御料地

同						神谷	八八八	同	三二七一六
同				福島町			一	同	三四七〇一八
同							二四五	同	二七〇六〇二〇
同							六、四一二	同	三九七八九一〇
同						和合澤	四、六一三	同	一七〇八二〇〇
同				上松町	小川		四、二八八ノ一	同	五、九二〇五一〇八
同							三五九	同	二、三二〇〇〇一
同							三、四三五ノ一	同	三三三三〇
同						スヤマ澤	三五八	同	三三八一二七
同						大平	四、三三〇ロ號	同	四〇九一三
同						加瀬木	五、六〇七	同	二六七四〇三
同						小路方	五、八四三	同	四六一〇三
同						床澤日影	五、八九三	同	一五四三〇
同					上松		一、三〇三	同	一三三二八一〇
同							一、二八一	同	一五一四七二八
同						棧上	一、二九二	同	二〇〇二四
同						長坂下	二、〇三九	同	〇七四二七

同		荻原	大ハゲ	一、九七四	同	〇二九二〇
同				一	同	一、五六九八一一八
同				七九	同	五七四三四〇七
同			岡本	三、三三一	同	一七〇一七
同			木戸澤	三、三三二	同	〇三五二三
同	王瀧村			九二二ノ一	同	二六、二九六三〇〇六
同				九二二ノ二	同	四一〇五
同				九二二ノ三	同	三一〇九
同				九二二ノ四	同	〇〇二七
同				九二二ノ五	同	三九〇五
同				一、六六三ノ一	同	二四七七三二四
同			蛇尾	三、一五一	同	一二七二二
同			巻ケ坂	一、六七一	同	一一三一七
同			アンバ川北	一、六三二	同	五〇四一五
同			池澤	九一六	同	七一九二〇
同			木賊平	八二二	同	一七七二八
同	大桑村	殿		三一	同	一、四六八〇六二六

同			八ケ澤	三三	同	二〇三二七
同			中西	三一六	同	〇五九一三
同		野尻		三、一二六	同	一二七一三五
同				五七三	同	五、三一〇三三六
同			ニガ溝	一五四	同	六四七〇五
同		須原		四八七	同	六七七三二〇
同				九五	同	七、一八四九二八
同			岩茸ヨリ猿澤迄	四二五	同	一八五一三三
同		長野		五〇五	同	三、七〇七九五二七
同			ニガミゾ	三、一二〇	同	〇七一二七
同	讀書村			一	同	三、五五六〇八二〇
同				一、八〇四	同	四、〇〇六三四〇六
同			大原	四、七八〇ロ號	同	六七〇二五
同			高曾根	四六八イ號	同	〇八三一七
同			瀬羽石	二、六四八ロ號	同	一三六〇三
同			釜ノ上	四、九八一	同	二四五〇五
同			松山	二、九三七ロ號	同	二二〇二四

同					羅天	四、九八六	同	七三九二九
同					片ランカン	四九〇三イ號	同	〇一〇〇五
同					箱タタミ八人石	五、五一四	同	五一三四一七
同					三ケ其	二、四二一	同	七八三〇〇
同			田立村			一	同	一、四二一五二〇五
同			山口村		賤母ドウドコ	一	同	三三九四三三四
同					井戸	九六	同	四八九一三
同					大又	九六五	同	三五八二九
同					水口	一、八二二	同	三六八一四
同					シンナシ	二、五五五	同	二三五六〇〇
同					赤ナギ	二、七〇六	同	一七五〇七
同			吾妻村			一六四	同	二、三五二四七〇八
同						一、七四七	同	二、七六八二五三八
同					賤母	一、〇九〇	同	二七三七〇六
同					井戸入	一、四三八	同	三三六五〇八
同			神坂村			八〇八	同	二、六三三四六一三
同					草木井戸入	一、四六一	同	一九一一七

同					寄澤井戸入	八三七	同	一三五〇〇五
同					箕好屋敷奥井戸入	八〇七	同	〇六六〇七
岐阜縣	飛驒國	益田郡	朝日村	青屋		三、五三八	同	一、七七七三三〇六
同				胡桃島		四二六	同	一、三四三一五二九
同			高根村	日和田		一、七三九	同	一、四二八九九一一
同						一五	同	六三一八三三
同				阿多野郷		一	同	四三八〇一
同						五九五	同	九四四四一二七
同						一四	同	三七五八七二七
同				中洞		九〇一	同	五八四八二九
同						九〇七	同	一八五八二
同						九一二	同	八三三三三〇
同				池ケ洞		三九五	同	一、一九四五八一〇
同				野麥		五四	同	三八九八一二
同						一	同	五二六二二七
同						六一六	同	一、一九九一六〇三
同			小坂町	落合		二、三七六ノ二	同	四〇六四四〇八

	同						二、三七六ノ一	同	八、三二八四六二五
	同				門坂		九〇五ノ一	同	六七二四六二六
	同						九五五	同	三三三〇三三
	同				赤沼田		一、八八六	同	三〇九七六一七
	同				湯屋	鹽谷	九五九	同	三三二四〇二
	同				大洞		二、四四一	同	三、二七〇七二九
	同					岩コケ	二、五九四	同	一八二四一〇
	同			竹原村	乘政		二、六二五一	同	五七八八五二七
	同					足谷	二、六二二	同	五八二〇一五
	同				御厩野		二、八一四	同	三四〇八二九
	同	美濃國	惠那郡	加子母村			一〇一	同	四、九六九九八二六
	同					福崎	三、八八五	同	三二二四〇五
	同					杉ケ平	三六	同	二七一六〇〇
	同					尾山	五、九七八	同	三二二四〇五
	同			付知町			一〇〇	同	一、五六一八七〇三
	同					小屋ケ尾	二、八四八	同	五〇八三〇九
	同					馬小屋	七、二九四	同	三二三三九

	同			川上村			一、〇五二	同	一、三五七〇三四
	同			落合村		釜澤	一、三六ノ一	同	一九四六五三三
	同			中津町	中津川	惠那山	四、〇六二	同	二、三三七四三〇四
	同			阿木村	阿木	丸山	七、九六ノ一	同	二四一〇〇三四
	同			上村		上村山	一、九七五	同	四、三二三〇四一六
七宗御料地	岐阜縣	美濃國	武儀郡	神淵村		七宗山	一五、一五二	林地	一、五六三〇一一五
段戸御料地	愛知縣	三河國	北設樂郡	段嶺村	田峰	段戸	一ノ一	林地	四、五六四八七一八
	同						一ノ二	農地	一、三三八四八〇〇
	同						一ノ三	同	七四四〇〇
	同						一ノ四	同	一二三一七〇〇
	同						一ノ五	同	三三三四五〇六
	同			田口町	松戸	日蔭平	一	林地	一三五三七

○御料地ヲ貫通セサル河川及里道ノ所屬ニ關スル件

明治四十四年六月九日
第二一六一ノ四號長官達

御料地ヲ貫通セサル河川及道路ノ所屬ニ關シ別紙甲號ノ通宮内次官ヨリ内務次官ヘ照會相成候處乙號ノ通回答有之候條此旨心得ヘシ

（別紙）

（甲號）四十四年四月二十六日甲第一七四號宮内次官照會

御料地内ニ發源セル河川ノ所屬ニ付テハ去明治二十六年十二月貴省訓令第六九四號ノ趣旨ニ依リ當省ニ於テハ取扱來候處地方廳ニヨリテハ今仍ホ御料地ト認ムヘキ河川ヲ公圖簿上國有地トシテ取扱居候向有之

趣且又御料地内ヲ貫通セサル道路（後道ニシテ里道タリシモノ）ニ付テモ前記河川同樣國有地トシテ取扱フ向モ有之趣ニ候ヘ共該道路ハ專ラ御料地ノ爲ニ供用セラルヽモノニ付當省ニ於テハ御料地トシテ引繼カレタルモノト認メ取扱來居候次第ニ付此際前記ノ河川並道路敷共御料ノ所屬ニ一定相成其旨各地方廳ヘ御訓示方可然御取計相成度

追テ本文ノ河川並道路敷共從來ノ通一般ノ利用ニ供セラルヽハ何等妨ナキ義ニ有之候

（乙號）四十四年五月二十七日内務省土第九七九號内務次官回答

河川及道路ヲ御料地ノ所屬ニ一定方客月二十六日甲第一七四號ヲ以テ御照會ノ趣了承本日別紙寫ノ通リ御料地所在ノ地方長官ヘ及通牒候條御了知相成度

（別紙　宮内次官ノ照會ト同趣意ナル故略ス）

（參照）

明治二十六年十一月二十日訓第六九四號訓令

廳府縣（警視廳ヲ除ク）

官有土地水面公私有ノ區別ニ就テハ是迄稟申ニ對シ指令及ヒ置候旨モ有之候處自今公私有ノ區分ヲナストキハ其公用ニ供シタルモノヲ公有トシ其他ヲ私有トシテ取扱フヘシ

右訓令ス

内務大臣

●御料地内ニ介在セル溜池湖水及御料地内ヲ貫通セサル溝渠等ノ處理ニ關スル件（要旨）

明治四十四年八月二十四日内務省土第一三〇五號土木局長ヨリ長官ヘ回答

御料地内ニ介在セル溜池及湖水ノ地籍ヲ御料地トシテ取扱フハ不可然義ト存候ニ付御料地内ヲ貫通セサル溝渠ニシテ御料地區域内ニ屬スル部分ノミニ限リ御料地内ヲ貫通セサル河川及道路ノ例ニ準シ處理スヘキ旨今般御料地所在地方長官ヘ通牒取計置候

●御料地外起業水力電氣事業ニ關スル件

大正四年九月一日43第一九八六ノ一五號主事依命通牒

御料地外起業出願ニ係ル水力電氣事業ニシテ御料地産出木材運搬上ニ障碍ヲ及ホスヘキモノノ處理方ニ關シ別紙甲號ノ通遞信省電氣局長ヘ照會相成候處今般乙號ノ通同局長ヨリ回答有之候就テハ右支障ノ有無地方長官ヨリ照會アリタルトキハ事實及意見等ヲ詳具シ經伺相成候樣致度候

（別紙甲號）明治四十三年十二月二十四日第一九八六ノ一二號長官照會

近年水力電氣事業各地方ニ相起リ其起業ニシテ御料地内ニ係ルモノハ起業者ヨリ水流使用方豫メ當局ヘ願出候モ御料地外ニ起業スルモノニ至リテハ創業後ニ於テ漸ク之ヲ覺知スルコト有之候爲メ自然御料地産出木材ノ運搬上ニ障碍ヲ被ルコト可有之候ニ付左記河川流域（本流、支流、溪流等ヲ包含ス）ニ於テ實際起業出願者アル場合ニハ御許可前豫メ當該地方廳ヨリ當局支廳ヘ御通報相成候樣致度

（左記河川名略）

（別紙乙號）大正四年七月二十六日電監甲第一六六一號遞信省電氣局長回答

明治四十三年十二月二十三日附第一九八六號ノ一二ヲ以テ照會ニ係ル件ハ別紙寫ノ通リ地方長官ニ通牒置候ニ付右ニ了知相成度

（別紙）

電監甲第一六六一號

大正四年七月二十六日

遞信省電氣局長

縣知事

依命通牒

發電用水利使用許可ニ關シテハ從來流筏其他水運ノ關係等ニ付テモ調査相成居候義ト被存候得共國有林野又ハ御料地内産出ノ木材運搬ニ關係アル箇所ニ於テハ之カ支障ノ有無等特ニ精細調査ヲ遂ケタル上稟伺手續相成候樣致度當該官署ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付爲念此段及通牒候也

●御料地ヲ保安林ニ編入方ノ件

大正三年八月十一日第二七八九ノ二號達

保安林編入方ニ關シ別紙ノ通農商務省山林局長ヨリ申越候條御料地モ可成其趣旨ニ依リ取扱フヘシ

（別紙）

山林局長ヨリ長官ヘ申牒　大正三年七月十一日林第二四九四號

本年四月十七日付山第五九六號ヲ以テ明治四十年十二月林發第二七一號通牒中第十號ヲ削除シタル旨申進置候處今回大林區署長ニ對シ別紙ノ通及通牒候條御含置相成度尚ホ貴局ニアリテモ可成之ト同樣ノ手續取運ハルヽ樣致度

（別紙）大正三年七月十七日林第二四九四號山林局長ヨリ大林區署長ヘ通牒

本年四月十七日付山第五九六號ヲ以テ明治四十年十二月林發第二七一號通牒中第十號ヲ削除シタル旨及通牒置候處左記該當ノ國有林野中治水上重要ノ關係ヲ有スルモノハ可成利害關係者ノ申請又ハ地方長官ノ認定ヲ俟タス進ンテ相當調査ノ上保安林編入ノ手續取運ハレ度

記

一、民有保安林ニ接續シ又ハ其附近ニアル國有林野ニシテ保安關係重要ナルモノ

二、治水上ノ必要ニヨリ施業制限地ト爲シタルモノ

三、其他保安上關係重大ニシテ保安林ニ編入スルヲ必要ト認メタルモノ

●御料地ヲ砂防地ニ指定ノ場合取扱方ノ件

大正四年十一月七日第二六二七ノ二號主事通牒

砂防法ハ皇室財産令施行ノ日ヨリ御料地ニ適用ナシト雖當分從來ノ例ニ依リ取扱可然旨去明治四十四年十二月二十七日付第六四六六ノ三號ヲ以テ及通牒候處皇室財産令施行後ニ於テ實際御料地ヲ砂防地ニ指定スル場合ハ豫メ當局ノ承諾ヲ經ヘキハ勿論ノ義ニ付其邊誤解ナキ樣地方廳ノ注意ヲモ促シ地方廳ヨリ御料地ヲ砂防地ニ指定ノ件協議ヲ受ケタルトキハ諾否ノ意見ヲ具シ長官ノ指揮ヲ受ケラレ度

追テ皇室財産令施行後地方廳ニ於テ讓渡協定濟ノ故又ハ過誤等ニ因リ砂防地ニ指定シタルモノ有之候ハヽ此際追認ノ手續履行候樣地方廳ヘ御交涉ノ上本文ニ依リ御取扱相成度

○河川法ノ規定ニ該當スル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治四十二年三月八日第八八八ノ二號長官達

河川法ノ規定ニ該當スル場合等取扱方ノ義ニ關シ明治三十一年七月十三日第三六七四ノ二號ヲ以テ相達シ置キ候次第モ有之候處尙今般別紙寫ノ通內務大臣ヨリ本省大臣ヘ通牒有之候條爲心得此旨相達ス

（別紙）　四十二年二月十九日土甲第二號內務大臣訓牒

貴省ニ於テ施設セラルル事項ニシテ河川法ノ規定ニ該當スル場合ノ取扱方ニ付テハ明治三十一年六月十五日甲第二九號ヲ以テ及通牒置候次第モ有之候所同法ノ規定ニ依リ發布セラレタル明治三十年十月勅令第三百七十七號及明治三十三年七月勅令第三百號ニ記載シタル事項ニ付テモ同樣地方廳ヘ商議相成度

○國立公園法ノ運用ニ關スル件

昭和六年十月十六日內務省發衞第一一九號內務次官照會

本月一日國立公園法施行セラレ候ニ付同法ノ運用ニ際シテハ國立公園調査會ノ取極ノ趣旨ニ基キ左記ノ通處理致度

記

一、國立公園ノ指定、計畫又ハ事業ニシテ御料地ニ關係アルモノニ付テハ國立公園委員會ニ附議スル以前ニ於テ豫メ宮內省ノ承認ヲ得ルコト

二、國立公園ノ施設ノ敷地トシテ御料地ヲ使用スル必要アルカ如キ事業ヲ國立公園事業トシテ特許セントスルトキハ豫メ帝室林野局長官ニ協議スルコト

三、國立公園ノ施設ノ敷地ニ必要ナル御料地ハ事業上支障ナキ限リ貸付其ノ他ノ方法ヲ以テ施設ニ支障ナカラシムルコト

四、風致其ノ他公園ノ主要目的ノ爲必要ナル土地ニシテ御料地トシテ必要ナキモノアルトキハ讓渡ニ付協議スルコト

五、御料地經營ノ爲ニスル施設ニシテ國立公園ノ目的ニモ供用シ得ルモノハ事業上支障ナキ限リ使用セシムルコト

六、御料林野ノ施業ノ方針ハ施業案決定前其ノ大綱ニ付內務省ニ協議スルコト

七、國立公園區域內ノ御料地ヲ處分セントスルトキハ豫メ內務省ニ協議スルコト

八、國立公園法第八條又ハ第九條ノ規定ニ基キ內務大臣ノ許可ヲ受クヘキ行爲ヲ帝室林野局ニ於テ爲サントスルトキハ豫メ內務省ニ協議スルコト

國立公園法第九條ノ規定ニ基キ內務大臣ニ屆出ヲ爲スヘキ行爲ヲ帝室林野局ニ於テ爲サントスルトキハ豫メ內務省ニ通知スルコト

（昭和六年十二月十七日宮內大臣官房祕書課宮發第六八八號宮內次官回答）

本年十月十六日附內務省發衞第一一九號ヲ以テ國立公園法ノ運用ニ關スル件御照會ノ趣了承當省ニ於テハ第七號及第八號ヲ除キ異存無之候追テ第七號及第八號ノ事項ニ付テハ國立公園經營上支障無之樣考慮致ヘキ見込ニ有之候

二　臺帳、登記

●普通御料地帳簿假樣式ノ件

大正五年七月十八日第一八四二號
主事ヨリ各地方部局長ヘ通牒

普通御料地ノ帳簿樣式ハ皇室財產令施行規則第十二條ニ依リ制定相成候處右ハ現在ノ帳簿又ハ記錄ヲ以テ之ニ充ツヘキ旨曩ニ訓令相成居候ニ付分合筆等地籍整理濟ノモノハ順次現在ノ帳簿卽從來ノ臺帳面ニ更正ヲ加フヘキ義ニ有之候處斯クテハ是迄不要存地、社寺上地等特賣處分ノ爲メ加除セシ臺帳面ニ一層ノ錯雜ヲ來タシ取扱上不便不尠義ニ候條追テ樣式制定相成候迄過般御協議ニ及ヒタル別紙樣式ノ帳簿ヲ用ヒ分合筆等地籍整理濟ノモノヨリ順次登錄相成度

追テ不要存御料地ハ舊臺帳登錄ノ儘御處理相成度

（樣式）

普通御料地帳簿用紙（甲號）

名稱	所在	地番	地目	面積	關係圖簿	
					經界簿	圖面

事由摘要

舊臺帳面ノ地籍						編入ノ目的	前所有者	取得ノ原因	取得ノ年月日	編入ノ際ニ於ケル條件
町村	大字	字	地番	地目	面積 町				年月日	

年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日

帝室林野局

普通御料地帳簿用紙（乙號）

名稱	所在	地番	地目	面積	現況	價格	編入又ハ除却ノ條件

事由摘要

保安林												
種類	土砂扞止 防備	飛砂 防備	水害 風害 潮害 防備	危險 防止	水源 涵養	魚附	公衆 衛生	風致	設備地	補	保管區別	
面積 町												
編入年月日 解除年月日												

物權		
種類	地役權	地上權
目的		
設定 登記 年月日	昭和年月日設定 昭和年月日登記	昭和年月日設定 昭和年月日登記
期間	自昭和年月日 至昭和年月日	自昭和年月日 至昭和年月日
料金	年額	年額
關係文書 年次番號	昭和年第號	昭和年第號
備考		

諸調査				
登記	分合筆	踏査	調量	施業案

帝室林野局

●普通御料地帳簿記載實測面積ニ關スル件

大正十五年七月十日監第七一一號長官ヘ伺定

普通御料地帳簿ニ記載ノ面積ニシテ當局ノ實測ニ係ルモノハ何等ノ付記ヲ爲サヽルモ其面積ニシテ從來未實測若クハ再測ヲ要スルモノハ其面積ノ下方ニ「舊臺帳面積」又ハ「從來面積」ノ文字ヲ記入致來リ候處自今當局ノ實測ニ係ル分ニ對シテノミ實測ノ二字ヲ附記シ置クコトニ取扱フコト

○御料地臺帳等整理ニ關スル件

明治四十四年三月十八日第一〇四三號長官達

御料地臺帳等整理ニ關シ別紙甲號ノ通宮内次官ヨリ大藏次官ヘ照會相成候處乙號ノ通回答有之候

（別紙）

甲號

宮内次官ヨリ大藏次官ニ照會（明治四十四年三月一日宮内大臣官房文書課甲第七一號）

先般皇室財産令發布相成來四十五年一月ヨリ施行セラルヘキノ處從來ノ御料地臺帳ハ地目面積等實地ニ適合セサルニ依リ豫テ之カ改善ヲ期スル爲疆界ノ踏査、測量及施業案ノ編成中ニ付是等ノ調査ニ基キ此ノ際別記廉書ニ依リ土地ノ合筆地目及面積ノ更訂ヲ施シ臺帳等ノ整理ヲ行ヒ度候條右御了承ノ上其ノ旨關係ノ官署ヘ御訓示方可然御取計相成候樣致度

追テ本文ノ義ハ皇室財産令施行準備上急速處理ヲ要シ候條右御含ノ上可然御取計相成度且又實際分合筆等ニ關シ當省帝室林野管理局ヨリ貴省所轄官署ヘ及協議候場合ニハ可成便宜ヲ與ヘラレ候樣特ニ御配意相成候樣致度

記

一、要存御料地ノ分合筆ヲ爲スコト

1 一團地ハ大字（大字ナキトキハ可成一町村）ヲ限度トシ一筆ト爲スコト但シ一團地内ニ利用ノ目的ヲ異ニスル區域約三分ノ一以上又ハ面積約五十町歩以上アルトキハ特ニ其ノ地域ヲ一筆地ト爲スコト

附記　道路、河川及溝渠等ノ貫通スル場合ト雖之ヲ一團地ト看做スコト

2 面積ハ實測既濟ノ箇所ハ其ノ面積ニ改メ實測未濟ノ箇所ハ從來ノ面積ニ依ルコト

3 第一號ノ合筆ヲ爲ス場合ニハ土地所轄ノ稅務署等ヘ協議スルモ圖面ハ添付セサルコト

二、地目ハ左ノ六種トシテ整理スルコト

1 宮殿地
2 陵墓地
3 林地
4 農地
5 宅地

6 雜地

前二項ニ對スル附記

掛下其ノ他ノ事由ニ依リ離隔スル場合ニハ有租地ト同樣ノ地番及地目ヲ附シ土地臺帳ノ登錄及登記等ニ支障ナキ樣取扱フコト

乙號

大藏次官ヨリ回答（明治四十四年三月六日往第二二〇一號）

本月一日甲第七一號ヲ以テ御照會有之候御料地臺帳整理ニ關シ當省關係官署ヘ訓示方ノ件ハ本日其旨示達致置候

追テ稅務署土地臺帳ニ登錄セラレタル御料地ノ分筆ニ關シテモ所轄稅務署ト協議ノ上處理スルコトニ致候

●官有地購入ノ場合ニ於ケル御料地臺帳登錄方ノ件

大正三年四月二十七日第一七五七號地籍課ヨリ長官ヘ伺定

從來官有地ヲ御料地トナシタル場合ニ於テハ編入ナルト購入ナルトヲ問ハス總テ實地授受ノ日ヲ以テ御料地臺帳ニ登錄シ民有地ニ付テハ買上ノ日即チ所有權移轉ノ日ヲ以テ御料地臺帳ニ登錄ノコトニ相成居夫是其ノ取扱ヲ異ニスル義ニ候處土地ノ購入ニ關シテハ官有民有ノ區別ニ依リ臺帳登錄ノ日附ヲ異ニスル要無之ト存候條自今官有地購入ノ場合モ民有地ト同樣所有權移轉ノ日ヲ以テ御料地臺帳ニ登錄ノコト

●鑛業上土地使用ヲ出願スル者ニ地籍臺帳謄本又ハ證明書下付方ノ件

明治三十八年九月十四日第三五六四ノ二號局長達

鑛業法第五十六條第二項同施行細則第六十二條ニ依リ土地使用ヲ出願スル者ニ對シ地籍臺帳謄本又ハ證明書下付方ノ件ニ付別紙甲號ノ通リ農商務大臣ヨリ照會有之乙號ノ通リ及回答候條右ニ據リ取扱儀ト心得フヘシ

（別紙甲號）（明治三十八年八月二十九日鑛發第一五號農商務大臣照會）

鑛業法第五十六條第二項ニ依ル土地使用願ニハ同細則第六十二條ニ依リ使用地ノ土地登記謄本ヲ添ヘシムルコトト相成之ニ依リテ其ノ使用地ニ關スル權利者ヲ調査スルコトト相成候處御料地、國有林等登記ナキモノニ付テハ謄本ヲ受クルノ遑ナク從テ其ノ使用地ニ關スル權利者ヲ知ルノ便モ無之候ヘトモ御料地等ニ付テモ土地ニ關スル權利ヲ有スル者可有之樣被存候ニ付此等ノ場合ニハ所管官廳備付ノ臺帳謄本又ハ證明書ヲ差出サシムルコトニ取定候條向後鑛業權者ヨリ土地使用願提出ノ爲ニ必要ナリトノ理由ニ依リ御所管地籍臺帳ノ謄本等土地ニ關スル權利者ヲ知ルノ資ニ供スヘキ書面ノ下付方願出候節ハ各支廳（現行支局）ニ於テ便宜御下付相成候樣致度

（別紙乙號）　明治三十八年九月十四日第三五六四ノ二號局長回答

鑛業法第五十六條第二項同施行細則第六十二條ニ依リ土地使用ヲ出願スル者ニ對シ地籍臺帳謄本又ハ證明書下付方ノ件八月二十九日鑛發第一五號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ地籍臺帳謄本ニ在テハ當局ヘ、土地ニ關スル權利者等ノ證明ニ在テハ當局各支廳事務所（現行支局）ヘ下付方出願スル義ニ候ハヽ、差支無之ニ付其旨夫々通達致置候條御諒知相成度

追テ地籍臺帳謄本ハ當局ヨリ下付スヘキモノナルモ單ニ其御料地タルノ證明書ニテ足ル儀ニ候ハヽ、支廳事務所（現行支局）ヨリ下付スルモ妨ケ無之ニ付御了知相成度爲念申添候也

●建物臺帳規程

明治三十七年十一月二十八日
第三七八五ノ一二號局長達

（改正）　明治四十三年第一七〇七號

第一條　地方部局ニハ建物臺帳ヲ備ヘ置キ其管理ニ係ル一切ノ建物ヲ登錄スヘシ

第二條　建物臺帳ノ用紙ハ別紙樣式ニ據リ建物毎ニ甲、乙號ノ二種ヲ連綴スヘキモノトス

第三條　建物臺帳ハ別紙說明書ニ據リ之ヲ記載スヘシ

第四條　各建物ニ關スル平面圖竝ニ構內ニ在ル建物ノ配置圖ヲ調製シ別ニ之ヲ備ヘ置クヘシ

建坪ヲ增減シ又ハ建物ノ內部ヲ變更シタルトキハ其部分ノ平面圖ヲ製シ之ヲ全圖ノ增減又ハ變更シタル部分ニ貼付シ其關係ヲ明カナラシムヘシ

圖面ハ總テ百分ノ一トシ別紙凡例ニ據リ之ヲ調製スルモノトス

但シ建物ノ配置圖ニシテ臺帳用紙ノ幅ヲ超ユルトキハ適宜縮圖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ縮尺ヲ凡例ニ表示スヘシ

第五條　建物ヲ新築改築又ハ購入シタルトキハ直ニ甲號用紙ニ記載シ其圖面ヲ添ヘ本局ヘ進達スヘシ

第六條　建物及附屬地ノ坪數ニ增減ヲ生シタルトキハ其都度甲號樣式ニ記入スヘキ事項ヲ取調ヘ其部分ニ關スル圖面ヲ添ヘ本局ヘ報告スヘシ

第七條　建物ノ名稱又ハ其用途ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ其旨ヲ本局ヘ報告スヘシ

第八條　建物ヲ賣却其他處分シタルトキハ其旨ヲ本局ヘ報告スヘシ

（別紙）

建物臺帳樣式ニ關スル說明書

甲號用紙ノ部

一　番號トアル欄ニハ便宜建物ニ附シタル番號ヲ記入スルモノトス

二　名稱トアル欄ニハ何々支廳舍又ハ何々出張所長官舍等ト記スルモノトス

三　位置トアル欄ニハ國郡（市）町村、大字、字地番（鳥番ナキトキハ御料地名）ヲ記スルモノトス

四　備考トアル欄ニハ何年月迄ハ何々廳舍タリシモ何々ト改正シタル爲何々ト改稱ス又ハ何地何某ノ所有家屋ヲ（敷地ト共ニ）買收シタルモノナリ等ト沿革欄以下ニ記入スヘキ事項以外ニ沿革ニシテ重要ナルモノヲ記スルモノトス

五　上段ノ年月日トアル欄ニハ新築、增築、改築及ヒ一部又ハ全部取壞シ其竣工シタル年月日又ハ購入シタル年月日ヲ記スルモノトス

六　屋根トアル欄ニハ其構造卽チ瓦葺、板葺、茅葺等ノ別ヲ記スルモノトス

但シ庇等ノ屋根ニシテ本家ノ屋根ト異ナルモノアルモ是等ハ記スルニ及ハス

七　材質トアル欄ニハ石造、煉瓦造、木造等ノ別ヲ記スルモノトス

八　費額トアル欄ニハ建築又ハ購入シタル金額ヲ記スルモノトス

九　上段ノ摘要トアル欄ニハ事務室狹隘ニ付增築又ハ大小便所ヲ分離新設シタル爲メ取壞ス等ト其事由ヲ記スルモノトス

十　下段ノ年月日トアル欄ニハ敷地等ニ充用シ又ハ坪數ヲ增減シタル年月日ヲ記スルモノトス

十一　敷地トアル欄ニハ其建物ノ敷地ノミヲ記スルモノトス

十二　其他トアル欄ニハ構內ニ於ケル敷地以外ノ空地ヲ記スルモノトス

若シ構內ニ數棟ノ建物アル場合ニ於ケル空地ニシテ何レノ建物ニ附屬セシムヘキヤ判然セサルモノハ總テ主タル建物ノ部ニ合算シテ記スルモノトス

十三　下段ノ摘要トアル欄ニハ御料地又ハ民地借入等ノ別及其增減ノ事由等ヲ記スルモノトス

十四　建坪又ハ敷地等ニ增減アリタルトキハ其都度次ノ行ニ計ヲ爲シ現在ノ坪數ヲ明カナラシムルモノトス此ノ計數及ヒ減少ノ坪數並ニ其事由ハ之ヲ朱書スルモノトス若シ同時ニ增減シタルトキハ其事由ハミヽハ墨書スルモノトス

乙號用紙ノ部

一　初行ノ年月日トアル欄ニハ明治三十七年十二月三十一日トシ各欄ニハ同日現在ノ物件ヲ取調ヘテ記入シ摘要トアル欄ニハ十二月三十一日現在調ト記入スルモノトス

次行以下ノ年月日トアル欄ニハ物件ノ增減變更ヲ爲シタル年月日ヲ記入スルモノトス

二　其他ハ甲號用紙ノ記載例ニ準據シテ記入スルモノトス

（凡例及樣式略）

●建物臺帳規程ニ所謂建物ノ解釋ニ關スル件

明治三十八年七月十八日37第三七八五ノ六七號主事通牒

建物臺帳規程ニ所謂建物ノ定義ヲ一定セサル爲メ或ハ其解釋ヲ異ニシ取扱區々ニ出ツルノ虞モ有之候處右建物中ニハ堀立小屋ニシテ敷居鴨居ノ取付ケ及ヒ戶障子疊等卽建具類ノ設備モナク眞ニ一時的使用ニ止マルモノハ之ヲ包含セシメサル旨趣ニ有之候條右御了知相成度將又經常費ヲ以テ建設シタル建物ト臨時費ヲ以テ建設シタル建物ト無償ヲ以テ取得シタル建物トハ之ヲ同一臺帳中ニ於テ夫々區分ヲ爲シ且甲號樣式中構造ニ關スル摘要欄內ヘ經常費又ハ臨時費ヲ以テ新築若ハ無償ヲ以テ取得ノ旨記入ノ事ニ御取扱相成度

●建物臺帳規程ニ關スル件

大正二年八月二十一日
第三九二六號主事通牒

建物臺帳規程第五條ニ依リ御進達ノ甲號建物臺帳所載ノ費額ハ會計、支出報告ト往々符合セサルモノ有之候處其ノ差額ハ乙號建物臺帳所載ノ建設物等ニ要シタルモノト認メ處理致來候ヘ共自今ハ甲號建物臺帳御進達ノ副申書ニ右差額ノ費途ヲ揭記シ會計、支出

報告ニ對照シ得ル樣御取扱相成度

●建物除却ニ關スル件

大正十三年十二月十三日監第一一二二ノ二號
次長ヨリ各支局長林業試驗場長ヘ依命通牒

從來建物ノ除却ニ付テハ支局處務規程第三條第四號（現行支局長林業試驗場長及出張所長處務規程第二條第五號）ニ依リ悉ク具申相成リ居リ候處燒失、流失、又ハ倒潰其他ニ因リ現形ヲ存セサルカ或ハ若干ノ材料ヲ殘存スルモ全然價値ナク放棄ノ外ナキ場合ニ在リテハ其事由ヲ報告スルト共ニ直チニ建物臺帳ヲ削除シ其旨報告相成度

●森林鐵道、軌道、道路及車輛臺帳並ニ附屬圖面調製心得

昭和五年四月二十一日業第二四一號長官達

一　本局支局及出張所ニハ森林鐵道、軌道、道路及車輛臺帳並ニ附屬圖面ヲ備ヘ置クヘシ

二　臺帳及附屬圖面ハ左記ノ通リトス

森林鐵道臺帳　橋梁、隧道ヲ區別シ其樣式別紙ノ通リ
軌道臺帳　永久的ノ軌道ヲ掲ケ森林鐵道ノ樣式ニ依ル
道路臺帳　車道以上ノ道路ヲ掲ケ樣式別紙ノ通リ
車輛臺帳　機關車、木材運搬車、雜用車ニ區分シ其樣式別紙ノ通リ

森林鐵道臺帳附屬圖面
平面圖縮尺五千分ノ一、縱斷面圖縮尺　橫五千分ノ一　縱五百分ノ一
土工定規圖縮尺五十分ノ一、橋梁圖縮尺　五十分ノ一乃至二百分ノ一
隧道定規圖縮尺五十分ノ一、停車場平面圖縮尺千分ノ一

軌道臺帳附屬圖面
森林鐵道臺帳附屬圖面ニ同シ

道路臺帳附屬圖面
平面圖縮尺五千分ノ一、縱斷面圖縮尺　橫五千分ノ一　縱五百分ノ一
土工定規圖縮尺五十分ノ一、橋梁圖縮尺　五十分ノ一乃至二百分ノ一
隧道定規圖縮尺五十分ノ一

三　臺帳及附屬圖面ハ當該支局又ハ林業試驗場ニ於テ之ヲ調製シタル上其ノ謄寫ヲ本局及關係出張所ニ送付スヘシ

四　臺帳及附屬圖面ノ記載事項ニ異動ヲ生シタル場合ハ之ヲ訂正シ本局及關係出張所ニ報告スヘシ

五　車輛臺帳附屬修繕表、運行表、檢査表ハ地方鐵道法ノ樣式ヲ參照シテ作製シ地方部局ニ備付クヘシ

森林鐵道、軌道、道路及車輛臺帳樣式

用紙ハ堅牢ニシテ永久保存ニ堪ユルモノ使用ノコト

何々森林鐵道

（支線ハ何々森林鐵道何々支線
延長線ハ何々森林鐵道延長線ト記載）

番號

位置	起點		變更年月	摘要	增減金額	累計
	終點				円	円
延長		道床厚				
幅員		橋梁數				
軌間		隧道數				
軌條		停車場數				
勾配最急		起工年月				
最小半徑		竣工年月				
建設費						
種目		金額				
		円				
計						
用地費						
總計						

備考　種目欄ニハ土工、橋梁、隧道、軌道、停車場設備、工場設備、通信線路等建設費ニ屬スル一切ノ種目ヲ記載ノコト
摘要欄ニハ增設改設（維持修繕ヲ含マス）撤去等增減ニ關スル要旨並ニ其事由ヲ記載ノコト
減額ノ場合ハ朱書ノコト

何々森林鐵道　　何々橋梁

（支線ハ何々森林鐵道何々支線
延長線ハ何々森林鐵道延長線ト記載）

番號

種目		年月現況	變更修理年月	摘要
位置				
徑間	總長			
	各箇ノ長及箇數			
角度及方向				
桁及栱	材質			
	設計荷重			
	製造所			
橋臺	材質			
	基礎工			
橋脚	材質			
	基礎工			
翼壁ノ材質及構造				
橋梁上線路ノ勾配及曲線				
起工年月				
竣工年月				
費額				
記事				

備考　本臺帳ニハ徑間3.5米突以上ヲ記載ノコト
摘要欄ニハ變更修理ノ要旨並ニ其事由ヲ記載ノコト

何々森林鐵道　　何々隧道

（支線ハ何々森林鐵道何々支線
延長線ハ何々森林鐵道延長線ト記載）

番號

種目	年月現況	變更修理年月	摘要
位置			
延長			
構造			
地質			
坑內線路ノ勾配及曲線			
起工年月			
竣工年月			
費額			
記事			

備考　構造欄ニハ栱、側壁、仰栱、卷立ノ狀況、坑門築造ノ材質等記載ノコト
摘要欄ニハ變更、修理ノ要旨並ニ其事由ヲ記載ノコト

何々道路

（支線ハ何々道路何々支線
延長線ハ何々道路延長線ト記載）

番號

位置	起點		變更年月	摘要	金額	累計
	終點				円	円
延長						
幅員						
勾配	平均					
	最急					
最小半徑						
起工年月						
竣工年月						
經費	工事費					
	用地費					
	計					

備考　摘要欄ニハ增築、改築（維持修繕ヲ含マス）等ニ關スル要旨並ニ其事由ヲ記載ノコト

出張所　　機關車　　番號

種目		第號	摘要
形式			
牽引力			
最大寸法		長　巾　高	
汽筩		直徑　衝程	
實用汽壓			
火床面積			
傳熱面積			
焔管			
火室			
過熱面積			
焔管			
水槽容量及燃料櫃容積		水槽　燃料櫃	
機關車重量		盈　空	
車軸一對軌條面上壓力	導輪		
	働輪	一位　二位　三位	
	從輪		
車輪		直徑　輪鐵巾　輪緣 厚　高　車輪一對ノ輪鐵內側距離	
	導輪		
	働輪		
	從輪		
固定輪軸距			
車軸		ヂヨーナル 徑　長　ホヰールフイツト 徑　長	
	導輪		
	働輪 一位		
	働輪 二位		
	働輪 三位		
	從輪		

制動機	種類　制輪子		
緩衝器	種類	軌條面上ヨリ中心高	頭部ノ大サ
聯結器			
擔彈機			
製造所			
製作年月及使用開始年月			
代價			

備考　所管出張所ニ於テ本臺帳附屬修繕表、運行表、檢査表ヲ作製スヘシ

出張所　　ガソリン機關車　　番號

種目		第號				摘要
型式						
牽引力						
機關	型式					
	汽筩數					
	汽筩徑					
	衝程					
	馬力					
着火裝置						
給油裝置						
冷却裝置						
傳動裝置						
速度						
燃料櫃						
重量						
固定輪軸距						
車輪		直徑	輪鐵巾	輪緣	車輪一對輪鐵內側距離	
				厚高		
車軸		デヨーナル		ホヰールフイツト		
		徑	長	徑	長	
制動機						
緩衝器						
聯結器						
擔彈器						
製作所名						
製作年月						
使用開始年月						
代價						

備考　所管出張所ニ於テ本臺帳附屬修繕表、運行表、檢査表ヲ作製スヘシ

出張所　　木材運搬車　　番號

種目 ＼ 番號		自第號至第號	自第號至第號	自第號至第號	自第號至第號	自第號至第號	自第號至第號
輛數							
最大寸法	長						
	幅						
	高						
固定輪軸距							
制動機							
緩衝器							
聯結器							
擔彈器							
製作年度							
使用開始年月							
經費	一輛ノ製作費						
	計						
摘要							

備考　所管出張所ニ於テ本臺帳附屬修繕表ヲ作製スヘシ

雜

出張所

事輛名 / 種目 / 番號		摘要
最大寸法	長	
	幅	
	高	
固定輪軸距		
制動機		
緩衝器		
聯結器		
擔彈器		
製作年度		
使用開始年月		
經費	一輛ノ製作費	
	計	

備考　所管出張所ニ於テ本臺帳取扱條緒表ヲ作製スヘシ

○御料地ノ地番設定分合及登記囑託手續

明治三十八年四月十七日第一四〇六號局長ヨリ大臣ヘ伺定

當分ノ間別册ノ通一定シ右ニ據リ施行スルコトニ致度追テ本文御決裁ノ上ハ其執行ハ當局限リ取扱フコトニ致度

（別册）

御料地ノ地番設定分合及登記囑託手續

第一　地番ノ設定ナキ御料地ニ對シ所有權保存ノ登記ヲ要スルトキ若ハ御料地整理上地番ヲ附スルノ必要アルトキハ地番設定ノ手續ヲ爲スモノトス

第二　一筆ノ御料地ヲ分割シテ拂下、下付其他ノ事由ニ依リ民有ニ讓渡ヲ爲サントスルトキハ分筆ノ手續ヲ爲スモノトス

分割スヘキ御料地カ既登記ナルトキハ他官廳ヘ讓渡スル場合ニ於テモ亦分筆ノ手續ヲ爲スモノトス

第三　地番ノ設定及分筆ノ手續ハ左ノ時期ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　社寺上地ノ特賣處分ニ在リテハ社寺上地御料林野處分案ノ決裁（大臣）アリタルトキ（本處分案ハ地番設定若ハ分筆濟ヲ俟テ議案ニ地番ヲ記入シテ議決ノ手續ヲ爲スモノトス）

二　上地以外ノ御料地ノ特賣處分ニ在リテハ拂下許可指令案ノ決裁（大臣）アリタルトキ

三　御料地ノ公賣處分ニ在リテハ公賣執行ヲ地方部局ヘ令達スヘキ講案ノ決裁（局長）アリタルトキ

四　下付其他ニ在リテハ其處分案ノ決裁（大臣）アリタルトキ

第四　新ニ地番ヲ設定セントスルトキハ別紙甲號書式ニ據リ所轄稅務署ヘ協議ヲ遂ケ之ヲ設定スルモノトス

第五　地番ノ設定ナキ御料地ノ分筆ヲ爲スニハ別紙乙號書式ニ據リ所轄稅務署ヘ協議ヲ遂ケ各分割地ニ地番ヲ設定スルモノトス

第六　地番ノ設定アル御料地ノ分筆ヲ爲スニハ別紙丙號書式ニ據リ所轄稅務署ヘ協議ヲ遂ケ其地番ノ附替ヲ爲スモノトス此場合ニ於テハ其地番支號ヲ有セサルトキハ其分割地ノ數ニ從ヒ各元地番ヲ存シ順次一、二、三等ノ數字ヲ以テ支號ヲ附加シ若シ其地番支號ヲ有スルトキハ其分割地ノ數ニ從ヒ一筆ノ土地ニハ元ノ番號ヲ存シ他ノ分割地ニハ數字ノ順ヲ追ヒ支號ヲ附加シテ區別スルモノトス

第七　數筆ノ御料地ヲ合併シテ整理ヲ爲サントスルトキハ合筆ノ手續ヲ爲スモノトス

第八　合筆ヲ爲スニハ別紙丁號書式ニ據リ所轄稅務署ヘ協議ヲ遂ケ其地番ノ附替ヲ爲スモノトス此場合ニ於テハ合併前ノ土地番號中首位ニ在ルモノヲ以テ其番號トナスモノトス

第九　御料地ノ地番設定及分合筆ヲ爲シタルトキハ別紙戊號書式ニ據リ所轄地方部局ヘ令達スルモノトス

第十　未登記ノ御料地ヲ民有ニ移サントスルトキ若ハ未登記ノ御料地ニ對スル地上權、地役權等ノ登記ヲ要スルトキハ所有權保存登記ヲ囑託スヘキモノトス

第十一　所有權保存登記ノ手續ハ左ノ時期ニ於テ之ヲ爲スモノトス但シ地番設定及分合筆ノ手續ヲ要スルモノハ其手續ヲ了シタル上本文ノ手續ヲ爲スモノトス

一　御料地ヲ特賣セントスルトキハ拂下許可指令案ノ決裁（大臣）アリタルトキ（本指令案ハ登記濟ノ通知ヲ待テ發送スルモノトス）

二　御料地ヲ公賣セントスルトキハ公賣執行方ヲ地方部局ヘ令達スヘキ議案ノ決裁（局長）アリタルトキ（本通案ヘ同上）

三　下付若ハ讓渡ヲ爲サントスルトキハ其處分案ノ決裁（大臣）アリタルトキ（本處分案ヘ同上）

四　御料地ニ對シ地上權、地役權等ヲ有スル者ヨリ其登記ノ申請アリタルトキ

第十二　所有權保存登記ヲ囑託セントスルニハ別紙巳號書式ニ據リ所轄登記所ニ囑託スルモノトス

第十三　拂下、下付其他ノ事由ニ依リ御料地ノ讓渡ヲ受ケタル者ヨリ所有權移轉登記ノ申請書ヲ差出シタルトキハ所有權移轉ノ事實ヲ確認シタル上移轉登記囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第十四　所有權移轉登記囑託ハ別紙庚號書式ニ據リ所轄登記所ニ囑託スルモノトス

第十五　御料地ニ對シ地上權、地役權等ヲ有スル者ヨリ其權利設定登記ノ申請書ヲ差出シタルトキハ第十一ノ四號ニ據レル御料地所有權保存登記囑託ニ對スル登記濟ノ通知ヲ待チテ別紙辛號書式ニ據リ所轄登記所ニ囑託スルモノトス

第十六　登記所ヨリ登記濟證ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其登記ノ囑託カ登記權利者ノ申請ニ基クトキハ直チニ之ヲ登記申請者ニ交付スルモノトス

第十七　民有地ヲ御料地ニ買收シタルトキハ其代金支拂前別紙壬號書式ニ據リ所有權移轉ノ登記ヲ所轄登記所ヘ囑託スルモノトス

第十八　前項以外ニ於テ既登記ノ土地ヲ取得シタルトキハ別紙壬號書式ニ準シ所有權移轉ノ登記ヲ所轄登記所ヘ囑託スルモノトス

第十九　既登記事項ノ變更ヲ要スルトキハ前各項ノ手續ニ準據シテ取扱フモノトス但分筆ノ場合ニ於ケル變更ノ登記ハ別紙癸號書式ニ據リ所轄登記所ヘ囑託スルモノトス

附　則

第二十　別表樣式中地目ノ欄ニハ別ニ定ムル所ノ手續ニ據リ定メタル地目ヲ記入スルモノトス

第二十一　御料地拂下ケノ爲メ一ノ登記所ニ對シ一時ニ五十筆以上ノ登記囑託ヲ要スルトキハ其筆數ヲ郡市町村別ヲ以テ所轄地方裁判所ヘ一ケ月前ニ豫報スルモノトス

第二十二　御料局自己ノ爲メニスル登記囑託ニ對シテハ登錄稅ノ納付ヲ要セサルモノトス

第二十三　本手續ハ各主務課ニ於テ之ヲ爲スモノトス

樣式（現在取扱例）

樣式ハ甲號ヨリ癸號マテアレトモ之ヲ略シ此處ニハ現在取扱例其一ヨリ其三マテヲ掲ク

（其一）　分筆ニ付稅務署ヘ照會

稅務署　照會　　局　名

左記　筆ノ御料地ハ整理上ノ都合ニ依リ分筆致候處該地地番ハ下欄ノ通リニテ差支無之候哉何分ノ御回答有之度若シ支障有之候ハハ相當地番ヲ附シ御回報相成度

記

郡	町村	大字	字	現在 地番	現在 反別	分筆 字	分筆 地番	分筆 地目	分筆 反別	摘要

追テ地番支障無之トキハ當局附設地番、若シ支障アル場合ニハ貴署設定地番ニテ分筆相濟ミタル義ト御承知相成度尙別紙圖面一枚添附候

記

（其二）

合筆（更正）ニ付稅務署ヘ通牒

何稅務署

局　名

通牒

左記御料地ハ下欄ノ通合筆（更正）候條御了知相成度

記

郡市町村	大字	字	地番	面積	大字	字	地番	地目	面積（實測）
何	何	何	一	一〇〇〇	何	何	一	林地	六〇〇〇
			二	二〇〇〇					
			三	三〇〇〇					

（其三）　分（合）筆登記囑託書

分筆（合筆）ニ付登記囑託書

一分割（合併）前ノ土地

郡　町
市　村　大字　字　何番地

地目反別

一分割（合併）シタル土地

郡　町
市　村　大字　字　何番地ノ貳

地目反別

一現在ノ土地

郡　町
市　村　大字　字　何番地ノ壹

地目反別

一登記原因及其日附　年　月　日分割（合併）

一登記ノ目的　　分(合)筆ノ登記
右登記相成度囑託書副本相添此段及囑託候也

年　月　日　　長官

區裁判所（何々出張所）宛

（注意）　數字ハ總テ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用フルコト
本書紙數貳枚以上ニ渉ルトキハ其連續スル所ヘ長官印ヲ以テ契印スルコト

○土地所有權保存登記等ニ關スル書式ノ件

明治四十五年三月十一日第一〇六四ノ二號司法次官ヨリ宮内次官ヘ通牒

土地所有權保存登記及所有權移轉登記書式ノ件ニ關シ別紙ノ通地方裁判所、區裁判所及同出張所ヘ通牒致置候

（別紙）

明治四十四年宮内省令第十號ヲ以テ宮内大臣ノ代理者ヲ指定セラレタルニ依リ御料地ノ所有權保存登記及所有權移轉登記ニ關シテハ自今帝室林野管理局長官ヨリ夫々囑託可相成就テハ豫メ之カ書式ヲ一定シ置キ以テ事務ノ進捗ヲ圖リ度旨今般宮内次官ヨリ協議ノ次第モ有之候ニ付右ニ關スル登記囑託書式別紙甲乙丙號ノ通協定候條爲御心得此段及通牒候也

追テ本文登記ノ囑託ニ付テハ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ之ヲ提出スルヲ要セサル儀ト御了知相成度

（書式）

（甲號）

土地所有權保存登記囑託書

一、土地表示
　郡　村大字　字　番
一、郡　村大字　字　番
一、郡　村大字　字　番
一、郡　村大字　字　番
一、郡　村大字　字　番

右宮内大臣ノ爲メ所有權保存ノ登記相成度別紙囑託書副本相添此段及囑託候也

年　月　日　　宮内大臣代理
帝室林野局長官

裁判所　出張所

（乙號）

土地買上ニ付登記囑託書

一、土地ノ表示
　郡　町村大字　字　番
一、登記原因及其日附
　昭和　年　月　日賣買契約
一、登記ノ目的　所有權移轉登記
一、登記權利者　宮内大臣
一、登記義務者
　縣　郡　町村　番地

右登記相成度別紙賣上證書及登記義務者ノ承諾書幷登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證相添此段及囑託候也

年　月　日
宮内大臣代理
帝室林野局長官

區裁判所　出張所

（丙號）

土地拂下ニ付登記囑託書

一土地ノ表示
　郡　村大字　字　番
一
一登記原因及ヒ其日附
　年　月　日拂下許可

一登記ノ目的　所有權移轉ノ登記
一登記權利者
　縣　郡　村大字
一登記義務者　宮内大臣
一土地ノ價格　金
一登錄稅　金

右登記相成度別紙拂下許可書及ヒ拂下代金納付濟證書相添此段及囑託候也

年　月　日　宮内大臣代理
帝室林野局長官

區裁判所　出張所

○登記囑託書式等ニ關スル件

明治四十四年十二月二十八日司法省「民事」第一三七八號司法次官ヨリ宮内次官ヘ通牒

皇室財產令ニ依リ既登記ノ不動產ヲ世傳御料ニ編入セラレタル場合及遺留財產ノ設定、增加又ハ廢止ノ勅許アリタル場合ニ於ケル登記囑託書式及登記記載例別紙ノ通地方裁判所、區裁判所及同出張所ヘ通牒致置候

（別紙略）

日拂下代金納付濟

●土地建物ノ購入賣却ニ關スル證書及登記囑託書等ノ書式ノ件

明治三十三年四月二十四日第一九四六號主事ヨリ地方部局長ヘ通牒

（改正）　大正二年第四九七五號

土地建物ノ購入賣却ニ關スル證書及其登記囑託書等ニシテ當局ニ於テ直接取扱フ場合ノ書式ハ今般別紙ノ通一定相成候

（別紙）

牧入印紙

賣上證書

府縣 國 市區町郡村 大字、字、番地

一　地目段別　（二筆以上ハ之ニ倣ヒ列記ノコト）

「立木付ナルトキハ但立木共トモ記スコト」

此賣上代金

「立木代金ヲ區別スル必要アルトキハ區別シテ記載スルコト」

右土地（立木共）今般前記代金ヲ以テ賣上申候事確實也然ル上ハ該土地ニ關シテハ他ニ共有者等無之ハ勿論他物權又ハ債權等何等ノ負擔無之候他日萬一故障相生シ候共私共ニ於テ一切引受ケ御迷惑御損失等相掛ケ申間敷候爲後日土地賣上證書仍テ如件

年號　月　日　　住所　賣上人　氏名　印

住所　保證人　氏名　印

帝室林野局長官氏名殿

二百五十八

牧入印紙

賣上證書

府縣 國 市區町郡村 大字、字、番地

一　地目段別　（二筆以上ハ之ニ倣ヒ列記ノコト）

「立木付ナルトキハ但立木共トモ記スコト」

此賣上代金

「立木代金ヲ區別スル必要アルトキハ區別シテ記載スルコト」

右土地（立木共）今般前記代金ヲ以テ賣上申候事確實也然ル上ハ該土地ニ關シテハ他ニ共有者等無之ハ勿論他物權又ハ債權等何等ノ負擔無之候他日萬一故障相生シ候共私共ニ於テ一切引受ケ御迷惑御損失等相掛ケ申間敷候爲後日建物賣上證書仍テ如件

年號　月　日　　住所　賣上人　氏名　印

住所　保證人　氏名　印

帝室林野局長官氏名殿

承諾書

市區町郡村 大字、字、番地

一　地目段別　（二筆以上ハ之ニ倣ヒ列記ノコト）

「建物ナルトキハ左式ノ如ク認ム」

市區町郡村 大字、字、番地

宅地（段別）「建物ニ番號アルトキハ」建家番號第何號トモ記スコト」

一　種類構造　（本家、木造瓦葺平家）壹棟

此建坪何坪「造作付ナルトキハ」造作付トモ記スコト」

右土地（建物）今般御局ヘ賣上申候ニ付當內大臣名義ニ登記相成候義更ニ異存無之候仍テ承諾書如件

年號　月　日　　住所　賣上人　氏名　印

帝室林野局長官氏名殿

登記囑託書々式ハ「土地所有權保存登記等ニ關スル書式ノ件」（明治四十五年三月十一日司法次官通牒）ニ依リ自然消滅

●民有地買上手續終了後稅務署ヘ所有權移轉通知方ノ件

昭和六年十二月十九日監第一三〇七號監理課長ヨリ各支局長ヘ通牒

從來民有地ノ買上手續終了後稅務署ニ對スル所有權移轉通知ハ當局ニ於テ取扱來リ候處右ハ爾今支局ニ於テ取計相成度

尙買上手續ヲ了シ代金仕拂濟ノ際ハ其ノ旨報告シ又買上地ニシテ合筆ヲ要スルモノニ付テハ其ノ合筆整理方具申有之樣致度

三　編入、除却

●道路鐵道用惡水路等施設ノ爲必要ノ御料地處分ノ件

大正九年七月七日第一七九九號主事ヨリ支局長ヘ依命通牒

普通御料內道路鐵道用惡水路等施設ノ爲必要ナル敷地ニシテ境界踏査終了ノ個所ハ總テ貸付ノ積リヲ以テ取扱フヘキ旨明治四十二年十二月九日第六二七四號ヲ以テ令達ノ次第モ有之候處右永久道路等ニ使用ノモノヲ御料地トシテ保存スルハ不得策ニ付世傳御料地其他特殊ノ事由アルモノノ外ハ御料地ヨリ除却ノ積リヲ以テ御取扱相成候樣致度

●御料地ヲ耕地整理地區ニ編入取扱方等ノ件（要旨）

明治三十五年十一月十七日第三九六四ノ四號局長達

御料地ヲ耕地整理地區ニ編入取扱方ニ關シテハ

一、耕地整理法第四十三條ニ據リ御料地ヲ整理地區ニ編入方出願ノ節ハ其都度整理地區ト御料地トノ位置關係ヲ知リ得ヘキ圖書及其編入若クハ引渡スヘキ見込反別ヲモ取調、意見ヲ具シ伺出ノコト

二、耕地整理法第十一條ハ之ヲ御料地ニ準用スヘキ限リニ無之ニ付御料地ヲ整理地區ニ編入方認許ヲ與フル場合ニハ豫メ御料地内ニアル不用ニ歸シタル道路溝渠等ハ之ヲ御料地ニ組換ユヘキ旨ノ契約又ハ條件ヲ附シ取扱フコト

○國有林野ヲ本省使用地ニ所管轉換シタルモノ使用ヲ廢シタル場合ニ關スル件

明治四十二年八月三十一日林第二一三號農商務大臣申牒

國有林野ヲ貴省使用地ニ所管轉換候モノニシテ使用ヲ廢シタル場合ハ國有林野法第三條第二項ニ依リ林野ニ復スヘキ必要モ可有之候ニ付内務省ヘ返還以前ニ於テ當省ヘ御通知相成度

●御料地境界變更ノ場合圖面訂正方ノ件

明治二十六年九月十八日第三四五〇號局長ヨリ地方部局ヘ達

其局所管御料地境界ニシテ相當ノ手續ヲ經テ變更シタル場合ニハ其關係ノ廳署役場ニ其旨ヲ通知シ備付圖面ノ訂正ヲ要求シ置クヘシ

四　疆　界

(一)疆界ノ査定

○御料地境界踏査規程

明治三十二年十二月十四日第六五二二號局長達

（改正）昭和四年訓第二六五號

第一章　總　則

第一條　御料地境界踏査ハ左ニ掲クル境界ニ對シ其ノ界線ヲ確定スル爲之ヲ行フモノトス

一　御料地ト他ノ所有地トノ境界

二　世傳、普通及社寺上地ニ係ル御料地間ノ境界

御料地内ニ於ケル國郡市町村及大字界ハ本規定ニ準シテ踏査スヘキモノトス

第二條　境界踏査ハ一團地ヲ以テ一區域ト爲シ執行スルモノトス

第三條　境界踏査ハ確實ナル證據ニ據リ實地ノ狀況ヲ考査シテ確定スヘキモノトス

第四條　境界踏査員ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

踏査ニ從事スル一組ノ人員ハ踏査員一名常傭夫一名臨時傭夫三名以内トス但シ踏査地ノ狀況ニ依リ臨時傭夫ヲ增加スルコトヲ得

第五條　境界踏査ハ境界測量ト併行スヘキモノトス

第六條　支局長ハ毎年度ノ豫定計算書ノ提出ニ際シ踏査及測量ニ付テハ其ノ箇所及數量ヲ、檢測及立會ニ付テハ其ノ概數ヲ記明スヘシ

前項ノ豫定ヲ變更シ又ハ豫定外ノ踏査又ハ測量ヲ施行シタルトキハ其ノ都度之ヲ長官ニ報告スヘシ

第七條　境界踏査員ハ御料地境界簿及御料地境界見取圖ヲ調製スヘキモノトス

第八條　境界踏査員ハ界線ノ指導及界標ノ設置ニ關シ出張所員又ハ分擔區員ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第九條　境界踏査員ハ一區域ノ踏査ヲ終了シタル日ヨリ六十日以内ニ左ノ圖書ヲ整理シ支局長ニ進達スヘシ但シ一區域内ト雖モ一市町村又ハ一大字ニ對シ整理ヲ終リタル圖書ハ便宜之ヲ進達スルコトヲ得

一　御料地境界踏査報告書　第貳號樣式
二　御料地境界踏査成績表　第參號樣式
三　御料地境界踏査濟箇所表　第四號樣式
四　御料地境界點種類員數調査表　第五號樣式
五　御料地境界簿　第六號樣式
六　證明書　第九號樣式
七　委任狀　第拾號樣式
八　證憑材料

一區域内ノ踏査ニシテ翌年度ニ跨ル場合ニハ其ノ年度内ニ終了シタル部分ニ對スル圖書ヲ翌年一月末日迄ニ進達スヘシ

第一項ノ期限内ニ整理未濟ノ爲進達スル能ハサル御料地境界簿及證明書等アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ支局長ニ上申スヘシ

第十條　支局長ハ毎年度ノ事業實行ノ成績ヲ第四號樣式ニ依リ翌年二月末日迄ニ長官ニ報告スヘシ（本報告ハ昭和六年5月第七九九ノ五號監理課長依命通牒ニ依リ同年ヨリ廢止）

第十一條　境界踏査員ハ境界踏査ノ毎月ノ成績ヲ翌月五日迄ニ第八號樣式ノ圖表ヲ添ヘテ支局長ヘ申報スヘシ

第十二條　境界踏査員ハ境界踏査上疑義ニ渉ルモノ又ハ事體重大ト認ムルモノハ事由ヲ詳具シテ支局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　境界踏査員ハ御料地内ノ行政區界及御料地々籍外ノ河川、道路等ニシテ界線ノ明瞭ナルモノニ限リ特ニ其ノ踏査ヲ測量員ニ委囑スルコトヲ得但シ踏査ニ關スル必要ノ圖書ハ測量ヲ了リタル後踏査員ニ於テ之ヲ整理スヘシ

第十三條ノ二　支局長測量ヲ終了シタルトキハ測量簿及疆界簿ノ正副二通ヲ調製シ其ノ副本ヲ長官ニ進達シテ之カ査閲ヲ受クヘシ

支局長、長官ヨリ疆界簿副本査閲濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ疆界簿正本ニ付キ隣接地關係者ノ調印又ハ承諾ヲ了シタル上確定面積ヲ具シテ之ヲ長官ニ進達シ曩ニ提出ノ副本ノ返還ヲ受クヘシ

世傳御料地ノ境界踏査ノ場合ニ在リテハ前項ノ疆界簿正本ニハ更ニ寫本一通ヲ作製添附スヘシ

第二章　豫　査

第十四條　境界踏査員ハ境界査定ニ先チ改租圖、地押圖其ノ他ノ證憑材料ヲ蒐集調査シテ之ヲ實地ニ對照シ界線ノ豫査ヲ爲スヘシ

第十五條　前條ノ改租圖及地押圖ハ稅務署備付ノモノニ據リ之ヲ地元市町村役場備付ノモノニ照査スヘシ

第十六條　左ノ各項ハ境界踏査上ノ證憑材料トシテ特ニ注意考査ヲ要ス

一　圖書

御料林簿、御料地圖、地籍圖、田園帳、水帳、檢地帳、地順帳、官林書上帳、裁許狀其ノ他新舊圖書

二　舊來存在ノ界標

木標、土塚、石塚、立木標、溝渠等又ハ是等ノ存在セシ形跡

三　天然ノ界線

峯通、谷筋、斷崖、河川、池沼、道路等自ラ地番併有ノ便利ヲ隔絶スヘキ天然ノ地形

四　口碑

五　林相

六　地名

第十七條　豫査ノ際踏査スヘキ御料地ニ於テ貸下又ハ產物拂下等ノ關係アリテ踏査上該關係者ノ立會ヲ必要ト認ムル場合ニハ其ノ關係者ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第三章　立　會

第十八條　界線ハ各關係者ヲ立會ハシメ其ノ認諾ヲ得テ確定スヘキモノトス但シ立會ヲ求ムルニハ書面ヲ用フヘシ

第十九條　國又ハ縣ノ所有スル土地ニ對スル立會方ハ豫メ支局長ヨリ之ヲ照會シ其ノ日時場所等ハ其ノ都度境界踏査員ヨリ當該官吏ニ交渉スヘシ

第二十條　界線ニシテ民有地ニ接スルトキハ其ノ所有者ノ立會ヲ求ムヘシ

所有者ニ於テ代理人ヲシテ立會ハシムルトキハ第十號樣式ノ委任狀ヲ徵シ後見人又ハ管理人ナルトキハ在籍市町村戸籍吏ノ證明書ヲ徵スヘシ

第二十一條　界線査定上異議ヲ生シタルトキハ先ツ市町村長ノ立會ヲ求メ尙ホ決セスシテ地方官ノ立會ヲ必要ト認メタルトキハ事實及意見ヲ詳具シ支局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第四章　界　線

第二十二條　界線ハ分明ニ界點ヲ見透シ得ルヲ期シ成ヘク其ノ左右ヲ同幅ニ刈開クヘシ

境界踏査員界線刈開キノ際他ノ所有ニ係ル木竹ノ伐採ヲ要スルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ得ヘシ

界線刈開ノ際舊來ノ境界木アルトキハ之ヲ存置シテ極印ヲ鎚記シ御料地境界簿備考ニ其ノ旨ヲ記載シ置クヘキモノトス

第二十三條　御料地ト他ノ所有地トニ介在スル道路、河川、溝渠等ニシテ公簿、公圖ニ記載ナキモノハ御料地々籍外ノモノト見做シ界線ヲ査定スヘシ

第二十四條　御料地内ヲ通スル道路、河川、溝渠等ニシテ御料地々籍外ノモノハ現形ニ據ラス地籍上ノ形狀、幅員ニ據リ界線ヲ査定スヘシ但シ其ノ現形ハ御料地境界簿及御料地境界見取圖ニ明記シ置クヘシ

第二十五條　境界踏査員第二十一條ノ場合ニ於テ地方官ノ立會ヲ必要ト認メタルトキハ假リニ其ノ界線ヲ定メ置キ其ノ踏査ヲ繼續スヘシ

地方官ノ立會ニ依リ界線ノ確定シタルトキハ直チニ其ノ顚末ヲ支局長ニ申報スヘシ又確定ニ至ラサルトキハ更ニ意見ヲ詳具シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十六條　一踏査區域ノ踏査終了スルモ異議ノ爲其ノ界線ノ確定セサル箇所アルトキハ前條ノ假定線ト對手人ノ主張線トヲ併査シ置クヘシ但シ對手人ノ主張線ニシテ相當ノ理由ナキモノト認ムルトキハ之カ査定ヲ省略スルコトヲ得

第五章　界　點

第二十七條　界點ハ踏査スヘキ地盤ニ面シ左方ヘ順次設置シ其ノ起點ハ國郡市町村大字界又ハ天然界等界線中最モ顯著ナル位置ヲ選ヒテ之ヲ設クルモノトス

第二十八條　界點ハ成ヘク測器据付ニ便ナル位置ヲ選ムヘシ

凹凸アル地盤ニ於ケル界點ハ成ヘク其ノ前後ノ界點ヨリ地表凡ソ四尺以上ヲ見透シ得ル位置ヲ選ムヘシ

一直線ノ界線ニシテ數多ノ峯巒、溪谷ニ跨ルトキハ顯著ナル位置ヲ選ヒテ界點ヲ設クヘシ

第二十九條　界點間ノ距離ハ成ヘク長クシテ直線ニ見透シ得ルヲ要ス

第三十條　界線ニシテ御料局及陸地測量部ノ三角點（石標埋設ノモノ）其ノ他顯著ナル岩石ニ當ルトキハ之ヲ界點ニ使用スヘシ

第三十一條　御料地ノ飛地及御料地内ノ孕在地ハ其ノ位置ヲ確實ナラシムル爲其ノ最近顯著ナル岩石ヲ選ヒテ探求標トシ又ハ最近ノ本地

界點ヨリ繼續線ヲ設クヘシ

第三十二條　界點ノ位置不明トナルノ虞アルモノハ御料地内ニ於ケル最近顯著ナル岩石ヲ以テ探求標トナスヘシ但シ御料地内ニ恰當ノ岩石ナキトキハ隣接地ノ管理者又ハ所有者ノ承諾ヲ得テ其ノ地内ノ岩石ヲ使用スルコトヲ得

第三十三條　界點ニシテ界標ヲ設置シ難キトキ又ハ界標ヲ設置シ得ルモ其ノ地盤壞崩、流失等ノ虞アルトキハ安固ナル位置ヲ選ヒ石標、固著岩石又ハ木標ヲ用ヒ探求標ヲ設ケテ界點ノ位置ヲ明確ナラシムヘシ

第六章　標識

第三十四條　界標ハ其ノ中心ヲ界點ニ一致セシメ之ヲ垂直ニ設置スルモノトス

第三十五條　界標ハ左ノ四種トス

一　石標

第一圖ノ如ク凡ソ五寸乃至六寸角長貳尺五寸許ノ堅牢ナル石材ヲ用ヒ上部凡ソ五分ノ一ヲ四寸乃至五寸角ニ削正シ上部ノ四端ヲ隅切トシ上面ヘ十字形前面ヘ界何（番號ノ數字ノミヲ記ス）背面ヘ宮ノ文字ヲ刻シテ墨ヲ塗リ其ノ五分ノ四以上ヲ地下ニ埋ム但シ路傍其ノ他傷害ヲ蒙リ易キ場所ニ在リテハ地表面ヨリ凡ソ壹寸ノ地下ヘ埋設シ指導標ヲ建設スヘシ

二　固著岩石

第二圖ノ如ク石面方五寸以上ヲ成ヘク平滑ニ削リ又ハ石面ノ滑カナル所ニ十字形ヲ刻シ墨ヲ塗リ指導標ヲ建設スヘシ

三　土管標

第三圖ノ如ク凡ソ徑三寸長貳尺ノ陶器ヲ用ヒ其ノ上緣ニ十字ノ當リヲ刻シテ地表面ト等シク埋設シ其ノ上ニ土ヲ覆ヒテ指導標ヲ建設スヘシ

四　木標

第四圖ノ如ク成ヘク耐久性ノ木材ヲ選ヒ全長ノ凡ソ六分ノ一ヲ錐形ニ作リ角杭ハ方三寸以上、丸杭ハ徑四寸以上、長各三尺以上トシ其ノ三分ノ二以上ヲ埋メ頂面ニ白墨ヲ塗リ前面ニ界何號、背面ニ御料局ノ文字ヲ記シ極印ヲ鎚記スヘシ

木標ノ周圍ニ土塚又ハ石塚ヲ築造スルトキハ第五圖ノ如ク之ヲ一種ニ分チ甲種ハ凡ソ方六尺、高三尺トシ又乙種ハ凡ソ方三尺、高貳尺トナスヘシ

木標ノ周圍ニ溝ヲ穿ツトキハ第六圖ノ如ク木標ノ中心點ヨリ凡ソ貳尺ヲ隔テテ幅、深共ニ貳尺以上トナスヘシ

第三十六條　界標ノ附屬標ハ指導標、探求標ノ二種トシ左ノ區別ニ從ヒ番號揭記ノ部分ヲ界點ニ向ケ設置スヘシ

一　石標

長貳尺五寸許ノ堅牢ナル石材ヲ用ヒ上部凡ソ五分ノ一ヲ四五寸角ト爲シ上面ヘ丁字ヲ刻シ白墨又ハ墨汁ヲ塗抹スヘシ

二　固著岩石

界點ニ面スル見易キ箇所ニ丁字形ヲ刻シ白墨又ハ墨汁ヲ塗抹スヘシ

三　木標

角杭ハ方貳寸以上、丸杭ハ徑三寸以上、各長三尺以上トシ全長ノ凡ソ六分ノ一ヲ錐形ニ作リ其ノ前面ニ界何號附屬標ヲ、側面ニ距本標何尺、背面ニ御料局ノ文字ヲ記シ極印ヲ鎚記スヘシ

四　立木

目通以上ノ高所ニ白墨ヲ以テ結帶狀ヲ付シ且ツ極印ヲ鎚記スヘシ

第三十七條　左ニ揭クル界點ニハ石標ヲ設ケ又ハ固著岩石ヲ用フヘシ但シ土地險阻其ノ他已ムヲ得サル場合ニ在リテハ實地ノ狀況ニ依リ他ノ界標ヲ選ムコトヲ得

一　境界ノ起點

二　御料地界ト國郡市町村大字界トノ觸接點及交叉點

三　御料地字界ノ觸接點及交叉點

四　世傳御料地界、普通御料地界又ハ社寺上地御料地界ノ觸接點

五　顯著ナル河川、道路、溝渠、分水嶺等ノ終始點

六　將來紛議ヲ生スルノ虞アル點

七　前各號ノ外御料地境界保存上重要ノ點

界點貳拾以内ニ前項ノ界標ヲ設置スヘキ箇所ナキトキハ特ニ之ヲ設置スヘシ

第三十八條　界點ニシテ將來異議ヲ生スルノ虞アルモノハ瓦片、硝子片、貝殼、木炭ノ類ヲ界標ノ下ニ埋ムヘシ

第三十九條　木標ニシテ火災又ハ獸害ノ虞アル箇所ニ設置ヲ要スルトキハ其ノ周圍ニ塚又ハ溝ヲ築造スヘシ

第四十條　界線ニシテ河川、道路（里道以上）溝渠、分水嶺等顯著ナル地物ニ依リ容易ニ移動堙滅ノ虞ナキ箇所ニ在リテハ終始點並ニ界點平均貳拾點ニ對シ主要ノ界點及其ノ前後ノ界點ニ界標ヲ設置シ其ノ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ニ依リ界標ヲ省略シタル間ニハ支何號ト記シタル小杭ヲ設置スヘシ

第四十一條　界線ニシテ分水嶺ニ當リ嶺上廣濶ナルトキ又ハ不規則ニシテ分水嶺判明ナラサルトキハ其ノ界點ニ界標ヲ設置スヘシ

第四十二條　界線ニシテ御料地々續外ノ河川、道路、溝渠等ヲ橫斷スルトキハ其ノ兩側ニ界標ヲ設置スヘシ但シ幅貳間以内ノモノニハ片側ノミニ設クルモ妨ケナシ

第四十三條　界標番號ハ一踏査區域毎ニ順序ヲ追ヒ之ヲ付スヘキモノトス但シ其ノ數、千位以上ニ達スル見込ノモノハ町村界、大字界、字界等ニ依リ順次十千ノ文字ヲ冠シテ其ノ番號ヲ新タニスルコトヲ得

第四十四條　御料地ノ字界又ハ御料地ト國郡市町村大字界ノ觸接點、交叉點ニ設置スル石標ニハ其ノ字名又ハ國名、郡市名、町村名、大字名ヲ其ノ兩側ニ明記スヘシ

第四十五條　界點間ノ界線ニ接スル他ノ所有地ニシテ地番ヲ異ニスルモノアルトキハ地番毎ニイロハ順ヲ以テ片假名ノ文字ヲ記シタル小杭ヲ設クヘシ

第一條第一項第二號ノ界線ニ於ケル界標番號ニハ宮ノ文字ヲ冠セシムヘシ

第四十六條　第一條第二項ノ界線ニ於ケル界標番號ハ其ノ區別ニ從ヒ

國、郡、市、町、村、大字ノ文字ヲ冠セシムヘシ

御料地内ニ於ケル河川、道路、溝渠等ニシテ御料地地籍外ニ屬スルモノノ界標番號ニハ其ノ區別ニ從ヒ河、道、溝等ノ文字ヲ冠セシムヘシ

第四十七條　御料地ノ飛地及御料地内ノ孕在地ノ界標番號ニハ飛地ニアリテハ平假名孕在地ニアリテハ片假名ノ文字ヲ冠シテ區別スヘシ但シ飛地孕在地ノ數多クシテ平假名、片假名ノミニテ不足スルトキハ御料地ノ字毎ニ冠字ヲ改ムヘシ

第四十八條　第二十五條ニ依リ假リニ界線ヲ定ムルトキ又ハ第二十六條ニ依リ對手人主張ノ界線ヲ併査スルトキハ假リニ標識ヲ設ケ置キ界線確定シタルトキニ於テ順次本番號ヲ記シタル界標ヲ改設スヘシ

前項ノ改設界標ト他ノ既設界標トヲ連接スルニ當リ號數ニ剩餘ヲ生シタルトキハ缺號トシ又不足ヲ生シタルトキハ其ノ部分ニ對シ補ノ文字ヲ冠シタル番號ヲ用フヘシ

第四十九條　界標ハ境界測量前ニ之ヲ設置スヘキモノトス

第五十條　界標ヲ改設セルトキ又ハ界線ニ變更ヲ及ササル界點ノ異動增減ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ隣接地關係者ニ熟知セシメタル後關係書類ヲ附シテ疆界簿ノ修正方ヲ長官ニ上申スヘシ

支局長長官ヨリ前項ノ修正ヲ爲シタル旨ノ通達ヲ受ケタルトキハ疆界簿副本ヲ修正スヘシ

第七章　帳簿及圖面

第五十一條　世傳御料地ニ對スルモノニ在リテハ明治四十四年宮内省達第三號世傳御料ニ屬スル臺帳記載樣式ニ關スル件第二ニ依ル圖面二通ヲ調製添附スルコトヲ要ス

第五十二條　第二十五條ニ依リ假リニ界線ヲ定メタルトキ又ハ第二十六條ニ依リ對手人主張ノ界線ヲ併査シタルトキハ前條ニ準シ假リニ其ノ御料地境界簿及御料地境界見取圖ヲ製スヘシ

第五十三條　御料地境界簿ニ記入スル標識ノ支番號ハ主番號ノ肩ニ記スヘキモノトス

第五十四條　御料地境界見取圖ハ携帶圖、見透望遠鏡或ハ磁針器、間繩等ニ依リテ界線ノ方位及距離ヲ概測シテ之ヲ調製スヘシ其ノ縮尺ハ貳千五百分ノ一トス但シ圖幅小ニシテ界點ヲ表示シ難キトキハ適宜ノ縮尺ヲ用フルコトヲ得

第五十五條　御料地境界見取圖ハ成ヘク上方ヲ北トシ其ノ記號ハ御料局測量記號說明書ニ據ルヘシ但シ說明書ニ規定ナキモノハ便宜ノ符合又ハ文字ヲ以テ記注スヘシ

第五十六條　御料地境界見取圖ニハ御料地ノ界線ニ接スル字名、地目、地番及所有者氏名等ヲ精確ニ記入スヘキモノトス

第八章　證明書及境界簿調印

第五十七條　界線確定シタルトキニ於テ官吏ノ立會ニ係ルモノナルトキハ第九號樣式ノ證明書ヲ求メ又公吏、一個人ノ立會ニ係ルモノナルトキハ御料地境界簿ニ署名捺印ヲ求ムヘシ但シ御料地境界簿中訂正シタル箇所アルトキハ其ノ箇所ニ關係者ノ捺印ヲ求ムヘシ

第五十八條　前條ノ證明書及御料地境界簿調印ノ要求ハ遲滯ナク之ヲ終了スルヲ要ス

第九章　雜則

第五十九條　境界踏査員ハ踏査上必要ノ場合ニハ經伺ヲ要セス左ニ掲クル事項ヲ執行スルコトヲ得

一　御料局地方部局管内ニ於ケル他ノ官衙公署ニ出向シ及其ノ係吏員ト公書往復ノ事

二　關係ノ御料局地方支部局ヘ出向シ又ハ公書往復ノ事

第六十條　境界踏査員ハ御料地内ニ存在スル木石ヲ採取シテ之ヲ界標ニ使用スルコトヲ得

第六十一條　第二十二條又ハ第六十條ノ場合ニ於テハ其ノ採取セシ場所並ニ木石ノ種類、員數、材積等ヲ調査シ之ヲ出張所ニ報告スヘシ但シ樹木ニ係ルトキハ其ノ伐根ニ極印ヲ鎚記スヘシ

第六十二條　境界踏査ノ際ニ於テ御料地々籍ノ異動又ハ御料地若ハ其ノ產物ノ被害ヲ發見シタルトキハ直チニ其ノ狀況ヲ出張所又ハ其ノ分擔區ニ報告スヘシ若シ其ノ被害ニシテ境界査定上ニ影響スル虞アリト認メタルトキハ報告ト同時ニ處分上ノ協議ヲ遂クヘシ

第六十三條　境界踏査上ニ使用スル人夫ハ其ノ境界踏査ニ關シ成ヘク利害ノ關係ナキモノヲ雇入ルヘキモノトス

第六十四條　境界踏査員ハ極印及證憑圖書其ノ他境界踏査ニ關スル物件ハ最モ嚴密ニ之ヲ保管スヘキモノトス

第六十五條　境界踏査員ハ左ニ掲クル事項ニシテ己ムヲ得サル場合ニ限リ經伺ヲ要セス處理スルコトヲ得但シ其ノ處理ニ關スル手續ハ支局ノ制規ニ據ルヘシ

一　一廉金拾圓未滿ノ消耗品（用紙雜簿類ヲ除ク）雜品ノ購入

二　一廉金參圓未滿ノ器具ノ修理

第六十六條　境界踏査員ハ出張中宿所ヲ支局長ニ屆出テ同時ニ境界測量員、出張所又ハ分擔區ニ通知スヘシ

附則

第六十七條　本規程ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

第六十八條　境界踏査既濟ノ箇所ニシテ關係者調印未濟ノモノハ本規程ニ依リ御料地境界簿ヲ調製スヘキモノトス

第六十九條　將來存置ヲ要セサル見込ノ御料地ハ境界踏査ヲ省略スルコトヲ得

第七十條　境界踏査及界標設置ニ關スル從來ノ例規ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（備考）地方部局中青森宇都宮佐渡三事務所ハ本規程中第五條ニ限リ施行ニ及ハス又札幌支廳及度會、諸縣、京都三事務所ヘハ踏査ヲ行フノ必要アル箇所ハ本規程ニ據リ施行スヘキ旨達セラル

第二號樣式

御料地疆界踏査報告書

一、御料地ノ位置

何々

二、御料地ノ地勢

何々

三、御料地疆界ニ關スル沿革

何々

四、御料地疆界査定ノ方法順序及憑據

何々、事由アルモノハ特ニ詳記ヲ要ス

右及報告候也

年　月　日

支局長宛

（疆界査定官吏官氏名印

第三號樣式

何御料地疆界踏査成績表

踏査進程	出張日數					旅費	雇費	器具器械費	通信運搬費	雑費	合計	備考
距離點數	就業	内業	旅行	雑業								

第四號樣式

何年度御料地疆界踏査濟箇所表

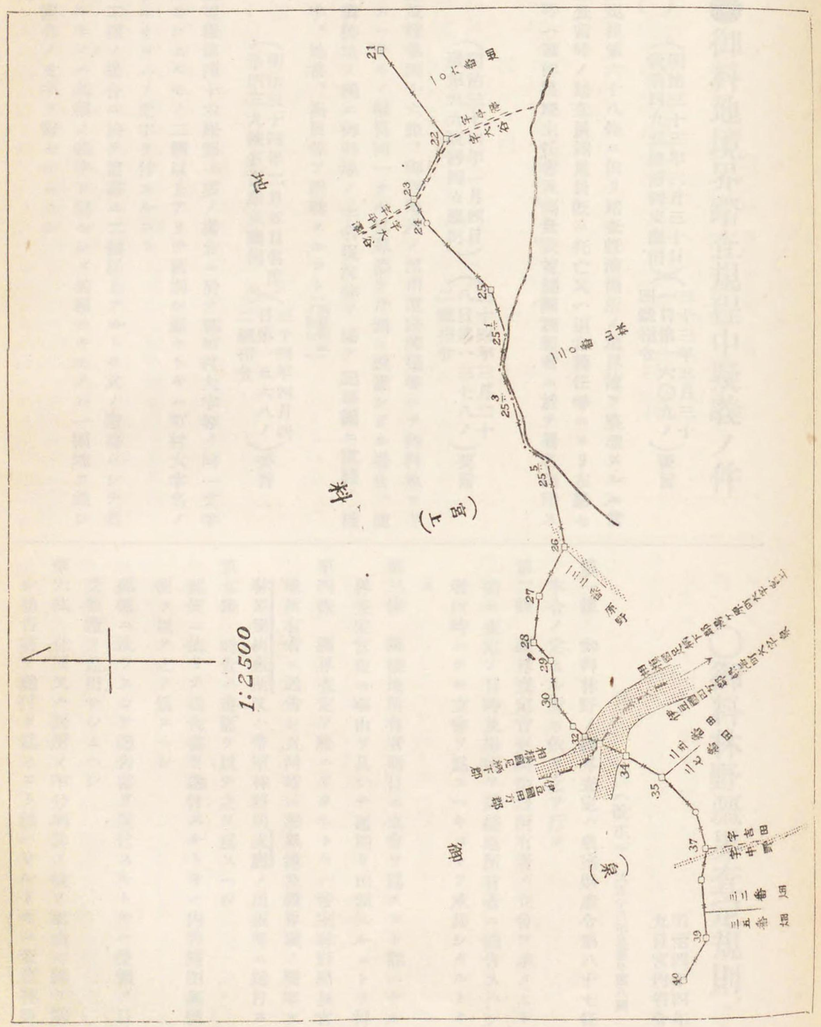
世傳普通區別	御料地名	所在	郡市	町村	大字	字	地目	地番	臺帳面積	界點數	延長距離			
											國道	道路	行政界	
											國道	道路	行政界	
											河川	界	計	
											河川	界	計	

第五號樣式

御料地疆界標識調査表

世傳普通區別	御料地名	區別	種類	員數	購入	製作	單價	總額	備考
		界標	石標						使用殘アル場合ハ殊ニ記入ヲ要ス
		〃	木標						
		〃	小杭						
		〃	固着岩石						
		探求石標							

備考



●御料地境界踏査規程中疑義ノ件

（明治三十三年三月三十日發第四九五號静岡支廳伺）（三十三年五月三十一日第一六〇九ノ四號指令）要旨

一踏査規程第六十八條ニ依リ踏査既濟箇所ノ境界簿ヲ整理スルニ當リ踏査當時ノ踏査員測量員既ニ死亡又ハ退官轉任等ニヨリ在勤セサル時ハ調印整理主任者及測量表並測圖調製者ニ於テ署名調印スヘシ

（明治三十四年一月四日發第九九號静岡支廳伺）（三十四年三月二十八日第一三七八ノ二號指令）要旨

一踏査規程第四十六條、御料地内ノ河川道路溝渠等ニテ御料地ヨリ除却スヘキモノ幅員同一ナル爲界標ヲ片側ニ設置シタル場合、境界簿隣接地ノ欄ニ御料地ノ字名現況等ヲ掲ケ記事欄ニ道路ノ種類、字、地番、幅員等ヲ記載スルコト（別紙樣式如シ）

（明治三十四年二月五日名庶第四三九號名古屋支廳伺）（三十四年四月四日第一五六八ノ二號指令）要旨

一踏査規程第四十六條第一項ノ場合ニ於テ郡町村大字等ノ同一文字ヲ冠セシムルモノ二個以上アリテ區別シ難キトキハ町村大字名ノ冠字ニイロハノ文字ヲ付スルコト

同第二項ノ場合ニ於テ道路ニ二個以上アルトキ其ノ道路ニシテ名稱アルモノハ名稱ノ頭字ヲ冠セシメ名稱ナキモノハ一團地ヲ通シテ片假名ノ文字ヲ冠セシムヘシ

○御料林野疆界査定規則

明治四十四年十二月二十九日宮内省令第十一號

（改正）大正十三年皇室令第八號

第一條　御料林野ノ疆界査定ハ皇室財産令第八十七條ノ規定ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第二條　疆界査定官吏隣接地所有者ノ立會ヲ求メムトスルトキハ五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ隣接地所有者ニ通告スヘシ但シ隣接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　隣接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ期日前疆界査定官吏ニ事由ヲ具シテ延期ヲ出願スルコトヲ得

第四條　疆界査定ヲ終ハリタルトキハ帝室林野局長官ハ其ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通告シ且同時ニ疆界簿及疆界圖ノ謄本ヲ土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ送付スヘシ

第五條　訴告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

郵便ニ依リテ通告書ヲ送付スルトキハ内容證明郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

郵便ニ依ラスシテ通告書ヲ送付スルトキハ受領ノ日時ヲ記載シタル受領證ヲ差出サシムヘシ

第六條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ隣接地所有者ニ對シ通告書ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ帝室林野局長官ハ官報ヲ

以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ翌日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告ヲ受ケタルモノト看做ス

第七條　隣接地所有者ハ第四條ノ通告ヲ受ケタル後ハ土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ就キ疆界簿及疆界圖ノ謄本ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第八條　隣接地所有者ハ帝室林野局長官ニ對シ自己ノ所有地ト隣接御料林野ト接續スル部分ノ疆界簿又ハ疆界圖ノ抄本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ接續民有地ノ一筆毎ニ疆界簿ニ在リテハ金十錢疆界圖ニ在リテハ金二十錢ノ割合ヲ以テ調製費ヲ納付スヘシ

第九條　疆界簿又ハ疆界圖ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ帝室林野局長官ハ直ニ其ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通告シ且同時ニ抄本ヲ土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ送付シ疆界簿又ハ疆界圖ノ謄本ヲ訂正セシムヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○御料林野疆界査定施行手續

明治四十五年三月二十五日第一四三號長官ヨリ支廳、京都出張所ヘ達

（改正）昭和四年農第二六五號

第一條　御料林野ノ疆界査定ハ御料林野疆界査定規則及本手續ニ依ルノ外御料地境界踏査規程ヲ準用シ之ヲ施行スヘシ

第二條　疆界査定官吏ハ第一號様式ニ依リ隣接地調書ヲ作製スヘシ

第三條　御料林野疆界査定規則第二條ノ通告書ハ第二號様式ニ依リ之ヲ作製スヘシ

第四條　御料林野疆界査定規則第六條ノ事由ニ依リ前條ノ通告書ヲ送付スルコト能ハサルトキハ直ニ第三號様式ニ依リ支廳長ヲ經テ長官ニ申報スヘシ

第五條　疆界査定官吏一區域ノ實査ヲ終リタルトキハ其ノ區域ニ對スル疆界簿及疆界圖ヲ作製スヘシ

疆界簿及疆界圖ハ第四號様式ニ依ルヘシ

第六條　第二條ノ隣接地調書竝前條ノ疆界簿及疆界圖ハ疆界査定官吏其ノ區域ノ査定ヲ終リタル後遲滯ナク之ヲ取纏メ支廳長ニ提出スヘシ

第七條　支局長前條ノ疆界簿正本ヲ長官ニ提出シ其ノ査閲ヲ了シタルトキハ遲滯ナク隣接地關係者ニ疆界確定通告ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　御料林野疆界査定規則第四條ノ通告書ハ第五號様式ニ依リ之ヲ作製スヘシ

附　則

第九條　本手續ハ京都出張所所管御料林野疆界査定ニ之ヲ準用ス

本局ニ於テ前項ノ疆界査定ヲ直接施行スル場合ニハ第四條ノ申報竝第六條ノ疆界簿及疆界圖ハ直ニ長官ニ提出シ第七條ハ適用セサルモノトス

御料林野疆界査定施行手續　様式

（第一號様式）

隣接地調書

御料林野	隣接地						所有者	立會通告	摘要
御料地名	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	面積	住所氏名	番號	交付月日	立會濟時	
計													

備考

隣接地所有者未成年者ナルトキハ氏名ノ左側ニ生年月日ヲ記シ且摘要欄ニ法定代理人ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

隣接地所有者禁治産者ナルトキハ其ノ旨及後見人ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記入スヘシ

（第二號樣式）

甲

疆界査定立會通告書用紙

發送方法	
發來月日	年 月 日
交附月日	年 月 日
番號	第 號
立會日時	月 日午 時 分
會合場所	
所有者 隣接地	道廳府縣 郡市 町村大字
御料林野地籍	出張所部內 國 郡市 町村大字
隣接地籍	國 郡市 町村大字

乙

第 號

疆界査定立會通告書

來ル 月 日 國 郡市 町村大字 字

御料林野疆界査定施行候條左記條項相心得立會相成度皇室財産令第八十七條

及御料林野疆界査定規則第二條ニ依リ此段及通告候也

年 月 日

帝室林野局

疆界査定官吏 官 氏 名印

殿

記

一、當日午 時 ニ於テ會合ノコト

但暴風、雨、雪等ノ場合ハ順延ノコト

二、代理人ヲ立會セシムルトキハ委任狀ヲ徴スヘキニ付之ヲ持參セシムルコト

三、立會延期手續ヲ爲サス豫定期日ニ立會ハサルトキハ皇室財産令第八十七條ニ依リ疆界査定ヲ進行スルコト

四、疆界圖面類携帶ノコト

丙

年 月 日付 第 號疆界査定立會通告書

正ニ領收候也 年 月 領 收 證

年 月 日 道廳府縣 郡市 町村大字

帝室林野局

疆界査定官吏 官 氏 名 殿

（注意） 本書ハ領收月日記入署名捺印ノ上直ニ返付スヘシ

（第三號樣式）

御料林野疆界査定ニ付隣接地所有者所在不明ノ義上申

御料林野地籍	隣接地々籍	所有者氏名	通告書ヲ送達シ能ハサル事由
國 郡市 町村 大字 字 地番 地目	國 郡市 町村 大字 字 地番 地目 反別	何之誰	住所ハ何所ナルモ所在不明ニシテ送達シ難シ

右ハ立會ノ通告書ヲ送達シ能ハサルモノニ付官報ニ公告方御取計相成候樣致度此段及上申候也

年 月 日

御料林野疆界査定官吏 官 氏 名印

長官宛

備考

隣接地所有者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ旨竝法定代理人ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

第五號樣式

甲

發送方法	發東月日	交附月日	番號	隣接地所有者
	年 月 日	年 月 日	第 號	道廳府縣 郡市 町村大字

御料林野地籍	隣接地籍
出張所部內 國 郡市 町村大字 字 御料林野	國 郡市 町村大字
	字 地番 地目 自至號 自至號 自至號
	字 地番 地目 疆界標番號 自至號 自至號 自至號

疆界査定通告書用紙

乙

第　　號

疆界査定通告書

道廳府縣 郡市 町村大字

鄰接地所有者

隣接地籍	
國 郡市 町村大字	字 地番 地目 自 號至 號 自 號至 號 自 號至 號 自 號至 號
	疆界標番號 號 號 號 號
國 郡市 町村大字 字	地番 地目 自 號至 號 自 號至 號 自 號至 號 自 號至 號
	疆界標番號 號 號 號 號

御料林野ト右隣接地トノ疆界ヲ査定シ御料林野疆界簿及疆界査定圖謄本ハ出張所ニ備付置候條皇室財産令第八十七條及御料林野疆界査定規則第四條ニ依リ通告候也

年　月　日　帝室林野局長官

（注意）此處分ニ不服ノモノハ皇室財産令第八十七條第二項ニ依リ三ヶ月以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

丙

領收證

年　月　日付　第　號疆界査定通告書正ニ領收候也

年　月　日

道廳府縣 郡市 町村大字

帝室林野局長官 殿

（注意）本書ハ領收月日記入署名捺印ノ上直ニ返付スヘシ

(7)

疆界測線			補測線			記事
番號	方位 °	距離 米	番號	方位 °	距離 米	

(8)

本疆界簿及疆界圖之通相違無之候也

本簿調製 昭和五年九月參拾日

踏査 實地著手 昭和五年七月貳日 疆界査定官吏
實地終了 同 同年七月四日 帝室林野局技手 何 某㊞

測量 實地著手 昭和五年七月四日 疆界測量官吏
實地終了 同 同年七月五日 帝室林野局技手 何 某㊞

昭和五年拾月貳日 國界立會員
神奈川縣知事 何 某㊞

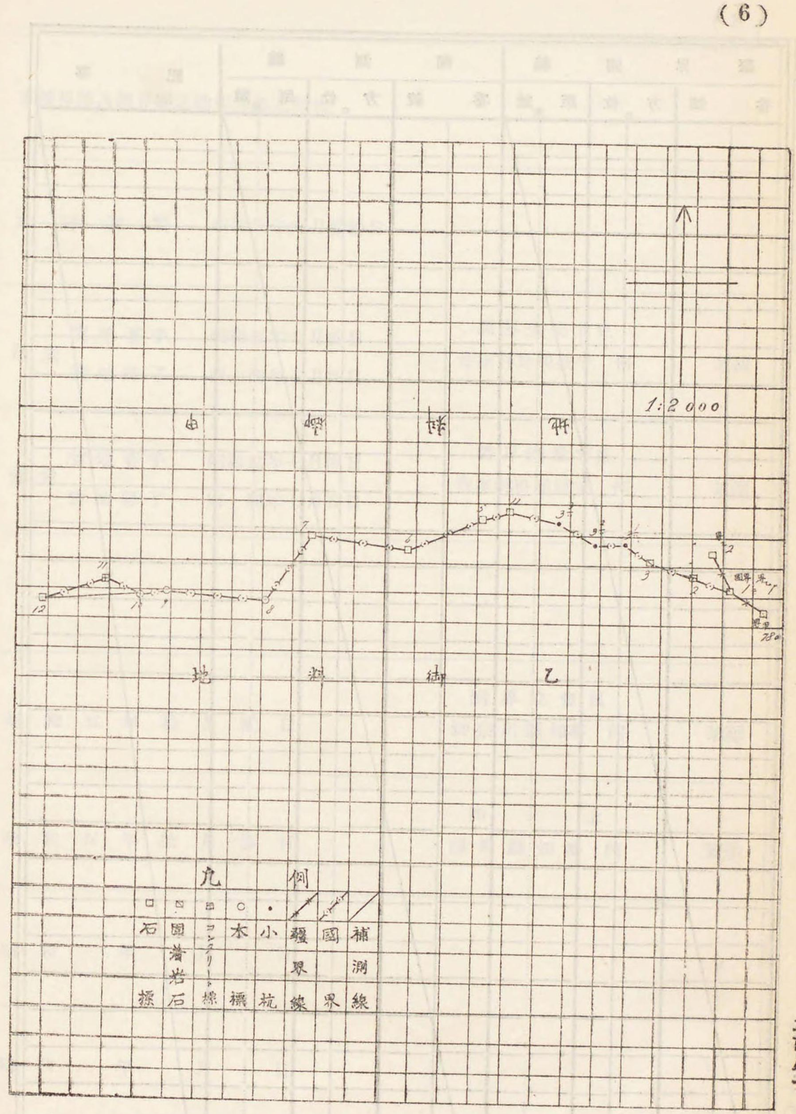
昭和五年拾月參日 同上
靜岡縣知事 何 某㊞

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

疆界測線 番號		方位 °	距離 米	補測線 番號	方位 °	距離 米	記事
			相續國トス駿河國トノ國界				方位角ハ測量原點駿河國駿東郡小山町大字湯船ニ所在スル陸地測量部二等三角點湯船村ノ眞子午線ニ對スルモノナリ
				國界甲1	780	122 23	
國界1	2	289	52 19.09				國界乙1ハ1ト一致ス
〃2	3	289	08 22.91				
〃3	3 1/..	307	23 14.18				
3 1/..	〃 2/..	269	22 15.27				
〃 2/..	〃 3/..	299	48 20.91				
〃 3/..	4	283	53 24.55				
4	5	254	43 13.64				
5	6	246	44 39.82				
6	7	277	12 49.09				
7	8	213	10 39.82				
8	9	275	11 48.55				
9	10	262	24 13.27				
10	11	294	28 18.18				
				10	12	266 18	48.64



(3)

疆界標識			甲御料地								疆界線記事
番號	種類	位置	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況	

(4)

(1)

疆界標識			甲 御料地									疆界線記事
番號	種類	位置	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況		
						相模	國ト	駿河國ト	ノ	國界		
國界 1	石標	峰平地	相模	足柄上	三保	世附		930	林地	雜木生		峰ヲ下ル
〃 2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
〃 3	圖著岩石	峰斜地	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		峰ヲ行キ下ル
3 1/2	小杭	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		峰ヲ下ル
〃 2/2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	檜林		〃
〃 3/2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
國界 4	石標	峰鞍部	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		峰ヲ上ル
〃 5	〃	峰斜地	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
〃 6	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
〃 7	〃	峰頭	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		峰ヲ下リテ少シク上ル
〃 8	木標	峰平地	〃	〃	〃	〃		〃	〃	草生		峰ヲ行ク
〃 9	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
〃 10	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		峰ヲ下ル
〃 11	コンクリート標	峰斜地	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃		〃
〃 12	石標	〃										

(2)

乙 御料地								記事
國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況	
駿河	駿東	北郷	上野		1505	林地	雜木林	界乙1號襲用 昭和五年七月四日靜岡縣屬吉田久、神奈川縣屬木村武夫、三保村長山田三次郎、北郷村長高橋也司立會査定ス
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	松林	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
								界甲206號襲用

附世字大村保三郡上柄足國模相
野上字大村鄉北郡東駿國河駿
世　附　明神峠
御料地內行政區界疆界簿
御料地內行政區界疆界圖
相　駿　國　界

帝室林野局東京支局

（　）

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

（　）

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

昭和　年　月　日

疆界測線				補測線				記事
番號		方位 °	距離 米	番號		方位 °	距離 米	

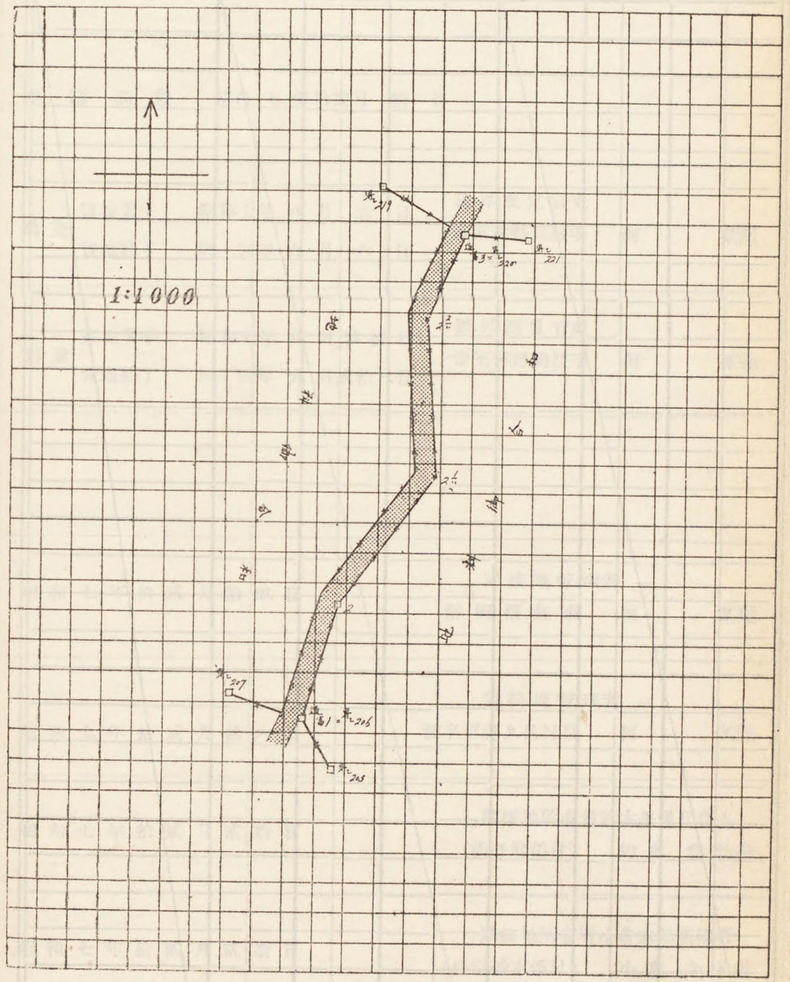
本疆界簿及疆界圖之通相違無之候也

本簿調製　昭和七年拾貳月拾日

踏査	實地著手	昭和七年八月五日	疆界查定官吏 帝室林野局技手　何　某㊞
	實地終了	同　同年九月六日	
測量	實地著手	昭和七年八月參拾日	疆界測量官吏 帝室林野局技手　何　某㊞
	實地終了	同　同年九月貳拾八日	

昭和七年拾貳月拾五日	隣接地管理者 靜岡縣知事　何　某㊞
昭和七年拾貳月拾六日	隣接地管理者 濱名郡神久呂村長　何　某㊞
昭和七年拾貳月貳拾日	隣接地所有者鈴木果保代理人 （委任狀添付）　鈴木　爲治㊞
昭和七年拾貳月貳拾日	隣接地所有者小倉太郎親權者 （戸籍抄本添付）　小倉　か兒㊞
昭和　年　月　日	

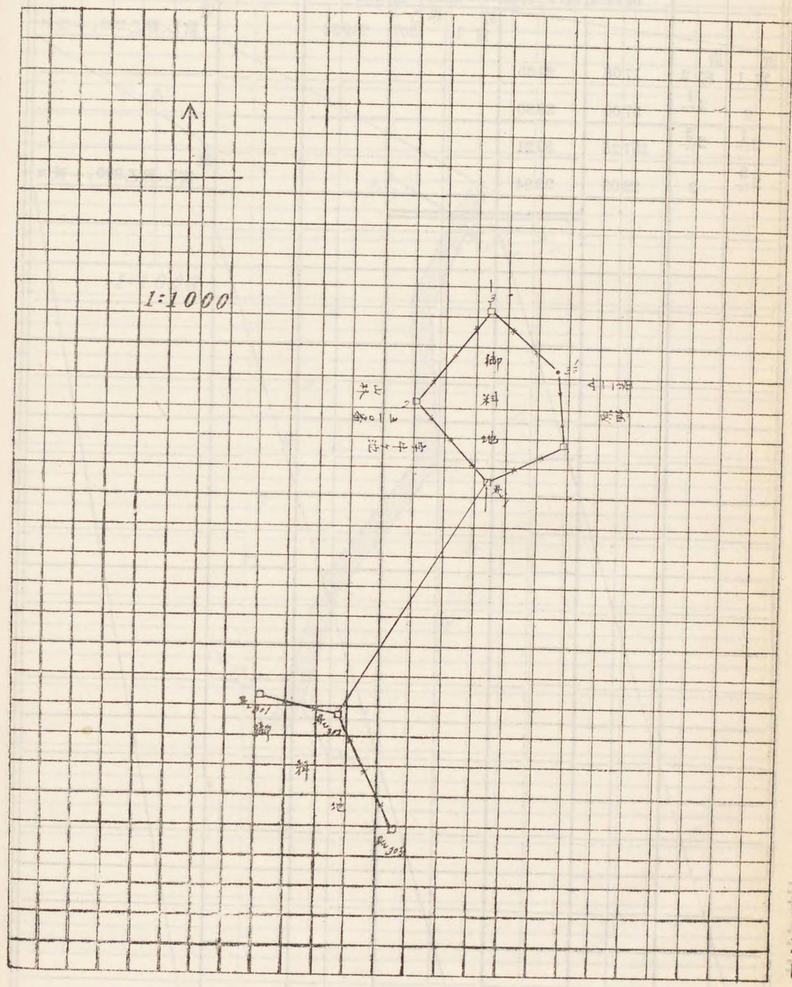
疆界測線 番號	方位 °	距離 米	補測線 番號	方位 °	距離 米	記事
	御料地ヲ内ヲ貫通スル道路		道富1界乙207	289	34	道富1ヘ界乙206ト一致ス
道富1 道富2	17	08	29	65		
2 2½	37	00	39	80		
2½ 2⅔	357	25	39	21		道富3ヘ界乙220ト一致ス
2⅔ 3	22	03	22	94		



(11)

疆界測線 番號		方位 °	距離 米	補測線 番號		方位 °	距離 米	記事
			飛		地			
				界乙 301	界乙 302	283 10		
				〃	界い 1	31 11	68.51	
界い 1	界い 2	317 38	26.60					
2	3	37 41	29.51					
3	3 1/…	132 15	22.43					
3 1/…	4	172 50	18.25					
4	1	243 00	21.32					

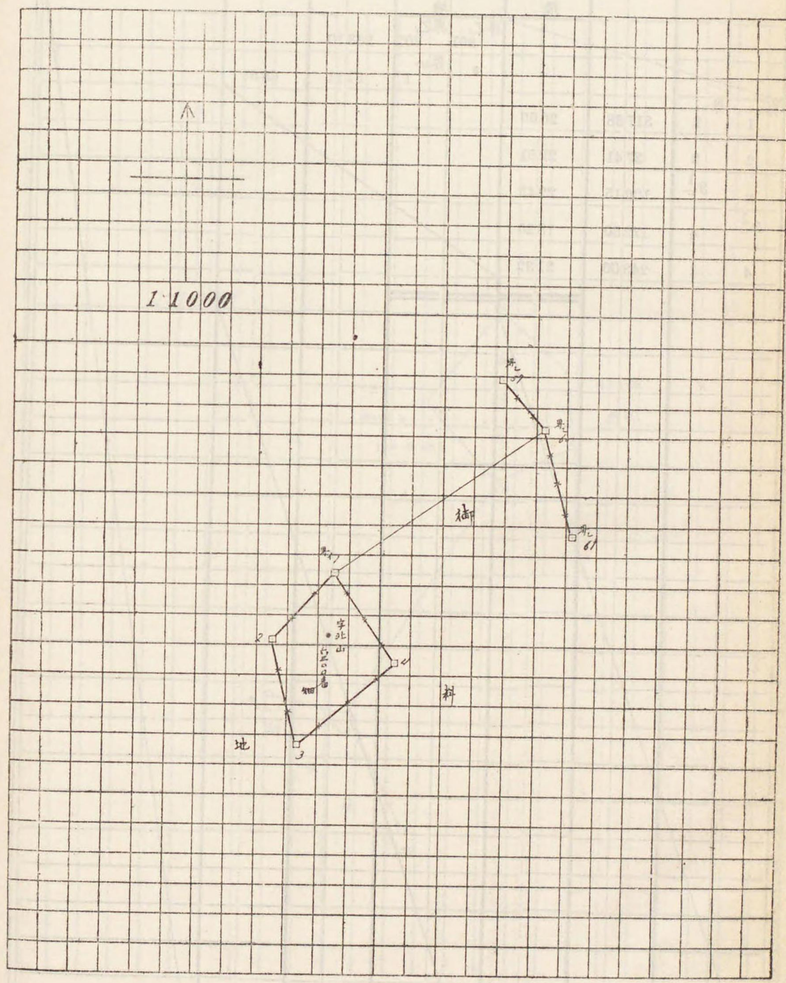
(12)



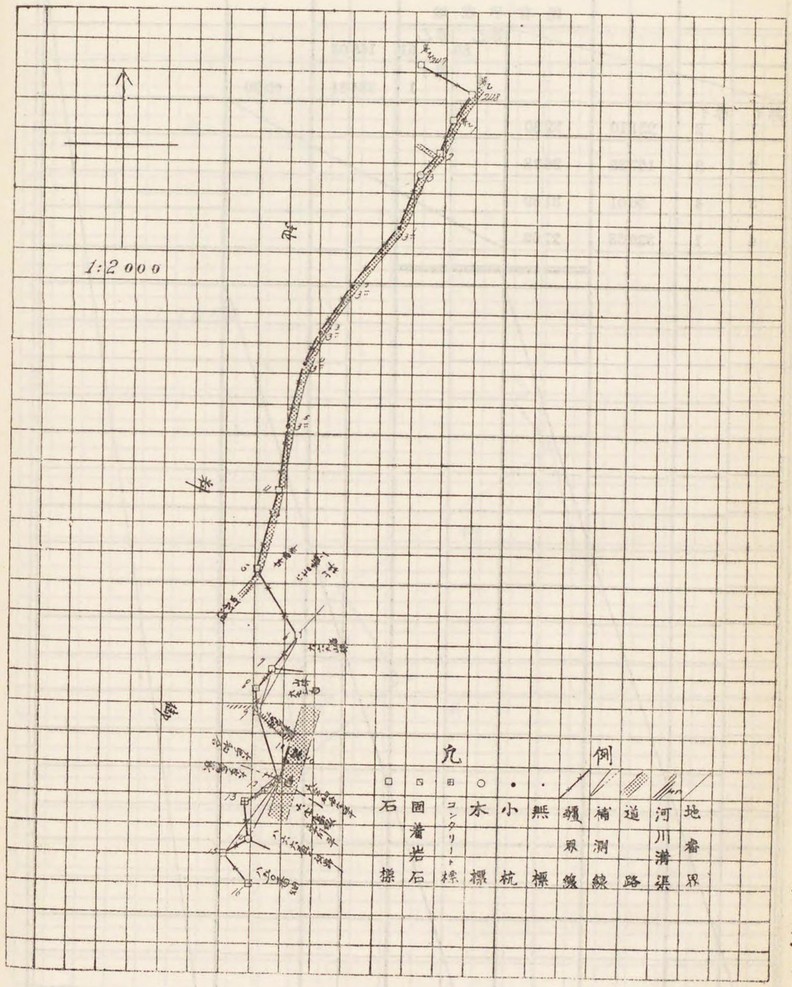
(9)

疆界測線 番號		方位 °	距離 米	補測線 番號	方位 °	距離 米	記事
			民有孕在地				
				界乙 60 界乙 61	166 05		
				〃 界イ 1	234 21	62 90	
界イ 1	界イ 2	221 10	22 80				
2	3	167 35	26 78				
3	4	50 01	31 69				
4	1	325 58	27 02				

(10)



疆界測線 番號	疆界測線 方位 °	疆界測線 距離 米	補測線 番號	補測線 方位 °	補測線 距離 米	記事
		三方御料地				方位角ハ測量原點遠江國濱名郡神久呂村大字神ケ谷所在陳地測量部一等三角點神ケ谷村ノ眞子午線ニ對スルモノナリ
			界乙 248 界乙 2	208 51	33 24	
界乙 2 1	24 30	18 84				
〃 3	219 40	13 82				
			2 3 1/..	206 08	41 67	
3 1/.. 3 2/..	218 52	36 91				
3 2/.. 3 3/..	218 22	28 24				
			3 2/.. 3 4/..	211 05	45 42	
3 4/.. 3 5/..	194 07	32 18				
3 5/.. 4	186 01	25 35				
4 5	195 01	41 73				
5 6	144 42	38 16				
			6 9	207 37	43 67	
			9 7	17 49	23 29	
9 8	358 42	11 45				
			9 11	160 23	35 89	
11 10	13 30	19 80				
〃 12	225 44	8 89				
			11 13	234 29	19 98	
			〃 14	205 19	33 53	
			〃 15	215 36	46 44	
15 16	135 19	19 87				



(5)

疆界標識			御料地								疆界線記事	隣		
番號	種類	位置	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況		國	郡市	町村

(6)

（3）　和合御料地

疆界標識			御料地									疆界線記事	隣		
番號	種類	位置	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況		國	郡市	町村	
									飛		地				
界い 1	石標	傾斜地	遠江	濱名	神久呂	和合	牛ヶ池	500	原野	檜林	傾斜地ヲ行ク	遠江	濱名	神久呂	
〃 2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	傾斜地ヲ横キリ上ル	〃	〃	〃	
〃 3	〃	峰	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	峰ヲ行ク	〃	〃	〃	
〃 3 1/2	小杭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	峰ヲ下ル	〃	〃	〃	
〃 4	石標	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	峰ヲ下リ斜地ヲ行ク	〃	〃	〃	
〃 1															
											御料地内ヲ貫通スル道路	道	富	號	
道富 1	石標	路傍	遠江	濱名	神久呂	和合	牛ヶ池	500	原野	檜林	町村道ニ沿フ本界線ハ町村道トノ	遠江	濱名	神久呂	
〃 2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	疆界ナリ其ノ道路ヘ御料地内ヲ通スルモ	〃	〃	〃	
〃 2 1/2	小杭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ノニシテ幅員同一ナルヲ以テ只其ノ片側	〃	〃	〃	
〃 3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ニ界標ヲ設置セリ故ニ他ノ片側ト隣接御	〃	〃	〃	
道富 3	石標										料地トノ界線ハ本界線ト併行シテ其間5				
											米突ヲ隔ツ如此界標ヲ片側ニ設置スルノ				
											ミナルヲ以テ隣接地側ニハ他側ニ接スル				
											御料地ノ事項ヲ記載シ以テ疆側ノ關係ヲ				
											明ニス				

接地					管理者又ハ所有者						記事
大字	字	番地	地目	現況	縣府	郡市	町村	大字	地番又ハ戸番	氏名	
和合	牛ヶ池	510	山林	杉林	靜岡	濱名	三川	山田	210	新居友次	界乙301號ヨリ疆續線ヲ設ク
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	511	原野	草生	〃	〃	〃	〃	225	浦川由造	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
和合	牛ヶ池	500	原野	檜林							界乙 206 號標甲本道ハ神久呂村ヨリ濱松市
〃	〃	〃	〃	〃							ニ通スル町村道ニシテ幅員5米突管理者神久呂村長
〃	〃	〃	〃	〃							管理者神久呂村長
〃	〃	〃	〃	〃							
〃	〃	〃	〃	〃							界乙 220 號ヲ襲用ス

(1) 和合御料地 富塚御料地

疆界標識			御料地								疆界線記事	隣接地								管理者又ハ所有者						記事
番號	種類	位置	國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況		國	郡市	町村	大字	字	地番	地目	現況	道府縣廳	郡市	町村	大字	地番又ハ戸番	氏名	
界乙 1	石標	路傍	遠江	濱名	神久呂	和合	北山	6307	林地	松林	村道ニ沿フ	遠江	濱名	神久呂	和合			町村道	道路	靜岡	濱名				神久呂村長	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	徑路	村道ヲ横キル	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	松林	村道ニ沿フ	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
界乙 3	木標	路傍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 3 1‥	小杭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 2‥	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 3‥	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 4‥	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 5‥	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
界乙 4	石標	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
〃 5	〃	〃									村道ヲ横キル	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	〃				〃	
			遠江	濱名	神久呂	和合	西平	668	林地	松林	平坦地ヲ行ク	〃	〃	〃	〃	西平	670一	山林	畑	〃	〃	富塚	和田	67二	池谷貞治郎	
界乙 6	石標	斜地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	斜地ヲ行ク	〃	〃	〃	〃	〃	669	〃	小松生	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃 7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	573	〃	〃	〃	〃	吉田	横川	300	永池トシ	
〃 8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	斜地ヲ行キ溝ヲ横キル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	杉林	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃 9	固着岩石	溝縁	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	溝渠ニ沿フ	〃	〃	〃	〃	〃	36	溝渠	溝渠						靜岡縣知事	昭和何年何月何日靜岡縣廳何某立會査定ス
〃 10	無標	路傍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縣道ニ沿フ	〃	〃	〃	〃			縣道	道路						〃	探求石標ヲ設置ス
〃 11	コンクリート標	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃						〃	
〃 12	〃	平坦地	〃	〃	〃	富塚	川平	3877	農地	畑	平地ヲ行ク	〃	〃	〃	富塚	川平	866二	原野	草生	靜岡	濱名	神久呂	富塚	39一	鈴木果保	
〃 13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃 14	木標	斜地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	850	畑	畑	〃	〃	〃	〃	133	小倉兩太郎	兩太郎死亡相續人太郎未成年ニ付親權者母か光
〃 15	石標	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃 16	〃																									
										民有孕在地																
界イ 1	石標	緩斜地	遠江	濱名	神久呂	和合	北山	6307	林地	松林	緩斜地ヲ行ク	遠江	濱名	神久呂	和合	北山	6300	畑	荒畑	靜岡	濱名	池田	池田	31 58	吉川四郎 時田守	界乙10號ヨリ隣續線ヲ設ク
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
1																										

(2)

合塚和富
大字富塚
村大字富塚
呂村
久方
神郡同合塚和富
郡名同
國濱同
國江遠同

簿
圖
界
界
疆
疆
地
地
料
料
御
御

局支京東局野林室帝

●御料林野疆界査定實施上ノ件

明治四十五年四月十七日
第一九四三號主事通牒

今般御料林野疆界査定施行手續相定メラレ候ニ付テハ右ニ據リ夫々施行可相成儀ニ候得共尚ホ實施上ニ關シ左ニ

一　御料林野ト其他ノ御料土地トハ實況ニ依リ區別スヘキ事

二　御料林野以外ノ御料土地ノ疆界査定ハ御料地境界踏査規程ニ據リ査定スヘキモノナリト雖モ一團地ノ疆界ニ御料林野ト其他ノ御料土地トヲ含有スルモノノ疆界簿及疆界圖ハ區分シテ調製スルヲ要セサル事

但本項兩者ノ地所各一方ニ僻在シ各一冊トシテ適度ノ紙數ニ達スルモノハ區分シテ各別冊ニ調製スヘキ事

三　御料林野以外ノ御料土地大部分ヲ占ムル團地ノ疆界査定及御料地内行政區界、貫通道路、河川、溝渠等ノ疆界査定ハ總テ御料地境界踏査規程ニ據リ施行スヘキ事

四　査定施行手續第三條ノ立會通告書ハ本人無能力者ナルトキハ其法定代理人ニ送達スヘキ事

五　（消滅）

六　（消滅）

七　（消滅）

右御了知相成度

●不要存御料地ト要存御料地トノ疆界査定ニ關スル件

昭和四年十二月九日
業第八〇九號次長通牒

不要存御料地中ニハ未タ拂下手續ノ終了セサルモノト拂下處分終了セルモ代金完納ニ至ラスシテ土地所有權ノ移轉セサルモノトアリ其ノ何レヲ問ハス漸次賣拂讓權セラルヘキモノニシテ之カ殘存御料地トノ疆界ニ關シテハ所有權移轉後ニ於テ御料林野疆界査定規則ニ據リテ處理スヘキモノナリ然レトモ不要存地ト決定シテヨリ是ヲ讓權スルニ至ル迄ニ往々ニシテ十餘年ヲ要スルモノアリ又隣接者トナルヘキモノ頗ル多數ニシテ其ノ讓權ノ時期モ甚タ多樣ニ有之從テ疆界線ノ査定甚タ困難ヲ來スモノト思惟セラルヽニヨリ未タ讓權ニ至ラサル中是カ準備行爲トシテ左記ニヨリ將來疆界トナルヘキ點ニ界標ヲ設置シ之カ測量ヲ施行シ疆界簿圖ヲ調理シ置ク樣致度

記

一　不要存地ト要存地トノ界線ニ關シテハ要否ノ決定線ヲ調査測量シ疆界簿ノ隣接地欄ニハ之ニ該當スル御料地ノ事項ヲ記載シ拂下ニ當リテハ該線ニ基キ拂下ヲ爲シ別紙樣式ノ承諾書ヲ徵收シ置クコト

二　拂下處分濟ニシテ所有權未移轉ノケ所ニ對スル疆界ニ關シテハ拂受人ノ立會ヲ求メ拂下界線ヲ調査測量シ別紙樣式ノ承諾書ヲ徵收スルコトヽカ疆界簿ノ調理ハ一項ノ場合ト同シ但シ所有者欄ニ

ハ拂受人ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

三　前二項ノ不要存地ノ所有權移轉シタルトキハ其ノ都度御料林野疆界査定規則ニヨル處理ヲ爲シ同時ニ疆界簿記事欄ニ其ノ旨追記スヘシ

四　疆界簿記載凡例ヲ添付ス

（別紙）

承　諾　書

郡市町村所在何々御料地ト拂者拂受地郡市町村字何何番地トノ疆界線ハ別紙圖面ノ通ニ有之更ニ異議無之左記ノ各項承諾仕候

年　月　日　　住所

帝室林野局支局長宛　　氏　　名印

記

一　所有權移轉後ト雖本界線ニ異議無之候

二　現在享有ノ權利ヲ他人ニ讓渡スル場合又ハ所有權取得後其ノ所有權ヲ他人ニ讓渡スル場合ト雖モ本承諾書ノ事項ハ其ノ讓受人ヲシテ遵守セシムルコト

疆界標識 番號	疆界標識 種類	疆界標識 位置	御料地 國	御料地 郡市	御料地 町村	御料地 大字	御料地 字	御料地 地番	御料地 地目	御料地 現況	疆界線記事	隣接地 國	隣接地 郡市	隣接地 町村	隣接地 大字	隣接地 字	隣接地 地番	隣接地 地目	隣接地 現況	管理者又ハ所有者 道府縣廳	管理者又ハ所有者 郡市	管理者又ハ所有者 町村	管理者又ハ所有者 大字	管理者又ハ所有者 地番又ハ戸番	管理者又ハ所有者 氏名	記事
								界線變更ノ部			其一															
界甲31	石標	平地	下總	印旛	遠山	駒井野	宮臺	1909	農地	萱生	緩斜地ヲ上ル	下總	印旛	遠山	駒井野	宮臺	1909二六二	畑	畑	千葉	印旛	遠山	駒井野	1	吉田弘	大正十五年五月十日不要存御料地ト決定シタルヲ以テ界線變更ノ査定ヲナシ31號ヨリ36號ニ連結ス32號乃至35號缺號
			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1909二六三	〃	〃	〃	〃	〃	大野	300	拂受人 遠山清一	昭和四年九月十日遠山清一へ所有權移轉
			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1909二六四	〃	〃	〃	〃	〃	駒井野	20	拂受人 山田孝	
界甲36	石標																									
								同		上	其二															
界乙305	石標	平地	下總	印旛	富里	十倉		457一	山林	雜木生	平地ヲ行ク	下總	印旛	富里	十倉		457二	山林	草生						帝室林野局長官	大正十五年五月十日不要存御料地ト決定シタルヲ以テ界線變更ノ査定ヲナシ界乙305號ヨリ界乙320號へ結ブ依ツテ309號乃至319號欠號
〃306	〃	斜地	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	畑						〃	
〃307	〃	路傍	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	道路ニ沿フ	〃	〃	〃	〃		457三	〃	道路						〃	
〃308	地中標石	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	草生	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃						〃	
〃320	固着岩石																									

凡例

(1)本査定ハ昭和三年十月　日ヨリ同年十一月二十日ノ間ニ於テ施行シタルモノナリ

(2)1909二六二ハ調査ハ當時既ニ吉田弘ニ於テ所有權ヲ取得シタルモノナリ

(3)1909二六三ハ調査ノ際遠山清一へ拂下指令濟ナルヲ以テ實地立會セシメ承諾書ヲ徴シ置キタルカ疆界簿調理中ニ所有權移轉シタルヲ以テ遠山清一ニ査定通告書ヲ發スルモノトス

4)1909二六四ハ調査ノ際山田孝へ拂下指令濟ナルヲ以テ實地立會セシメ承諾書ヲ徴シ置ケリ所有權移轉ヲ俟テ査定通告書ヲ發スルモノトス

(5) 457番ニ草生及畑 457番三道路ノケ所ハ不要存地トシテ分筆ノ上査定シタルモノナルヲ以テ拂下ハ該査定線ニ基キテ許可シ所有權移轉ノ上査定通告書ヲ發スルモノトス

(6) 4項乃至 5項ノ御料地ヨリ離權セル場合ハ離權年月日及所有權管理權取得者ノ氏名ヲ記事欄ニ記スルモノトス

下總國印旛郡遠山村大字駒井野
同國同郡富里村大字十倉

遠山
富里　三里塚

御料地疆界簿
御料地疆界圖
界線變更ノ部

帝室林野局

(二) 疆界簿

●御料地疆界簿作製方ノ件

明治三十六年五月廿三日
第二六八號主事通牒要旨

一　簿册ヲ綴合スルニハ五枚ヲ一折トシ連綴スルコト但シ一册ノ紙數十枚以内ナルトキハ便宜ニ從フコト

明治三十三年五月十二日
第二九五八號主事通牒要旨

一　御料地疆界簿用紙綴合ヲ要スル場合ハ別册雛形ノ如ク撚糸ヲ以テ連綴シ其ノ糸端ヲ封緘シ封書ニ關係者相互ノ印形ヲ押捺シ他日自由ニ解綴ヲ爲スコト能ハサル樣調理相成度

●御料地境界簿調印上注意ニ關スル件

明治三十八年三月二日
第七七五號主事通牒

御料地境界簿ニ各關係者ノ調印ヲ要求スルニ付テハ其調印ノ後日無效ニ歸スルカ如キコト之レナキ樣愼重ノ注意ヲ爲ササルヘカラサル義ニ有之候條本局ニ於テ直接踏査ヲ施行セシモノハ左記ノ各項ニ依リ處理致居リ候

(左記)

第一　境界簿ニ掲載セル隣接地竝ニ其所有者等ノ正確ナルヤ否ヤヲ所轄稅務署保管ノ土地臺帳ニ就キ照合シ左ノ通リ處理スルコト

一　誤謬ヲ發見シタルトキハ總テ之ヲ訂正スルコト而シテ之ヲ訂正スルニハ決シテ原文字ヲ削除スヘカラス必ス誤字ハ之ニ朱線ヲ引キ其傍ハラニ訂正ノ文字ヲ記入シ境界簿欄外ノ餘白ニ「何々ヲ何々ト訂正ス」又ハ「何々ノ文字ヲ挿入ス」ト記シ關係者ヲシテ之ニ調印セシムルコト

二　所有者ニシテ變更シタルモノアルトキハ境界簿ニ掲載セル所有者ノ氏名ヲ削除セスシテ其儘ニ爲シオキ左例ノ通リ處理スルコト

何年何月何日何郡何村大字何何番地何某讓受ク何年何月何日何某家督(又ハ遺產)相續ス

第二　前項ノ調査ヲ了ヘタルトキハ所有者ノ在籍町村役場ニ就キ本籍、氏名、身分等ヲ調査シ左ノ通リ處理スルコト

一　所有者ニシテ未成年者禁治產者ナルトキハ戶籍吏ノ抄本ヲ徵シ其法定代理人卽チ親權者又ハ後見人等ヲシテ境界簿ニ調印セシムルコト

二　所有者ノ本籍又ハ氏名ニシテ土地臺帳ト戶籍簿ト相違セルモノアルヲ發見シタルトキハ猶ホ其誤謬ヲ確メタル上、境界簿當該記事欄ニ左ノ通リ記載シ其正當所有者ヲシテ調印セシムルコト「戶籍ニハ何村、大字何、何番地又何某トアリ」

第三　前二項ノ調査ヲ了ヘタルトキハ境界簿最尾ノ白紙ニ左ノ例ニ依リ順次所有者又ハ管理者ノ氏名ヲ記載シ之ニ調印セシムルコト

一　所有者自身調印スル場合

隣接地所有者　何　某

二　所有者ノ代理人調印スル場合

隣接地所有者何某代理人

「委任狀添付」　何　某

（法定代理人ノ代理人調印スル場合ニハ「戸籍抄本及委任狀添付」ト記スルコト）

三　所有者ノ法定代理人調印スル場合

隣接地所有者何某親權者

「戸籍抄本添付」　何　某

又ハ

隣接地所有者何某後見人

「戸籍抄本添付」　何　某

四　國有地又ハ縣、郡、市、町、村大字所有地ニシテ其ノ管理者調印スル場合

隣接地管理者　何縣知事

何大林區署長

何郡長何　某

何村長何　某

五　神社又ハ寺院ノ所有地ナルトキハ所轄市、町、村役場ヲシテ其社寺ノ神官、住職及信徒又ハ檀徒總代（參人以上）ヲ證明セシメ左ノ通リ記載シテ調印セシムルコト

隣接地所有者何神社（又ハ何寺院）

「證明書添付」　神官（又ハ住職）　何　某

信徒（又ハ檀徒）總代何　某

同　上　何　某

（若シ此場合ニ於テ代理人ヲシテ調印セシムルトキハ前記ノ通リ記載シタル上左ノ通記載シ調印セシムルコト）

「委任狀添付」　右代理人　何　某

第四　境界簿調印ノ部ニ於ケル年月日ハ各人ノ實際ニ調印シタル年月日ヲ記載スルコト

第五　當初境界踏査ノ際代理人ヲシテ實地ニ立會セシメ境界ヲ確定セシメタルモノニシテ委任者（卽チ所有者）受任者（卽チ代理人）双方トモ生存スル場合ニハ其委任狀ニ依リ代理人ヲシテ境界簿ニ調印セシメテ妨ナシ（其記載方ハ前項ノ通）然レトモ孰レカ其一方ニシテ死亡シタルモノアルトキハ其委任關係ハ消滅スルモノナルカ故ニ此場合ニハ本人（卽チ現所有者）ヲシテ調印セシムルカ又ハ更ニ代理人ヲ選定シ之ヲシテ調印セシムルモ妨ケナシ

所有者多數ノ連名セル委任狀ニシテ其所有者ノ一名若クハ數名死亡シタルモノアルトキハ其死亡シタルモノノミ委任關係消滅シ他ノ生存者ノ委任關係ハ有效ナルヲ以テ生存ノ所有者ニ對シテハ其委任狀ニ基キ代理人ヲシテ調印セシメテ妨ケナシ

第六　所有者ニシテ不在者失踪者等アリテ其財產管理人ナキ場合ニハ當該市町村長ヲシテ之ヲ證明セシメ其法定相續人又ハ家族ヲシテ境界簿ニ調印セシムルコト若其ノ所有者單身ニシテ他ニ家族ナキ場合ニハ境界簿記事欄ニ其旨ヲ記載シテ調印ヲ求ムルコト能ハサル理由ヲ明ニスヘシ其記載例ハ左ノ如シ

「所有者ハ別紙何村長證明書ノ通踪跡不明ニシテ調印セシムルコト能ハス」

第七　境界踏査ノ際、未成年者又ハ禁治產者等ノ所有者ニシテ今日既ニ成年者トナリ又ハ禁治產ヲ解除セラレタルモノアルトキハ踏査ノ際ニ於ケル親權者又ハ後見人ヲシテ調印セシメス必ス其所有者自身又ハ其代理人ヲシテ調印セシムルコト

第八　境界踏査ノ際ニ於ケル所有者ノ身分ニ關スル證明書（戸籍抄本）並ニ代理人委任狀境界ニ關スル請書等ハ調印取纏ノトキニハ是等ノ書類ヲ遺漏ナク取調フヘキコト

第九　踏査員ニ於テ徵收シタル境界簿ニ附屬ノ各證明書類ハ境界簿ト共ニ總テ保存スヘキモノナルヲ以テ紛失若ハ毀損セサル樣注意スヘキコト

第十　境界簿中ノ訂正挿入若ハ貼紙シアル箇所ニハ總テ其關係者ヲシテ調印セシムルコト

●御料林野疆界簿ヘ調印ニ關スル件

大正二年十一月七日業第三七三一ノ一號札幌支廳長ヨリ主事ヘ照會

「上略」御料地ハ何レモ林野以外ノ土地ヲ包有スルヲ以テ之レカ隣接地ノ所有者並ニ管理者ニ對シテハ疆界簿ニ調印ヲ要シ之レヲ了シタル上進達ノ運ニ至ルヘキ次第ニ有之候處該調印方ニ付テハ御料林野疆界査定施行手續第四號樣式ニ依リ林野以外ノ御料地トノ疆界ニ對シ調印スト記載シ調印セシムル事ニ相成居候得共實地疆界査定ノ際ニ於テ御料林野ト御料林野以外ノ土地トニ接スル一ノ所有地ニ對シテハ御料地境界踏査規程ニ依リ施行シ又一官廳ノ管理地數ケ所ニシテ或ケ所ハ御料林野ニ或ケ所ハ御料林野以外ノ土地ニ接スル場合ニ於テモ之レヲ通シテ實地立會ヲ求メ必ス其立會ト承諾ヲ得テ査定シタルモノナレハ特別ノ必要アル場合ノ外前記所有者（一疆界簿中御料林野ト御料林野以外ノ土地ニ接スル各隣接地ノ所有者同一ナルモノヲモ含ム）幷ニ官廳カ調印ヲ爲セハ其疆界簿全部ノ關係界線ヲ確認シタルモノトシ「林野以外ノ御料地トノ疆界ニ對シ調印」ナル文字ハ記載セスシテ調印セシメ可然ト存候得共御差支無之候哉

（回答大正二年十二月九日第四八四一ノ三號）

御料林野ト御料林野以外ノ御料土地ト交互相關聯シタル箇所ノ疆界査定ヲ施行シタル場合ニ於テ疆界簿ヘ調印方ノ義ニ關シ客月七日業第三七三一ノ一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通リ御處理相成リ差支無之ト存候條御了知有之度尤モ調印要求ノ爲メ時日ヲ要シ之レカ爲メ御料林野疆界査定規則ニ據リ處理スヘキ分ニ對シ通告書發送方遷延ニ渉リ候テハ皇室財產令及御料林野疆界査定規則運用上遺憾ノ義ト存候條疆界簿調製濟ノ上ハ別紙樣式ノ調書ヲ添ヘ進達ヲ得テ先ツ通告書ヲ發付シ期間（三ケ月）經過後疆界簿ヲ回送可致候間其際調印方御取計ノ上御返送有之度

（別紙）

御料地疆界隣接地關係調書

御料地籍						隣接地籍						界標	隣接地所有者					
國	郡	町村	大字	字	出張所名	國	郡	町村	大字	字	地番	地目	番號	道廳府縣	郡市	町村	大字	地番又ハ戸番	氏名

備考
一、同一所有者ニシテ隣接地數筆アルトキハ同一箇所ヘ集メテ順次列記スルコト
一、疆界査定規則ニ據リ通告スヘキモノハ墨書シ境界踏査規程ニ據リ調印ヲ要求スヘキモノハ朱書スルコト

（備考）本件ハ同月同日同號ヲ以テ主事ヨリ各支廳ヘ達

●境界簿中外國人ノ署名幷ニ國籍記載方ノ件

明治三十九年二月二十一日
發第一四六號靜岡支廳伺

御料地ニ隣接スル民地ニシテ財團又ハ社團法人名ノ所有地有之而シテ右法人ノ理事カ外國人ナル場合ハ素ヨリ該外國人ニ對シ境界踏査ニ關スル一切ノ交渉ヲナシ境界簿ヲ作製スルニ當リテハ前顯法人名及其設立地共土地臺帳ニ登錄シアルモノト均シク境界簿中管理者又ハ所有者ノ當該欄内ニ夫々記入スルハ勿論ノ義ニ有之候ヘ共簿末餘白ニ界線ノ相違ナキヲ認諾シ署名捺印スル場合ニ際シ法人ノ理事者タル外國人ニ署名捺印セシムルノ手續ニ至リテハ明治三十二年三月法律第五十號第一條前段ニ準據シ外國人ハ署名スルヲ以テ足ルノ規定ニモ有之候ニ就テハ素ヨリ調印セシムルノ必要ハ無之候得共其國籍ハ詳細氏名ノ傍ニ記載セシムルヤ否

（主事通牒明治三十九年三月二日第一〇八七ノ二號）外國人署名捺印ノ義ハ御伺出ノ通ニテ差支無之義ト存候又國籍ノ義ハ之ヲ記載セシムルニ及ハス日本ニ於ケル住所若クハ居所ヲ記載セシメ可然ト存候尤モ境界簿所有者欄ニハ所有者トシテ社團、財團若クハ會社等ノ名稱ヲ揭記スルコトニ御承知相成度本件御伺ニ對シテハ別ニ御指令不相成候間右ニ御了知相成度

（備考）同日同號ヲ以テ本件參考ノ爲メ他ノ地方部局ヘ通牒

●御料地疆界簿整理ノ件

明治三十六年三月九日
第一〇六八號主事通牒

上略　踏査規程第五十七條ニヨル官吏ノ立會ニ係ルモノハ證明書ヲ徵收セスシテ管理者ヲシテ直ニ疆界簿ヘ調印セシムル方却テ便宜歟カラサル義ニ有之候ヲ以テ時宜ニ從ヒ疆界簿ヘ調印セシメ差支無之候下略

●境界簿調製後訂正方ノ件

明治四十一年十二月二十二日
第六三三八ノ七號主事通牒

御料地境界簿ニシテ作製後訂正ヲ要スル廉有之候時ハ踏査員ハ該訂正ノ箇所ヘ隣接地關係者ト共ニ捺印スヘキ筈ノ處境界簿作製後其踏査員他ヘ轉任其他ノ事由ニ依リ在職セサル場合ニハ更ニ整理員ヲ設ケ左記ノ通リ境界簿冊尾ニ其整理員ノ官氏名捺印及年月日ヲ記入シ訂正ノ箇所ヘハ踏査員ノ例ニ依リ隣接地關係者ト共ニ捺印スルコトニ相成候
追テ訂正ノ箇所ニシテ測量員ノ捺印ヲモ要スル場合ニハ本文ノ例ニ依リ御取扱相成コトト御承知相成度

記

明治四十一年十二月二十二日　　主事　名　[印]

●御料林野疆界簿圖抄本調製費徵收方ノ件

大正元年九月十二日第六六六ノ二號主事通牒

御料林野ノ隣接地所有者ヨリ疆界簿又ハ疆界圖ノ抄本ヲ下付申請ノ場合ハ御料林野ノ隣接地所有者ヨリ疆界簿又ハ疆界圖ノ抄本ヲ下付申請ノ場合ニ於テハ其實費ヲ徵收スヘキ旨ハ大正三年十月二十八日第四二三二號主事通牒ヲ以テ通牒シ置候處今般御料林野疆界査定規則第八條第二項ニ據リ調製費ヲ納付セシムヘキ義ニ有之候處町村以上ノ公法人ノ所有地ニ對シ其管理者タル町村長等ヨリ申請ノ場合ニハ從來取扱ノ例ニ依リ調製費ヲ納付セシムルニ及ハス尚御料林野以外ノ御料土地ニ對スル場合モ抄本調製費ノ徵收方ハ自今御料林野ト同樣ニ取扱フ事ニ相成候

（三）疆界標識改設又ハ疆界變更

●御料地疆界標識改設心得書

大正三年十月二十八日
第四二三二號主事通牒

第一條　御料地疆界標識ハ大正三年一月第三六八號及第三七三號本局主事照會ノ旨趣ニ基キ第一期第二期ニ分チ改設スルモノトス

第二條　第一期ニ於テハ豫テ送付セシ界標番號表ニ記載ノ界點檢出上重要ノモノヲ左記ノ方法ニ據リ堅牢ナル石標ヲ用ヒ改設スルコト

一　疆界査定年度及實況等ニ應シ最モ急要ト認ムル御料地ヨリ順次施行スルコト

二　地方部局ニ於テハ每年度ノ始メニ於テ先ツ其年度所要ノ石標ヲ購入シ之ヲ順次現場ニ配置スルコト

三　本局測量員ハ石標ノ配置ニ從ヒ界點檢測ノ上順次埋設スルコト
但埋設人夫賃ハ地方部局ノ經費豫算金額内ヨリ支辨シ隣接地所有者ヘ通告其ノ他ノ事務ハ地方部局ニ於テ處辨スルコト

四　第一期ノ改設ハ遲クモ大正八年度迄ニ完了セン事ヲ期スルコト

五　一區域ニ於ケル界標ノ改設ヲ終了シタルトキハ直チニ新舊標識ノ種類番號改設ノ事由年月日等ヲ本局ヨリ當該部局ヘ通報スルコト

第三條　第一期改設ニ關シテハ本局ヨリ出張ノ測量員ト協議シ諸事違算ナキヲ期スルコト

第四條　界點檢出上重要點以外ノ疆界標識ノ存否區分（大正三年一月第三六八號本局主事通牒）ハ第一期改設ノ際大正三年五月第三六八ノ六號本局主事通牒ノ標準ニ依リ調査ヲ爲シ其保存ヲ要セスト認ムルモノ及新設ヲ要スト認ムルモノハ翌年三月末日マテニ御料地疆界標識規程施行手續第一條ニ依リ長官ノ指揮ヲ受クルコト

第五條　第二期改設ハ第一期ノ改設ヲ終リタル後第一期改設點以外ニ於テ保存ヲ要スル疆界標識ニ對シ左ノ方法ニ依リ改設スルコト

但第一期改設期間内ト雖トモ疆界標識亡失、腐朽其他ニシテ疆界保護上措置キ難キモノハ隨時改設スルコト

一　疆界査定年度及實況等ニ應シ最モ急要ト認ムル御料地ヨリ順次施行スルコト

二　疆界標識ノ位置中心明確ナルモノノ改設方ハ明治三十七年三月第一五二三號本局主事通牒ノ方法ニ依リ施行スルコト

三　保存ヲ要スル疆界標識ハ全部石標ニ改ムル旨趣ナルモ運搬不便石材缺乏等ノ箇所ニシテ已ムヲ得サル場合ニ於テハ疆界保護上差支ナシト認ムルモノニ限リ土塚其他永久的ノ措置ヲ爲シ疆界保護ヲ謀ルコト

四　保存ヲ要スル疆界標識ノ改設ニ付テハ第一期改設終了ノ翌年ヨリ起算シ其完了スヘキ年限ヲ豫定シ豫メ本局ヘ報告スルモノトス

第六條　本局直轄御料地ノ疆界標識改設ハ地籍課ニ於テ取扱フモノトス

●御料地疆界標識第二期改設心得書

大正八年二月二十八日
第五六〇號主事通牒

第一　第二期改設ハ石標以外ノ疆界標識ニシテ保存ヲ要スルモノニ對シ之ヲ行フコト

但シ保存スヘキモノト廢止スヘキモノトノ區別ハ大正三年五月四日第三六八ノ六號本局主事通牒ニ依リ精査シ違算ナキヲ期スルコト

第二　保存ヲ要スル界標ハ總テ石標ニ改設スルモノトシ主要界點ニハ成規ノ石標其他ノ界點ニハ三寸角（長二尺五寸）ノモノヲ用ヒ支番號ニハ親番ノ彫刻ヲ省略スルモ妨ケナキコト

第三　改設ハ左ノ順序ニ依リ實行スルコト

イ　世傳御料ニ屬スル林業經營ノ大團地ニシテ界標建設年度ノ最モ古キモノヨリ順次施行スルコト

但小團地（普通御料地ヲ含ム）ト雖モ本文大團地附近ニアリテ林業上合同施業ノ便アルモノハ同時ニ施行スルコト

ロ　前項ノ改設ヲ終リタル上ニテ同樣ノ趣旨ニ依リ普通御料地ニ係ル改設ヲ施行スルコト

ハ　地方部局ハ改設箇所ニ付豫メ長官ノ認可ヲ經タル上疆界簿、基本圖ニ依リ翌年度ニ改設スヘキ界標ノ番號員數ヲ調査シ其經費ヲ豫算ニ計上スルコト

ニ　地方部局ハ毎年二月末日マテニ改設豫定ノ御料地名、界標番號ヲ長官ニ報告スルコト

ホ　地方部局ハ年度ノ始メニ於テ其年度所要ノ石標ヲ購入シ豫テ本局通知ノ檢測豫定順序ニ依リ之ヲ現場ニ配置スルコト

但シ石標ハ花崗石質又ハ之ニ劣ラサル堅硬質ノモノヲ選ムコト

ヘ　本局測量員ハ石標ノ配置ニ從ヒ界點檢測ノ上、順次ニ埋設スルコト

但石標ノ埋設方ハ其周圍ニ砂礫ヲ撞キ固ムル等堅固ヲ主トシ移動ノ虞ナキヲ期スルコト

ト　本局測量員ハ豫定界點ニシテ實地不適當ト認ムルモノアルトキハ地方部局ヘ協議ノ上、變更スルコトヲ得ルモノトス

チ　埋設ニ要スル人夫賃等ハ地方部局ノ經費ヨリ支辨シ隣接地所有者ヘノ通告其他ノ事務ハ地方部局ニ於テ處辨スルコト

リ　改設ハ大正八年度ヨリ十五ケ年以内ニ於テ完了ヲ期スルコト

ヌ　一區域ノ事業ヲ終了シタルトキハ御料地名新舊界標ノ種類番號、改設年月日ヲ地方部局ニ通報スルコト

第四　改設ニ關シテハ地方部局員ハ本局測量員ト協力シ諸事違算ナキヲ期スルコト

第五　第一ノ但書ニ依リ廢止スヘキ標識ニ付テハ標識規程施行手續第一條ニ據リ處理スルコト

●御料地境界々標改設方ノ件

明治三十七年三月二十六日
第一五二三號主事通牒

御料地境界々標ヲ改設スルニ際シ當該界標ノ位置ヲ移動スヘカラサルハ勿論ノ義ニ有之就テハ今後界標ヲ改設スル場合ニハ既定界標位置ノ移動ヲ防クカ爲メ左記三方法ノ内適宜其一ヲ用ヒ御施行相成候樣致度

（左記）

（圖面略）

第一　三脚ヲ用ユル法

界標改設前三脚ノ頂點ヨリ垂球ヲ界點上ニ垂下シ其中眞ヲ定メ置而シテ三脚ニ觸レサル樣舊界標ヲ取除キ新界標ヲ埋設シ更ニ垂球ノ尖端ニヨリ新標識ニ點ノ位置ヲ示スヘシ

第二　對角線ヲ用ユル法

點ノ周圍適宜ノ位置ニ相對シテ四本ノ杭ヲ設ケ糸ヲ十字ニ張リ（イ）（ロ）ノ方ハ取付置ナリ）糸ノ交叉スル所ト界點ト一致スル樣（ハ）ニ杭上ニテ加減ヲナシ一致スルニ至リ杭頭ニ印ヲ附シ糸ヲ取外シ舊界標ヲ除キ新界標ヲ埋設シ糸ヲ前ノ如ク張リ點ノ位置ヲ定ム

第三　一線ニヨル法

點ヲ通スル一直線ニ於テ其前後ニ二本ノ杭ヲ設ケ一本ノ定木ヲ其頂上ヘ渡シ（イ）（ロ）杭上ニテ定木ヲ加減シ界點ト（ハ）ノ所ト一致スルニ至リ（イ）（ロ）杭上ニ印ヲ附シ定木ヲ取外シ舊界標ヲ除キ新界標ヲ埋設シ定木ヲ前ノ如ク渡シ點ノ位置ヲ示スヘシ

●同上ノ件

大正八年六月六日第一五〇九號主事通牒

上略　界標改設着手前及終了後該隣接關係者ヘ周知セシムル爲御料地所在ノ市町村長ニ公示方依囑ノコトニ御取扱相成度尤モ標識新設ノ場合ニハ疆界簿ノ更正又ハ訂正ヲ要スヘキニ付御料林野疆界査定規則第九條ニヨリ可取扱義ト御了知有之度

文例　第一

地方部局長

市町村長宛

依　頼

何國何郡市何町村大字何

一何御料地

右御料地ノ疆界標識中腐朽亡失等ノモノニ對シ來ル何月何日ヨリ向フ何日間ノ豫定ヲ以テ石標ニ改設又ハ探求標設置方施行可致候間其旨掲示場ヘ掲示又ハ其他相當ノ方法ニ依リ一般隣接地所有者又ハ管理者ヘ公示方可然御取計ヲ煩度尚改設、設置施行濟ノ上更ニ其界標番號等通知可致ニ付其旨ヲモ附記相成度

文例　第二

地方部局長

市町村長宛

依　頼

何國何郡市何町村大字何

一何御料地

右御料地ノ疆界標識改設ノ義公示方豫テ及依頼候處左記ノ通リ改設、設置終了候ニ付掲示場ヘ掲示又ハ其他相當ノ方法ニ依リ一般隣接地所有者又ハ管理者ヘ公示方可然御取計相成度

記

御料地疆界標識改設設置表

御料地名	疆界標識		御料地籍		摘要
	番號	舊標	新標	國郡	町村大字	
			木標石標			腐朽ニ付改設ス
			同　同			亡失ニ付改設ス
			小杭同			何々ニ付改設ス
			木標探求石標			地盤崩壊界標改設シ難キニ付探求石標ヲ設置ス
			小杭探求固著ノ石			何々ニ付探求固著岩石標ヲ設置ス

●御料地界點ニ襲用セル隣接國有林野界點標識改設ノ件

大正六年八月二十九日第一三五五ノ三甲號長官達

御料境界點ニ襲用セル隣接國有林野界點標識ヲ當局ニ於テ石標ニ改設ノ義ニ付農商務省山林局長ト左ノ通リ協定候條自今之ニ據リ施行スヘシ

一　石標ハ御料地界標ノ標式ニ基キ別紙雛形ノ通リ之ニ御料地及國有林野界標ノ記號竝番號ヲ併記スルコト

二　石標埋設ハ御料地及國有林野界標ニ關スル規定ニ據ルコト

三　標識改設點ハ豫メ當該大林區署長ニ協議ノ上決定ノコト

四　改設若クハ將來ニ於ケル修補施行前其界標ノ位置番號竝作業ノ期日ヲ當該小林區署長ヘ通知スルコト改設ヲ終リタルトキ亦同シ

五　改設若クハ修補ニ關スル經費ハ當局ニ於テ負擔ノコト

（別紙雛形略）

主事通牒（大正六年八月二十九日第一三五五ノ三乙號）

御料地ニ於テ襲用セル隣接國有林野ノ界標改設方ニ關シ本日第一三五五ノ三號ヲ以テ達相成候處右ハ御料地疆界ニ於ケル關係測點ノ成果維持ノ必要上其ノ基點ヲ該襲用界點ノ上ニ置カサルヘカラサル場合既設標識カ石標ニアラサルモノニ限リ改設シ得ル義ニ有之尚ホ又改設石標ノ設置竝保護等ニ關シテハ山林局長ト協定事項ノ外御料地疆界標識ニ關スル規定ニ據ルヘキ義ト御了知相成度

●御料地界標又ハ界線變更ノ場合取扱方ノ件

明治三十九年三月二十七日第九八四ノ二號局長達

一　踏査規程三十六條ノ二、御料地境界標識中木標ノ裏面ヘ御料局ト

記載スルノ例ニ有之候處官制改正ニヨリ新局名ヲ記載スヘキ儀ナルモ三分ノ二以上ヲ土中ニ埋ムル爲局名不明トナルヲ以テ裏面ハ宮ノ一字ヲ記載スル樣致度

○皇族所有地疆界標記載方ノ件

大正二年十一月二十九日第五二九九號長官ヨリ大臣（伺定）

皇族御所有地ノ疆界査定ヲ當局ニ於テ施行シ之ニ界標ヲ建設スル場合ハ石標ハ別紙雛形ノ如ク頂面ニ十字形前面ニ界何々（番號）背面ニ皇族所有地ト彫刻シ木標ハ前面ニ界何々（番號）背面ニ皇族所有地ト記載シテ使用シ御料地疆界標ト區別スル事ニ致度

但御料地ノ疆界標ハ別紙參照圖面ノ通リニ有之候（圖面略ス）

○御料地疆界標識規程

大正三年三月三日訓令第四號

（改正）　大正十三年訓令第八號

第一條　本規程ニ於テ疆界標識トアルハ界標、探求標及指導標ヲ謂フ

第二條　疆界標識ノ設置、管理及廢止ハ帝室林野局長官之ヲ行フヘシ

第三條　各部局ノ保管ニ係ル御料地ニ設置ノ疆界標識ハ當該部局長官之ヲ保存スヘシ

第四條　工事其ノ他ノ事由ニ因リ疆界標識ノ撤去ヲ要スルトキハ當該部局長官ハ標識ノ種類、番號及事由ヲ具シテ其ノ撤去ヲ帝室林野局長官ニ要求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ標識撤去ノ事由止ミタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ帝室林野局長官ニ通牒スルコトヲ要ス

第五條　各部局長官ハ其ノ保管ニ係ル御料地ノ疆界標識ニ付テハ常ニ其ノ狀況ニ注意シ腐朽、毀損、顚倒、埋沒、亡失又ハ位置移動シタルトキ若ハ其ノ虞アリト認メタルトキハ速ニ標識ノ種類及番號ヲ具シ其ノ旨ヲ帝室林野局長官ニ通牒スヘシ

第六條　帝室林野局長官ハ各部局ノ保管ニ係ル御料地ニ付キ疆界標識ヲ新設、改設（原形ト同種類ノ材料ヲ以テスル場合ヲ除ク）又ハ廢止シタルトキハ標識ノ種類、番號、位置、事由及年月日ヲ當該部局長官ニ通牒スヘシ

前項ノ場合ニ於テ標識新設ノ通牒ニハ其ノ位置ヲ示シタル圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七條　帝室林野局長官疆界標識ノ設置アル御料地ヲ他部局ノ保管ニ移シタルトキハ疆界簿ノ謄本ヲ當該部局長官ニ送付スヘシ他部局ノ保管ニ係ル御料地ニ付キ疆界ノ査定又ハ踏査ヲ完了シタルトキ亦同シ

第八條　疆界標識ノ異動ハ其ノ事項及年月日ヲ當該御料地疆界簿及其ノ謄本ノ相當記事欄又ハ欄外ニ記入スヘシ

謄本ノ記入ハ抄本ニ基ツキ之ヲ爲スヘシ

●御料地疆界標識規程施行手續

大正九年三月一日第三二三ノ八號長官達

第一條　支局長又ハ事務所長ハ御料地疆界標識ニシテ維持ヲ要セス又ハ新設ヲ要スト認メタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ具シ長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條　事務所長、出張所長及分擔區員ハ左ノ各號ニ依リ標識ヲ巡檢スヘシ

一　事務所長ハ每年其ノ管內ニ於テ三個所以上點檢的巡檢ヲ爲スヘシ

二　出張所長ハ每年各分擔區內ニ於テ一個所以上點檢的巡檢ヲ爲スヘシ但シ四以上ノ分擔區アルトキハ二ケ年ニ涉リテ巡檢スルコトヲ得

三　分擔區員ハ左ノ區別ニ從ヒ巡檢スヘシ

イ　耕宅地、平坦地、傾斜地等ノ個所ニ係ルモノハ六年ニ一回

ロ　顯著ナル分水嶺其ノ他ノ天然界、地形及地物等ニ依リ疆界判明セル個所ニ係ルモノハ八年ニ一回

洪水其ノ他ノ事變又ハ隣接地ノ伐木、新植、開墾、土木工事等ニ依リ標識ノ毀損、亡失又ハ移動等ノ虞アルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス隨時巡檢スヘシ

業務繁劇其ノ他ノ事故ニ依リ當該分擔區員巡檢スルコト能ハサルトキハ事務所長又ハ出張所長ハ事務所員、出張所員又ハ他ノ分擔區員ヲシテ巡檢セシムルコトヲ得

分擔區ノ設置ナキ場所ニ付テハ前各項ニ準シ事務所員ヲシテ巡檢セシムヘシ

第三條　支局長又ハ事務所長ハ前條ノ巡檢者ニ疆界簿謄本若ハ抄本又ハ疆界圖ヲ交付スヘシ其ノ謄本抄本又ハ疆界圖ニ異動アリタルトキ亦同シ

第四條　支局長又ハ事務所長ハ人跡稀ナル　岳地、絕險地深山幽谷其ノ他普通ノ方法ヲ以テ巡行スルコト能ハサル個所等ニシテ第二條ノ規定ニ依ルコトヲ要セスト認メタルモノアルトキハ長官ノ認可ヲ經テ特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

第五條　支局長又ハ事務所長ハ疆界標識巡檢豫定表ヲ作リ第一號樣式ニ依リ長官ニ報告スヘシ

第六條　巡檢者ハ主トシテ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　標識ノ番號、位置不明ナルモノ又ハ不明ニ歸スル虞アルモノナキヤ否ヤ

二　標識ノ顚倒、傾斜、露出、埋沒、腐朽、毀損、亡失又ハ其ノ位置移動等ノモノナキヤ否ヤ

三　標識ニ接觸シテ道路、溝渠、堤塘、畦畛、園墻其ノ他ノ工事及植樹、開墾等ノ爲メ標識ノ保全ヲ侵害シ又ハ疆界線ヲ紛亂セルモ

ノナキヤ否ヤ

地中標ハ其ノ實況ニ依リ覆土ヲ發キテ之ヲ檢査スヘシ

巡檢上又ハ界線維持上障碍トナルヘキ界線ニ沿フ御料地内ノ立竹木荊棘等ハ之ヲ伐除スルコトヲ得但シ疆界識別又ハ風發維持等ノ爲メ存置ノ必要アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條　第二條ノ巡檢ヲ終リタルトキハ第二號樣式ニ依リ疆界標識巡檢表ヲ作リ之ヲ上官ニ報告スヘシ

第八條　支局長又ハ事務所長ハ前年中巡檢シタル部分ニ付第三號樣式ノ一ニ依リ毎年二月末日迄ニ長官ニ報告スヘシ

界點檢出上ノ重要點ニ設置ノ界標ニ關シテハ第三號樣式ノ二ニ依リ其ノ保存狀況表ヲ添付スヘシ

第九條　巡檢者ハ左ノ區別ニ從ヒ夫々相當處理スヘシ

一　標識ノ字劃不明ナルモノアルトキハ之ヲ明瞭ニ修理スヘシ

二　標識ノ露出、傾斜等ノモノアルトキハ相當修理シ又顚倒、腐朽、毀損、埋沒、亡失、位置移動等ノモノアルトキハ復舊改設方等相當措置ヲ爲スヘシ

三　標識ニ接觸シテ道路、溝渠、堤塘、畦畛、圍墻其ノ他ノ工事及植樹開墾等ノ爲メ標識ノ保全ヲ侵害シ又ハ疆界線ノ紛亂ヲ來スモノアルトキハ之カ整理方等相當措置ヲ爲スヘシ

前項第二號又ハ第三號ノ事故アルモノニシテ其ノ位置不明ニ歸スルノ虞アルモノニ對シテハ其ノ改設ヲ行フマテ適當ノ假標ヲ設ケ其ノ位置ヲ標示シ置クヘシ

第十條　支局長又ハ事務所長ハ疆界標識ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ之カ檢測方ヲ長官ニ具申スヘシ

一　腐朽又ハ著シク毀損シタルトキ

二　顚倒シタルトキ

三　位置ヲ移動シタルトキ

四　埋沒又ハ亡失シタルトキ

五　前各號ノ外疆界保護上必要アリト認メタルトキ

第十一條　支局長又ハ事務所長ハ界標ヲ設置シタル地盤ノ崩壞、埋沒又ハ流失等ノ虞アルトキハ探求標ヲ設置スヘシ

第十二條　支局長又ハ事務所長ハ本手續ニ依リ標識ヲ修理、改設、設置又ハ廢止シタルトキハ第四號樣式ニ依リ其ノ都度遲滯ナク長官ニ報告スヘシ

但シ標識新設ノ場合ハ疆界簿訂正又ハ更正ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　御料地疆界簿ノ異動ニ付其ノ抄本ノ送付ヲ受ケタル者ハ直ニ疆界簿謄本ニ之ヲ記入スヘシ

第一號樣式

御料地疆界標識巡檢豫定表

巡檢年度	巡檢者	種別	圍地名	御料地名	界標番號	御料地籍 國	郡市	町村	大字	摘要
二年ニ一回	何出張所何分擔區	他ノ所有地トノ界標			自何號至何號					
〃	〃	〃								
四年ニ一回	〃	〃								
〃	〃	〃								
六年ニ一回	〃	〃								
〃	〃	〃								
〃	〃	〃								
〃	〃	他ノ所有地トノ疆界ニアラサル界標								

〃	〃	〃							
八年ニ一回	〃	〃							
〃	〃	〃							

右ハ　何年度ヨリ巡檢ノ豫定ニ付及報告候也

年　月　日　　支局長名

長官宛

備考

一、本表ニヨリ順次循還永遠ニ巡檢スベキモノニ付疆界査定濟御料地ヲ相當割當テ遺漏ナク列記スルコト

二、新ニ疆界査定ヲ施行シタルモノアルトキハ本表ニ追加方其都度報告スルコト

三、御料地賣拂其他ノ事故ニヨリ除却ノ場合ハ本表ヨリ削除方其都度報告スルコト

四、分擔區ノ分合、廢止、增設等ノ場合ハ本表更正方其都度報告スルコト

第二號様式

御料地疆界標識巡檢表（△印ハ重要點）

園地名	御料地名	郡市	町村	大字	巡檢年月日	巡檢者職氏名	標識番號	標識種類	標識位置	標識實況
										亡失又ハ何々ニ付改設ヲ要ス
										異狀ナシ
										毀損又ハ何々ニ付改設ヲ要ス但位置不明ニ歸スル虞アルニ付假標ヲ設ク
										崩壞ノ虞アルニ付探求標設置ヲ要ス
							△			重要點ニシテ異狀ナシ
							△			重要點ニシテ毀損ニ付改設ヲ要ス
										何々
										、、

右及報告候也

年　月　日　　官職氏名印

所屬長官宛

備考

探求標ヲ巡檢シタルトキハ標識番號欄內ニ探求標ノ文字ヲ附記スルコト

第九條ニヨリ假標ヲ設置シタルトキハ其ノ旨標識實況欄ニ附記スルコト

重要點ハ其ノ標識番號ノ肩ニ適宜ノ符號ヲ付シ其ノ區別ヲ明ニスルコト

第三號樣式

昭和何年度御料地疆界標識巡檢成績表

巡檢者	種別	圓地名	御料地名	界標番號	御料地籍 國	郡市	町村	大字	摘要
何分擔區員（又ハ、、）	他ノ所有地トノ界標			自何號 至何號					豫定ノ通巡檢
	〃			自〃 至〃					何々ノ爲豫定以外ノ巡檢ヲナシタリ
	〃			自甲一〇一號 至甲一五〇號					何々ノ爲豫定通リ巡檢スルコトヲ得ス本表ノ分ノミ巡檢
	〃			自甲一五一號 至甲二〇〇號					巡檢未了ノ分ニシテ何年度ニ於テ巡檢ノ見込
	〃			自乙一號 至乙二〇〇號					何々ノ爲巡檢シ得サリシニ付何年度ニ於テ巡檢ノ見込
	〃			自甲一號 至甲一〇〇號					前年度ニ於テ巡檢未了ノ分巡檢
	他ノ所有地トノ疆界ニアラサル界標			〃何號 〃何號					何々
	〃			〃〃 〃〃					、、
出張所長	他ノ所有地トノ界標			〃〃 〃〃					點檢的ニ巡檢ス
	他ノ所有地トノ疆界ニアラサル界標			〃〃 〃〃					、、

右及報告候也

年 月 日 支局長

長官宛

備考

一、巡檢シ得タルモノヲ墨書シ豫定ノ巡檢ヲ爲シ得サルモノヲ朱書シ豫定表ニ對照シ合致スル樣記載スルコト

二、摘要欄ニハ豫定ノ通リ巡檢シ得タルモノト豫定以外ニ巡檢シタルモノトヲ明ニシ且ツ豫定ノ通リ巡檢シ得サルモノニ付テハ其理由並今後巡檢スヘキ見込期限ヲ記載スルコト

第四號樣式

御料地疆界標識改設、設置、廢止表

圓地名	御料地名	界標番號 改設	設置	修理	廢止	標識種類 舊標	新標	高低差	御料地々籍 郡市	町村	大字	摘要	疆界簿附記事項
		甲 2				木標	石標	-0.12米				腐朽	何年何月何日石標ニ改設ス
		〃 3				〃	〃	-0.15				亡失	〃

		〃 26.1.22	甲 26		〃 21
甲 30					
	甲 27				
				甲 22	
木標	石標	小杭	〃	〃	〃
探求石標	〃	〃	石標	無標	〃
	…	…	…		…
毀損	〃				
水流ノ爲位置不安固トナル	何年何月何日木標ヲ廢止シ無標トス				
毀損又ハ轉倒	何年何月何日石標ニ改設ス				
測量上必要	〃				
頭部毀損又ハ傾斜ニ付修理	何年何月何日修理ス（疆界簿記入ノ要ナシ）				
地盤崩壞界標保存不可能	地盤崩壞ニ付何年何月何日探求石標ヲ設置ス				

右隣接地關係者ヘ公示ノ上疆界簿謄本ヘ記入濟ニ付及報告候也

年　月　日　　支　局　長

長　官　宛

備考

一、本表ハ異種類ノ改設、探求標設置又ハ標識廢止修理ニ係ルモノヲ掲クルコト

二、前項ノ改設設置廢止ヲ施行シタルトキハ疆界簿謄本ノ記事欄又ハ欄外（附記シ其附記事項ヲ本表相當欄内ヘ移記スルコト

三、探求標ヲ設置セシトキハ方位距離表及位置圖ヲ添付スルコト

四、高低差ノ欄十ノ符號ハ其ノ頂面舊標ヨリ高クナリタルモノ又一ノ符號ハ低クナリタルモノニシテ單位ヲ米突トス

●御料地疆界標識巡檢臺帳ノ件

大正三年十月二十六日第三九二五號地籍課ヨリ長官ヘ何定

御料地疆界標識ハ標識規程第五條ニ依リ巡檢豫定ヲ爲シ順次循環永遠ニ巡檢スヘキ義ニ付テハ別紙樣式ノ通リ巡檢臺帳ヲ作製シ同規程第八條ニ依リ報告ヲ受ケタル都度相當欄ヘ左記罐形ノ印影ヲ捺シ之ニ巡檢年度ヲ記入シ處理ノ事ニ致度

記

（略ス）

●御料地疆界標識石標ヲ鐵筋コンクリート標ヲ以テ代用ノ件

昭和五年六月十日木業第八三八號木曾支局長協議

昭和五年七月一日業第三六七ノ二號業務課長回答及各支局長ヘ通牒

鐵筋コンクリート標ヲ以テ石標ニ代用セントノ件ハ重要點ヲ除キ使用スルニ於テハ差支ナク之ヲ見本ニ徵スルニ中間ニ於テ長ノ方向ニ直角ニ破レ目ヲ生シ來リ候ニ付運搬上ニ充分ノ注意ヲ拂フベキハ勿論破損セルモノハ使用セサルカ又ハ完全ニ修理ノ上使用相成樣致度

●鐵筋コンクリート標圖式記號ノ件

昭和五年七月十四日木業第八三八ノ三號木曾支局長協議

昭和五年七月二十一日業第三六七ノ四號業務課長回答及各支局長ヘ通牒

記

鐵筋コンクリート標　田　黑色方四厘

五　測　量

○御料地測量規程

明治廿七年五月二十八日第一二一七號局長達

本月一日付業第三六七號二及通牒置候鐵筋コンクリート標ニ對スル圖式記號ノ義ハ御料地測量規程御料局測量記號ニ準シ左記ノ通記載方取扱相成度

記

第一章　通　則

第一條　御料地ノ測量業務ハ御料地ノ地盤ヲ確定シ面積ヲ算出シ併セテ地形ヲ詳相シ地圖ヲ調製スルヲ目的トシ左ノ順序ニ依ル

一　三角測量

二　細形測量

三　計　算

四　製　圖

第二條（削除）

第三條（削除）

第二章　三角測量

第四條　御料地ニ施行スル三角測量ニハ專ラ三等以下ノ小三角網ヲ布

設シ各點ノ距離及縱橫線ヲ算出シ以テ細形測量ノ基本トス

第五條　三角測量ハ凡千五百町歩以上ノ土地ニ施行スルモノトシ之ヲ正式及簡易ノ二種ニ區別ス

但地勢ノ狀況ニ依リ本條規定以下ノ地積ト雖トモ單ニ細形測量ノミヲ以テ不完全ト認ムルトキハ尙三角測量ヲ施行ス

第六條　正式三角測量ハ凡五萬町歩以上ノ御料地ニ施行スルモノトシ三角法ノ原則ニ基キ本點（本點ハ三等點ニ準シ全測量ノ基本トナルヘキ觀測點）及副點（副點ハ四等點ニ準シ本點ニ基キ細形測量ノ起點トナルヘキ接合點）ヲ布設スルモノトス

第七條　簡易三角測量ハ凡五萬町歩未滿ノ御料地ニ施行スルモノトシ適宜簡易ノ測法ヲ用ヒ細形測量ノ起點ヲ定ムルモノトス

但本條ノ測量ハ細形測量ト併施スルモノトス

第八條　三角ノ邊長ハ地勢ノ狀況ト測法ノ區別ニ應シ適宜二百間乃至五千間ノ範圍内ニ於テ撰定スヘシ

第九條　三角ハ地形ノ許ス限リ等邊ナルヲ要ス假令然ラサルモ其角度ハ三十度ヲ下ラス百五十度ヲ超ヘサルヲ勉ムヘシ

第十條　參謀本部ノ三角點既設地ニ在リテハ該點ヲ襲用シ其既設點二等以上ニ止マリ其餘ノ小三角未設ノ場合ニアルカ又ハ大小ノ三角點既設地ニアリテモ尙ホ補助點ヲ要スルトキハ以上ノ既設點ニ基キ所要ノ點ヲ增設スヘシ

第十一條　參謀本部ノ三角點未設ノ地ニシテ必要アル場合ニハ三角ノ一邊ヲ撰ミ眞方位角ヲ測定スルモノトス

第十二條　三角測量ニハ必ス三角高程測量ヲ併施シテ細形測量高程ノ基準トスヘシ

第十三條　三角點ハ成ルヘク測器ヲ据得ラルヘキ場所ニ撰定スヘシ若シ副點ナルカ又ハ烟筒、塔、樹木等ヲ三角點ニ充用スルトキハ三點以上ノ切合ヲ以テ其位置ヲ定ムヘシ

第十四條　三角點ハ成ルヘク御料地内ヘ設クルヲ要ス若シ官有地又ハ民有地ヘ設クルノ必要アル場合ニハ其敷地ハ御料ニ編入買收若ハ永借ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　三角點ノ名稱ハ其土地公稱ノ字名ヲ用ユヘシ

第十六條　三角點ノ標識ハ石標ヲ用ユヘシ

但時宜ニヨリ木標又ハ固著岩石ヲ用ユルモ妨ケナシ前項三角點ノ標識ハ左ノ方法ニ依リ設置スヘシ

一　石標ハ凡五寸乃至六寸角長二尺五寸許ノ石材又ハ之ニ適應シタル天然石ヲ用ヒ第一圖式(イ)ノ如ク上部凡五分ノ一ヲ四寸乃至五寸角ニ削正シ上部ノ四端ヲ隅切リ上面ヘ十字形前面ヘ御料局三角點ノ六字背面ヘ名稱或ハ記號ヲ刻シ其五分ノ四ヲ地下ヘ埋ムヘシ又主要ノ測點ニアリテハ尙地中標ヲ設クルコトアルヘシ此場合ニ在リテハ第一圖式(ロ)ノ如ク凡方一尺二寸厚五寸ノ石材ヲ上面滑カニ削リ十字形ヲ刻スヘシ

二　木標ハ第一圖式(ハ)ノ如ク可成耐久ノ角杭又ハ丸杭ヲ用ユヘシ角杭ハ方三寸以上丸杭ハ徑四寸以上長三尺以上トナシ其三分ノ二ヲ地下ニ埋メ標頂ヘ白ペンキヲ塗リ釘ヲ打チ局名、名稱等ハ適宜ノ部面ヘ記入スヘシ

三　固著岩石ハ第一圖式(ニ)ノ如ク上面方五寸ヲ平滑ニ削リ十字形

ヲ刻スヘシ此場合ニアリテハ測點ノ周圍適宜ノ位置ヲ撰ミ指導標（石標若シハ木標）ヲ建設シ其測點ニ對スル方面ヘ點距其他ノ面ヘ局名、名稱等ヲ刻ミ若ハ記スル前項ニ同シ

第十七條　測標ノ構造ハ第二圖式ニ倣ヒ實地ノ狀況ニ應シ適宜撰擇スヘシ

但測標ハ標識ノ埋設ニ先チ構造スルヲ良シトシ又樹上ニ測標ヲ緊著スル場合ニアリテハ其中心ヲ地上ニ移シ標識ヲ埋設スヘシ若シ測標ノ垂下點樹木ノ幹部ニ該リ標識ヲ埋設スル能ハサルトキハ固著岩石ノ例ニ倣ヒ指導標ヲ設クヘシ

第十八條　交通便利ノ場所ニアリテハ前條ノ測標ヲ建設セス適宜ノ目標ヲ撰用スルモ妨ケナシ

第十九條　三角點ニハ第一號雛形ニ倣ヒ測點記ヲ調製スルヲ要ス

第二十條　基線ハ測尺若ハ鋼鐵卷尺ヲ用ヒテ之ヲ測リ延長百間乃至六百間ヲ限リ土地ノ大小險夷ニ應シ適宜試驗線ヲ置キ一線ヲ二回以上測ルモノトス

但每回起程點ヲ換ヘ反對方位ニ測進スヘシ

第二十一條　正式三角點ノ測角ハ多能經緯儀ヲ用ヒ眼鏡ノ正反兩位ニ於テ平面角ハ各二回以上高低角ハ各一回以上簡易三角點ノ測角ハ回轉經緯儀ヲ用ヒ平高兩角各一回以上觀測スルヲ定則トス

但平面角ニ於テハ每回輪廓ノ位置ヲ任意異動スルヲ要ス

第二十二條　測角手簿ハ第二號及第三號雛形ヲ用ヒ表面ヘ題號及年月官姓名ヲ記シ卷首ヘ索引ヲ附シ每測量區ニ一括シテ保存スルモノトス細形測量各手簿モ亦同シ

第七類　管理　五　測量

第三章　細形測量

第二十三條　細形測量ハ三角點ニ基キ又ハ三角網ヲ布設セス直チニ多邊形ニ由リ境界、地積目界、地形及物體ノ位置ヲ正確ニ測定スルモノトス

第二十四條　細形測量ヲ再別シテ幹部測量及地形測量ノ二トス

第二十五條　幹部測量ハ周圍境界、主要路線、主要溪河等ノ測量ヲ云ヒ地形測量ハ幹部測量ニ基キ測板等ノ如キ簡易ノ測器ヲ用ヒテ施行スル内部ノ測量ヲ云フ

第二十六條　境界測量ハ必ス境界踏査ヲ卒ヘ界線判明ノ上著手スルモノトス

第二十七條　測點ノ標識ハ主要ノ位置ニ限リ石標若ハ木標ヲ用ヒ其他ハ時宜ニヨリ適宜ノ點杭ヲ設クルコトアルヘシ

一　石標ハ第十七條ノ圖式ニ準シ上部凡五寸乃至三寸隅切角ニ造リタル長二尺五寸以上ノ石材若クハ同長ノ天然石ヲ用ヒ上面ヘ十字形前面ヘ御料局測點ノ五字背面ヘ名稱或ハ記號ヲ刻シ其三分ノ二ヲ地下ニ埋ムヘシ又主要ノ測點ニアリテハ第十七條圖式ノ地中標ヲ埋設スルコトアルヘシ

二　木標ハ第十七條ノ圖式ニ準シ可成耐久ノ角杭又ハ丸杭ヲ用ユヘシ角杭ハ方三寸以上丸杭ハ徑四寸以上長三尺以上トナシ其三分ノ二ヲ地下ニ埋メ標頂ヲ白ペンキニテ塗リ局名及番號等ヲ適宜ノ部面ヘ記入スヘシ

第二十八條　細形測量ノ測角ハ經緯儀ヲ用ヒ方向角ニテ漸次測進シ既定點ニ至リ測角ノ正否ヲ驗スヘシ又場合ニ依リテハ挾角ニテ測進ス

ルモ妨ケナシ（第四號雛形）

但回數ハ測者ノ自認ニ任スト雖トモ回轉眼鏡ニアリテハ正反兩位ノ覯測ヲ施スモノトス又溪間等ノ如キ支線ニシテ接交點ナキ場合ニアリテハ方向角ノ外俯ホ挾角ヲ測リ以テ誤リヲ防クヲ好シトス

第二十九條　距離ハ間ヲ本位トシ點距ハ小數二位ニ支距ハ測量ノ精粗ニ應シ二位若クハ一位ニ止ムヘシ

第三十條　支距測量ヲ要スル對合ニハ鏈鎖ヲ用ヒテ距離ヲ測定スルモノトス（第五號雛形）

但回數ハ測者ノ自認ニ任ス

第三十一條　山地ニアリテハ專ラ測距儀ヲ用ヒ距離方向及高低ヲ同時ニ測リ測線ノ左右ハ見取ヲナスモノトス（第六號雛形）

但回轉眼鏡ニ在リテハ正反兩位ノ覯測ヲ施スモノトス

第三十二條　測距儀ハ經緯儀ヲ用ヒ眼鏡ノ視力ニ應シ凡四十間乃至百間ヲ基礎トシ視的尺ノ分度ヲ定ムルモノトス

但分度ヲ定ムルニハ先ツ經緯儀ノ十字環ヘ視經ヲ張リ然ル後適當ノ基礎線ヲ定メ數回ノ試測ヲナシ視線ニ一致ノ割合ヲ視的尺ニ分畫スヘシ用材ハ良木ヲ撰ミ凡長十尺幅三寸厚一寸ヲ標準トス

第三十三條　山林原野ノ內部地形測量ニアリテハ測板ヲ用ヒ曲線ヲ以テ地勢ヲ現シ其他ノ模樣ハ成ルヘク詳細ニ寫出スヘシ

但測板ニ用ユル縮尺ハ五千分ノ一ヲ最大トス

第三十四條　山地ノ細形測量ニハ測距儀若クハ氣壓計ニ依リ高程ヲ測定スヘシ

但既定兩點間ノ高程ニ對シ差違ヲ生セシ場合ニハ補間法ニヨリ兩點間ノ各點ニ配分スヘシ（第七號及八號雛形）

第三十五條　既定ノ高程アル場合ニハ海面ヲ以テ起點トシ否ラサレハ適宜主要ノ一點ヲ撰ミ起點トナスヘシ

第三十六條　境界接近ノ部分ハ特ニ詳測スルハ勿論河川、道路、溝壕等ノ片側ヲ以テ境界トスルトキハ是ニ對スル向側十間以內ノモノハ必ス測定ヲ要ス其以上ニ跨ルトキハ見取ヲ爲スモ妨ケナシ

第三十七條　御料地內ニアル國郡市町村大字及字界ハ之ヲ測定スヘシ

但市町村大字及字界實地不明ノ箇所ニシテ調査上特ニ手數ヲ要スル場合ニ於テハ其地役場ノ圖面ヲ襲用スルモ妨ナシ

第三十八條　御料地ニシテ他寮局ノ管理ニ屬スルモノハ單ニ境界ヲ詳測シ內部ノ模樣ハ特ニ必要アル場合ニアラサレハ天然ノ地形ニ止メ建造物ハ測定セサルモノトス

但人造ト雖道路、溝壕、石垣等ノ如キ容易ニ變更セサルモノハ天然ノ地形ト見做シ成ルヘク詳測スルヲ要ス

第三十九條　手簿ニ描畫スル御料地境界線ノ記號ハ（記號略ス）ヲ用ヒ其ノ他ノ記號ハ第六十八條ニ據ルモノトス

第四章　計　算

第四十條　計算ハ實測ノ成績ニ因リ距離、方向、高低、測點ノ位置及面積等ヲ算定スルモノニシテ其順序ハ大ヨリ小ニ及ホスヲ例トス

第四十一條　凡計算ハ必ラス二回以上檢算スルモノトス

第四十二條　正式三角ノ計算ハ方程式平均法ニ據ルモノトス

第四十三條　簡易三角ノ計算ハ略式平均法ヲ用ユルモノトス

第四十四條　細形測量測點ノ計算ハ經緯距法ニ因ルモノトス（第九號雛形）

第四十五條　面積算定法ハ左ノ四種トス

一　經緯距法（第十號雛形）

二　實算幾何法

三　圖上幾何法

四　示積器（プラニメートル）

第四十六條　面積算定ハ專ラ經緯距法及實算幾何法ヲ用ヒ圖上法ハ實算シ難キ場合ニ限リ之ヲ用ヒ示積器ハ面積ノ概數ヲ求ムル場合ノ外用ヒサルモノトス

第四十七條　面積ハ市街地ニアリテハ坪數ヲ以テ顯シ勺位ニ止メ郡村地ニアリテハ段別ヲ以テ顯シ歩位ニ止ムヘシ

第四十八條　圖上ヨリ面積ヲ算出スルトキハ圖紙ノ伸縮ヲ査シ差違アレハ相當ノ改正ヲナスヘシ

第四十九條　計算完結ノ上書類ハ其測量手簿ト一括シテ保存シ置クヘシ

第五章　公　差

第五十條　凡テ公差ハ實測若ハ算法ノ正否ヲ査スルノ料トス

第五十一條　三角測量基線ノ公差ハ一萬分ノ一トス

第五十二條　距離ノ公差ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　測鎖若ハ卷尺ニアリテハ（平地ニテ千分ノ一、五　山地ニテ千分ノ三）

二　測距儀ニアリテハ三百分ノ一

第五十三條　角度ノ公差ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　三角測量ニ於ケル三角形三角和ノ公差ハ正式法ニ在テハ十五秒簡易法ニ在テハ一分トス

二　細形測量ニ於ケル多角形總角和及既定兩點間ニ於ケル方向角ノ公差ハ經緯儀ノ眼鏡正反兩位ノ覯測ニアリテハ $1.5\sqrt{n}$ 分片位ノ覯測ニアリテハ $2\sqrt{n}$ 分ヲ限リトス（n ハ角數）

但平均法ニハ角數ニ應シ均配ス其三點以上ノ既定點ニ基キ或一點ヲ定ムル場合ニハ各帶ノ價値ヲ求メ之ニ比例シテ平均スルモノトス（第十一號雛形）

第五十四條　多角形ニ於ケル經緯距ノ結差（ヌノハ緯距ノ結差　ガノハ經距ノ結差）$\varepsilon = \sqrt{\frac{2}{\xi^2+\eta^2}}$ ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但平均法ハ邊長ニ比例スルモノトス其三點以上ノ既定點ニ基キ或一點ヲ定ムル場合ニハ各帶ノ價値ヲ求メ然ル後各其帶ノ邊長ニ比例シ平均スルモノトス（第十二號雛形）

一　平地ニ在テハ $\varepsilon = 0.01\sqrt{4(S)} + 0.005(S)^2$

二　山地ニ在テハ $\varepsilon = 0.01\sqrt{6(S)} + 0.0075(S)^2$

三　嶮地ニ在テハ $\varepsilon = 0.01\sqrt{8(S)} + 0.01(S)^2$

式中 (S) ハ邊長ノ和數

第五十五條　高低ノ公差ハ左ノ制限ニ從フヘシ

三角ニ於テ一點ヲ既定兩點ヨリ算定スルニ當リ互測セシモノニ在テハ距離ノ一萬分ノ一偏測セシモノニ在テハ一萬分ノ六ヲ限リトス

第六章　製　圖

第五十六條　製圖ハ實測及計算ノ成績ニ因リ地上萬般ノ位置ヲ正確ニ描クモノトス

第五十七條　御料地圖ヲ別ケテ基本圖地形圖及管內圖トス

基本圖ハ三角測量及細形幹部測量ニ基キ調製シタルモノニシテ總テ實測算數ヨリ成リ各種地圖ノ基本トナルモノナリ

地形圖ハ基本圖ニ基キ地形測量ノ成果又ハ參謀本部其他ノ實測圖ニ據リテ之ヲ補充シ以テ御料地內ノ萬象ヲ寫出スルモノナリ

管內圖ハ以上ノ二圖ニ基キ各地方部局ニ於テ管轄スル御料地ノ位置ヲ示スモノナリ

第五十八條　直轄及府縣委託御料地ノ基本圖ニ在リテハ縮尺ノ程度ヲ六百分ノ一乃至三千分ノ一トス

但幅員ノ廣狹及地形ノ狀況ニ據リ便宜小ナル縮尺ヲ用ユルコトアルヘシ

第五十九條　地方部局所轄御料地ノ基本圖ニ在リテハ縮尺ノ程度ヲ五千分ノ一トス

但幅員ノ廣狹及地形ノ狀況ニ據リ便宜大ナル縮尺ヲ用ユルコトアルヘシ

第六十條　地形圖ニ在リテハ縮尺ノ程度ヲ二萬分ノ一トス

但幅員ノ狹小ナルモノハ便宜大ナル縮尺ヲ用ユルコトアルヘシ

第六十一條　管內圖ノ縮尺ハ十萬分ノ一トス

第六十二條　圖骨ハ成ルヘク經緯距ヲ以テ定ムルヲ要ス（第九號雛形）

第六十三條　長六尺幅五尺以內ニ圖入スヘキ幅員ハ一紙面ニ製シ其以上ニ超ルモノハ適宜切圖ト爲スヘシ

但五千分ノ一ノ切圖ハ縱二尺一寸六分（千八百間）橫三尺二寸四分（二千七百間）ノ圖廓トナシ三百間每ニ縱橫線ヲ畫クヘシ（切圖一幅ノ面積ハ千六百二十町歩）

第六十四條　凡ソ切圖ニハ番號ヲ附シ別ニ目錄圖ヲ添ヘ接合ノ便ニ供スヘシ

第六十五條　圖面ハ力メテ北ヲ上トシ文字ハ總テ右方ヨリ左方ヘ水平ニ若ハ上方ヨリ下方ヘ垂直ニ書スヘシ

但切圖ニ限リ必ス子午線若ハ針北ト圖廓ト平行セシムルヲ要ス

第六十六條　地形ノ凹凸ヲ表スルニハ縮尺ノ比例ニ應シ左ノ畫法ニ依ルヘシ

一　六百分ノ一ニ在テハ毛線

二　千分ノ一乃至三千分ノ一ニ在テハ毛線若ハ曲線ニシテ高距二間半每ニ一線

三　五千分ノ一ニ在テハ曲線ニシテ高距五間每ニ一線

四　二萬分ノ一ニ在テハ曲線ニシテ高距十間每ニ一線

其以上ハ適宜ノ線ヲ用ヒテ曲線ヲ畫スヘシ

第六十七條　御料地圖ノ表題ニ記載スヘキ事項ハ大要左ノ如シ（第十三號雛形）

一　御料地名

一　縮尺ノ比例

一　面積

一　方位、尺度

一　實測製圖年月

一　測者製圖者官氏名印

第六十八條　記號ハ第三圖式ニ定ムル者ノ外參謀本部陸地測量部ノ記號ニ據ルモノトス

（圖式並記號說明略）

（備考）明治四十二年三月第一二一九號ヲ以テ右標ヘ彫刻スル文字改定アリ

●測線表調製心得

明治三十四年六月十四日
第四一〇四號主事通牒

一　御料地境界踏査規程第五十一條第二項測線表及圖面ノ調製並ニ其挿入削除其他ノ變更ハ附錄ノ振合ニ依ルモノトス

二　方位ハ分位距離ハ測距儀測量ノ場合ニハ間ノ奇零以下一位尺度測量ノ場合ニハ其二位ニ止ムルモノトス其取捨法ハ施業例規ニ依ル

三　交切點ニ對スル方位及距離ハ左ノ例ニ依リ記入スルモノトス

イ　一點ノ交切點ヲ之ニ隣セル前後ノ兩据器界點ヨリ交切シタル場合ハ据器界點間ノ方位及距離ハ之ヲ省キ後ノ据器界點ヨリ測定シタル方位ハ反方位ニ改メ順次記入スルモノトス

ロ　二點以上ノ交切點ヲ前後ノ兩据器界點ヨリ交切シタル場合ハ据器界點ト直接ニ界線ニ依リ連結シタルモノハ其方位及距離ヲ記入シ否ラサルモノハ標識ノ堅固ナル點ヨリ測定シタル方位及距離ヲ記入スルモノトス但標識ノ種類同一ナル場合ハ先位ノ點ヨリ測定シタルモノヲ記入スヘシ

四　支距ヲ記入スルニハ其支距點番號ハ之ニ括弧ヲ附スルモノトス

五　支距ノ橫測距ハ其支距點カ測量進路ノ右方ニ在ルモノハ正（＋）左方ニ在ルモノハ負（－）ノ符號ヲ附加シテ記入スルモノトス

六　幅員一定セル道路、水流、堤塘、溝渠及用水路等ハ其中心點間又ハ片側界點間ノ方位及距離ヲ境界測線欄ニ記入シ其旨ヲ記事欄ニ附記スルモノトス但其中心點ノ番號ハ界點番號ニCノ記號ヲ附加シタルモノヲ以テ之ニ充ツ

七　既定點ヨリ御料地飛地又ハ御料地內孕在地ヘノ繼續線ハ之ヲ表及圖面ニ掲載スルヲ要ス但二以上ノ既定點ヨリ測定シタル場合ハ其一線ヲ選ミテ掲載スルモノトス

八　御料地飛地、御料地內孕在地、行政區界、河川及道路其他界點ノ少數ナルモノ二ケ所以上ヲ表及圖面一頁ニ併載シタル場合ハ之ニ區畫ヲ設クルモノトス

九　圖面一頁ノ點數ハ表一頁ノ點數ト一致スルヲ要ス

十　圖面ノ縮尺ハ二千五百分ノ一ヲ標準トスルモ止ムヲ得サル場合ニ限リ倍加又ハ倍減ノ縮尺ヲ用ユルモ妨ナシ

十一　圖面ハ可成上方ヲ北トシ其子午線ハ紙面ノ方眼ト平行セシムルヲ要ス

十二　圖面ハ測量手簿見取圖ヲ謄寫セス方位及距離ヲ算出シタル上更ニ描畫スルモノトス

十三　第六項ニ掲クル地物ノ中心點間ノ方位及距離ヲ記入スル場合ハ其幅員五間以內ナルモノニ限リ之ヲ圖面ニ描畫スルニ當リ特ニ其幅員ニ對シ大ナル縮尺ヲ用ユルモ妨ナシ但シ其旨ヲ表ノ記事欄ニ附記スルヲ要ス

右ノ場合ニ於テハ其幅員ノ縮尺ハ第十項ノ規定ニ依ルヲ要セス

十四　圖面中界點間ノ距離短クシテ界線ノ形狀判明ナラス又ハ記事ノ記入ニ不便ナル部分ハ其圖幅內ニ分解圖ヲ描畫スルモノトス此場合ニ於テハ其分解圖ノ縮尺ハ第十項ノ規定ニ依ルヲ要セス

十五　界線ノ形狀ニ因リ圖幅ニ不足ヲ生スル場合ハ界線ヲ適宜ニ分割シテ數列ニ描畫スルモ妨ナシ但此場合ニ於テハ圖幅ニ區畫ヲ設クルヲ要ス

十六　倍減ノ縮尺ヲ用キ及前二項ノ方法ニ依ルモ尙ホ圖幅ニ不足ヲ生スル場合ハ貼紙ヲ爲シ之ヲ補足スルモ妨ナシ但其貼紙ハ一頁ヲ限トス

十七　表ハ總テ黑色ヲ以テ記入スルモノトス

十八　圖面ハ「インキ」ヲ用キス總テ繪具ヲ以テ描寫スルモノトス

十九　表及圖面ノ調製區分ハ踏査員ニ於テ調製スル境界簿ト一致スルヲ要ス

其頁數ハ雙方通シテ附スルヲ要ス

二十　圖面ノ諸記事ハ御料地名及界點番號ヲ除クノ外測量員ニ於テ記入スルヲ要セス

二十一　踏査員ヨリ受取リタル御料地境界見取圖ハ使用ノ後踏査員ニ返付スルモノトス

●御料地測量簿調製ノ件

明治二十七年十二月二十八日第四六五六號局長達

各種測量手簿ハ之ヲ境界内部ノ兩部ニ分チ御料地測量簿トシ別冊之通リ編成スヘシ

（別冊）

編成ノ順序

一　索引

二　實測手簿（測量規程第六號雛形若ハ第九號雛形ヲ用ユ）

三　經緯距算定表（測量規程第九號雛形ヲ用ユ）

四　面積算定表（測量規程第十號雛形ヲ用ユ）

五　高程算定表（測量規程第七號雛形ヲ用ユ）

年月日　主任官氏名印

○官有地丈量積算法ノ件

明治二十五年一月十八日滋甲第一一〇號内務大臣ヨリ大臣へ通牒

官有地丈量積算法ハ從來一定ノ規程無之候ニ付自今郡村地ハ反別ニテ歩位ニ止メ市街宅地ハ坪數ニテ勾位ニ止メ候事ニ一定致候間以來右樣御取扱相成度

（備考）本文通牒ノ趣旨同年同月二十二日第一五三ノ二號ヲ以テ主事ヨリ地方部局へ通牒

●御料地丈量積算法ノ件

明治二十六年五月二日第一六五六號ノ甲局長ヨリ本局及地方部局へ達

御料地調査若ハ幾部除却ノ際ニ於テ丈量求積ヲ要スル節ハ自今全部ノ積算上ニ於テ反別ヲ用ユル者ハ壹歩未滿ヲ切捨テ坪數ヲ用ユル者ハ壹勺未滿ヲ切捨ツル儀ト心得可シ

但計算中ニ於ケル毎得數ノ小數ハ總テ之ヲ存シ全部積算上ニ於テ本文ノ方法ニ據ルモノトス

○御料地ト國有林野トノ境界測量ノ件

明治三十五年二月十五日34第七一九三ノ三號局長ヨリ地方部局へ達

御料地ト國有林野トノ境界測量ノ義ニ付今般本省大臣ト農商務大臣トノ間ニ左ノ通協定相成候條自今右ニ據リ施行スヘシ

一　御料局地方部局又ハ大林區署ニ於テ御料地ト國有林野トノ境界ヲ査定セントスル場合ハ其著手ヨリ凡ソ十五日以前ニ於テ他ノ一方ヘ其旨ヲ通知シ立會ヲ請求スル事査定ノ後新ニ界標ヲ增置スル場合亦同シ

二　御料地ト國有林野トノ終始ノ界點ニハ石標ヲ設置スル事

三　御料地ト國有林野トノ界線ト國、郡、市、町、村界線トノ觸接點交叉點竝ニ分水嶺境界線ノ終始點ニハ石標又ハ其他ノ堅固ナル界標ヲ設置スル事

四　第二項第三項及ヒ其他ノ保存點ノ前後界點中ノ一點ニハ其保存點ニ設置スヘキ界標ト同種類ノ界標ヲ設置スル事

五　前項ノ場合ニ於テ其保存點ト前後界點トノ距離丈メテ接近セル場合ハ保存點ヨリ見透シ得ヘキ他ノ界點ヲ選ム事

六　測量著手ノ時期ハ著手前ニ於テ其終了ノ時期ハ終了ノ後遲滯ナク他ノ一方ヘ通知スル事

七　測量終了ノ箇所ニ對スル境界點間ノ方位及ヒ距離、境界點ノ縱橫距（縱橫線）及高程、三角點ノ成果（參謀本部設置ニ係ルモノハ此限ニ在ラス）、實測圖等其測量ノ成果ハ他ノ一方ノ請求ニ依リ之ヲ送付スル事

八　御料地ト國有林野トノ境界測量濟ノ後他ノ一方ニ於テ其界線ニ繼續セル他ノ所有地トノ界線ヲ測定セントスル場合ハ前測量ニ於ケル既設點ノ成果ヲ其測量ノ基準トスル事

●同上ノ件

明治三十五年三月七日34第七一九三ノ四號主事ヨリ地方部局長へ通牒

客月十五日付第七一九三ノ三號ヲ以テ御達相成候御料地ト國有林野トノ境界測量之義ハ從來本省ト農商務省ニ於テ各自施行致シ來リ相互重複ノ事業ニ陷シ候ニ付自今便宜ノ爲メ一方ニ於テ施行濟ノ箇所ハ他ノ一方ニ於テハ實地ノ測量ヲ省キ前者ノ設置シタル點及其成果ヲ既定件トシテ襲用スルコトニ御協定相成從テ其界標設置之方法等御達條項ノ通リ確定致候

●御料地三角點石標ヘ彫刻スル文字ノ件

明治四十二年三月八日第一二一九號長官へ伺定

御料地三角點標識ハ石標ノ前面ニ御料局三角點ノ六字ヲ彫刻スルノ例ニ有之候處昨年一月官制改正ニ依リ舊局名ニ代フルニ新局名ヲ用ユル義ニ候得共石標ノ如キハ全長ノ五分ノ四ヲ地下ニ埋ムルノ規程ナレハ帝室林野管理局其他ノ文字ヲ悉ク地上ニ顯ハシ一見シ易キ樣彫刻相成